



2.4GHz SS無線通信LANカード **SL-11**

付属CD-ROMのインストールマニュアルでインストールを行うと便利です。



安全上のご注意

1

ご使用前に

2

本製品を取り付けるには

3

ドライバーのインストール

4

無線ネットワークへの接続準備

5

無線通信モードの設定

6

設定ユーティリティを使うには

7

ご参考に

8

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、周波数2.4GHz帯を使用して、直接スペクトラム拡散(DS-SS)方式による近距離の超高速データ伝送を行うPCカードスロット用無線通信LANカードです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、未長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要な事項をご記入いただき、必ずご返送ください。

ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom.Inc、iCOMは、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本製品の概要について

財団法人 テレコムエンジニアリングセンターの技術基準適合証明を取得していますので、無線局の免許は不要です。

電波方式として直接スペクトラム拡散方式を採用していますので、雑音や妨害に強く、データの安定性、秘匿性に優れています。

11Mbpsの通信速度に対応した無線通信に対応しています。

拡張スロット(PCMCIA type)が装備されたコンピューター、または弊社製のアクセスポイントやルーターに装着できます。

WEPによる暗号化処理など、高度なセキュリティー機能により、データの安全性を確保します。

標準構成品

本製品には、下記のものを同梱しています。

- 無線通信LANカード本体 1
- CD-ROMディスク 1
(ドライバー、Utility、PDFマニュアル)
- 取扱説明書(本書)
- 電波干渉注意シール
- ユーザーサポート用愛用者カード
- 保証書

お手もとの商品について、ご確認していただき、不足しているものがございましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。

はじめに

動作環境について

対応OS	Windows95(OSR2以降) Windows98(Second Edition含む) Windows Millennium Edition WindowsNT4.0(Service Pack3以降) Windows2000
PCMCIA	PCカードスロット(PCMCIA type)を装備するコンピューター
Utility	次のOSに対応します。 Windows98(Second Edition含む) Windows Millennium Edition WindowsNT4.0(Service Pack3以降) Windows2000

表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

「 」表記...オペレーションシステム(OS)、ユーティリティー、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「」)で囲んで表記します。

[]表記...タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([])で囲んで表記します。

表記...ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を()で囲んで表記します。

Windows98の説明で、特に限定して表記のない部分は、Second Edition(以後、SEと表記)、Windows Millennium Edition(以後、Meと表記)の内容を兼ねています。

「☞CD-ROM」は、CD-ROMの参照ページを指します。

ご使用までの流れ

本製品を使って無線ネットワークに接続するには、次のステップにしたがって、設定する必要があります。

各ステップの右に記載の数字は、本書の参照ページ数です。最低限必要な設定は、このページ数にしたがって設定を進めてください。

ステップ1

運用形態を確認する 3

ステップ2

本製品を取り付ける 7

ステップ3

本製品のドライバーをインストールする

Windows98(SEを含む)9

Windows Me13

Windows200019

ステップ4

ネットワーク環境へ接続するための設定 21

ステップ5

無線通信モードの設定 28

ステップ6

本製品の取り外し 39

設定ツール

設定ユーティリティを使うには 31

Windows95/NT4.0、および本書の詳しい内容についてお知りになりたいかたは、本製品のCD-ROMに収められているPDF形式の取扱説明書をご覧ください。

PDF形式の取扱説明書をご覧になるには、「Acrobat Reader(日本語版)」が必要です。

本製品のCD-ROMには、「Acrobat Reader(日本語版)」が収録されていますので、ご利用ください。

はじめに

Auto Run機能について

本製品のCD-ROMディスクは、Auto Runするようになって
いますので、CD-ROMディスクをご使用のCD-ROMドライ
ブに挿入すると、自動的に設定ユーティリティーのメニュー
画面が表示されます。

設定ユーティリティーをインストールするとき以外は、一旦
終了 ボタンをクリックして、メニュー画面を終了させてく
ださい。

電波法上のご注意

本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造してい
ます。したがって、日本国外で使用された場合、本製品
およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、そ
の国の法令に抵触する場合がありますので、使用できませ
ん。無線通信LANカードは、電気通信端末機器の適合認定
を受けた弊社製品を、ご使用ください。

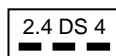
上記以外の無線通信LANカードを使用して、公衆電話
回線に接続することは、法律で禁じられています。

カード本体には、右図のような技適証明マークと技適証
明番号および認定番号が印刷され
たシールが貼られていることを確
認してからご使用ください。



T xxx-xxxxxx
R xxx-xxxxxx

本製品のシリアルナンバーシール
に、右図のようなシールが貼られ
ているときは、ご使用の前に、必
ず次ページの「電波干渉に関する
ご注意」をお読みください。



無線通信チャンネルについて

本製品では、[DS チャンネル](☞P37)と表記されています。

この設定を14チャンネル以外でご使用になるときは、必ず次に示す「電波干渉に関するご注意」をお読みください。

工場出荷時、[DS チャンネル]は、「7」に設定されています。

電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

- 1.この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2.万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
- 3.その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サービス課 06-6792-4949

はじめに

取り扱い上のご注意

コンピュータおよびその他の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。

本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。本製品のドライバーおよび設定ユーティリティーは、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の改変や分解したことによる障害、および故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。

本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

第1章	安全上のご注意(必ずお読みください。)	1
第2章	ご使用の前に	3
	2-1.本製品でできること	3
	2-2.各部の名称と機能	4
第3章	本製品を取り付けるには	5
	3-1.取り付ける前に確認する	5
	ドライブ名の確認	5
	PCカードドライバーの確認	6
	3-2.本製品を取り付ける	7
	ノート型コンピューターに取り付ける	8
	デスクトップ型コンピューターに取り付ける	8
第4章	ドライバーのインストール	9
	4-1.Windows98(SEを含む)編	9
	4-3.Windows Me編	13
	4-4.正しくインストールされているか確認する.....	16
	4-6.Windows2000編	19
第5章	無線ネットワークへの接続準備	21
	5-1.「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーク クライアント」の確認	21
	5-2.「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加	22
	5-3.「TCP/IP」の設定	23
	5-4.「コンピュータ名」、「ワークグループ名」の設定	26
	5-5.「共有フォルダー」の設定.....	27
第6章	無線通信モードの設定	28
	6-1.インフラストラクチャーモードで無線通信する.....	28
	6-2.無線ネットワークへの接続を確認する.....	30

もくじ

第7章 設定ユーティリティを使うには 31

- 7-1. 設定ユーティリティとは..... 31
- 7-2. インストールのしかた..... 31
- 7-3. 起動のしかた..... 33
- 7-4. 基本機能を設定する..... 34

第8章 ご参考に 39

- 8-1. 本製品を取り外すには..... 39
- 8-2. 故障のときは..... 40
- 8-3. 定格..... 41

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをする
と「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

本製品の取り付けや取りはずし、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手の届かない場所で行ってください。

けが、感電の原因になります。

本製品のコネクター部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

水や海水につけたり、ぬらさないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。

感電の原因になります。

万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐにコンピューターの電源スイッチを切り、本製品を取りはずしてください。

煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

1 安全上のご注意



注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをする
と「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的
損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

本製品をコンピューターに差し込むときは、本製品の裏と表をまちがえないように十分注意してください。

故障の原因になることがあります。コンピューターを運用中に、取扱説明書の指示を無視して、本製品を取りはずさないでください。

故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。

OSの起動中は、本製品を取りはずしたり、取り付けたりしないでください。

故障の原因になることがあります。長時間、本製品を使用しないときは、安全のためコンピューターから本製品を取りはずしてください。発熱、発火、故障の原因になることがあります。

湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。

火災、感電、故障の原因になることがあります。

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。

けが、故障の原因になることがあります。

本製品の上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。

故障の原因になることがあります。テレビやラジオの近くで使用しないでください。

電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

本製品を取り付けたコンピューターをぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。

普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度がコンピューターの取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

2-1 本製品でできること

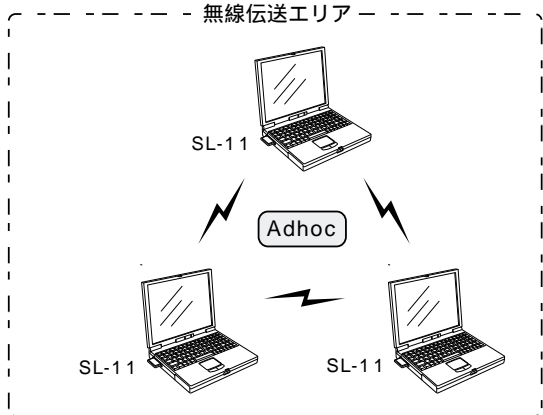
本製品は、ご使用の環境によって、次のどちらかの接続形態が選べます。

工場出荷時は、インフラストラクチャーモードに設定されています。

コンピューター同士で無線通信する：「アドホック」モード

本製品を装着するコンピューターだけで無線ネットワークを構築するとき使用します。

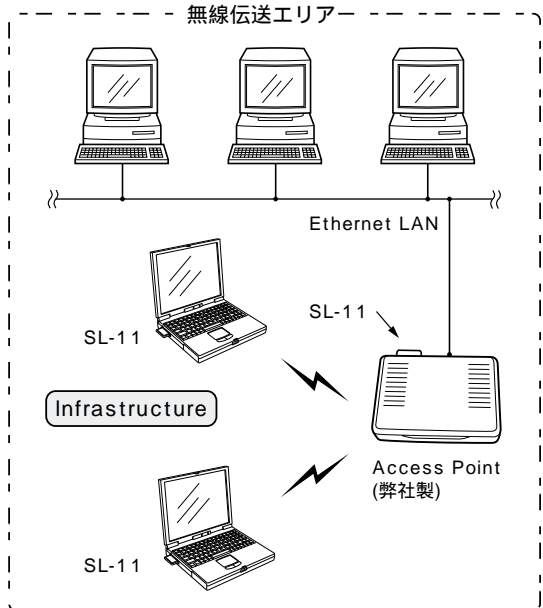
最大40～50台を同じ無線ネットワークグループとして接続できますが、頻繁に通信をするような環境では、接続台数を10台以下にすることをおすすめします。



アクセスポイントと無線通信する：「インフラストラクチャー」モード

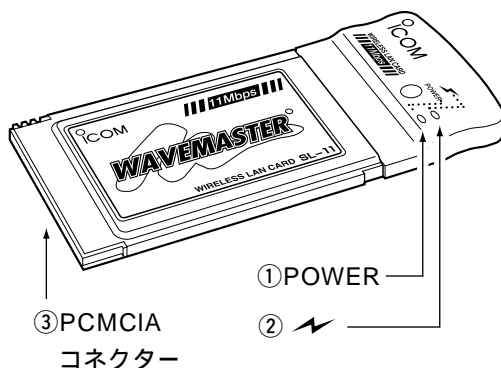
本製品を装着するコンピューターから弊社製アクセスポイントにアクセスして、無線と有線が混在するネットワークを構築するとき使用します。

同じ無線ネットワークグループとして接続できる台数は、ご使用になる弊社製アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。



2 ご使用の前に

2-2 各部の名称と機能



① POWER PCMCIAコネクターから電源が供給されているとき点灯します。

② ⚡ 通信する相手に電波が届くと点灯します。
該当する通信相手が認識できなかったり、無線伝送エリア外に移動したりすると、点滅します。

③ PCMCIA
コネクター コンピューター本体に装備されたPCカードスロットに接続する端子です。
金属片やゴミがコネクターに付着していないことを確認してから装着してください。

ご参考に
本製品は、PCMCIAの5.0V仕様に対応します。
現在市販のどのコンピューターにも装着してご使用いただけます。

3-1 取り付ける前に確認する

ドライブ名の確認

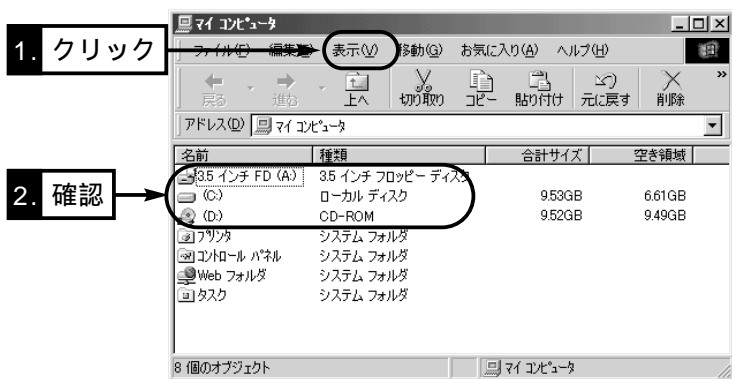
本製品のドライバーをコンピューターにインストールするとき指定するドライブ名が、ご使用の環境によって本書の説明で使うドライブ名と異なることがありますので、次のWindows98の手順を例に確認しておくことをおすすめします。本書の説明で使うドライブ名とご使用のコンピューターのドライブ名とが異なる場合は、下記の手順で確認したドライブ名に置き換えてお読みください。

【確認の手順】

1. デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
2. 下記画面で、[表示(V)]メニュー [詳細]の順に操作します。

ここで確認するCD-ROMディスクのドライブ名は、以降の説明で必要になりますので、メモなどに書きとめておいてください。

本書では、フロッピーディスクドライブ名を「A」、CD-ROMドライブ名を「D」とした例を説明しています。



3. 次ページの「PCカードドライバーの確認」に進みます。

3 本製品を取り付けるには

3-1 取り付ける前に確認する(つづき)

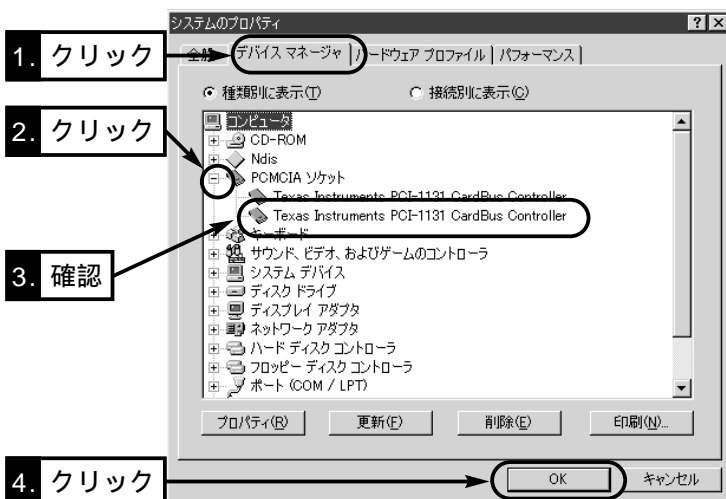
PCカードドライバーの確認

本製品を取り付けてドライバーをインストールする前に、32ビットPCカードドライバーの状態を、次のWindows98の手順を例に確認してください。

PCMCIAカードアダプターを標準装備しないコンピューターは、特に注意してください。

【確認の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.「コントロールパネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3.[デバイスマネージャ]タブ 「PCMCIAソケット」の[+]をクリックします。
「PCMCIAソケット」の中に表示されるデバイスのアイコンに「!」や「x」マークが付いていないことを確認します。
「PCMCIAソケット」の中に表示されるデバイス名は、コンピューターによって異なります。
- 4.«!」や「x」マークが付いていなければ、OK をクリックして画面を閉じます。
次ページの「3-2 本製品を取り付ける」(P 7)に進みます。



「PCMCIAソケット」の中に表示されるデバイス名に「!」や「x」マークが付いている場合は、ご使用のPCMCIAカードアダプターに付属する取扱説明書にしたがって、PCカードドライバーをインストールし直してください。

3-2 本製品を取り付ける

ご使用のコンピューターによって本製品を取り付けるPCカードスロットの位置が異なりますので、コンピューターの取扱説明書の指示にしたがってください。

【ご注意】コンピューターの「パワーマネージメント機能」をご使用の場合 Windows95/NT4.0をご使用の場合は、パワーマネージメント(電源の管理)機能を無効にしてから、本製品をご使用ください。

パワーマネージメント機能とは、コンピューターを操作しない状態が一定時間以上続くと、自動的にコンピューターの電源を切る機能です。

詳しくは、お使いのOSのヘルプをご覧ください。

【ご注意】PCカードスロットを2つ装備するコンピューターをご使用の場合 本製品は、内蔵アンテナ部分が突き出ています。そのためPCカードを2枚装着する場合、上側のPCカードスロットにほかのPCカードが装着できなくなることがあります。

このようなときは、本製品を上側のPCカードスロットに装着してご使用ください。

【ご参考に】

Windows95/98/2000/Meをご使用の場合は、OSが「Plug and Play」に対応していますので、コンピューターのOSが起動した状態で本製品を装着できます。

WindowsNT4.0をご使用の場合は、必ずコンピューターの電源を切ってから本製品を装着してください。

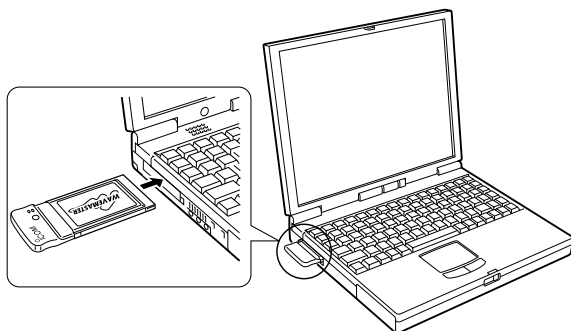
3 本製品を取り付けるには

3-2 本製品を取り付ける(つづき)

ノート型コンピューターに取り付ける

本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに、WAVEMASTERのシールが貼られた面を上にして挿入します。なお、メーカーによっては異なることがありますので、ご注意ください。

コンピューターから電源が供給されると、[POWER]ランプが点灯します。



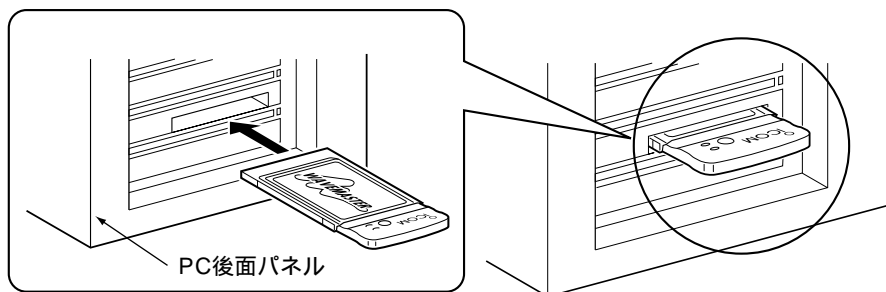
本製品が装着できたら、「4 ドライバーのインストール」(P 9)に進みます。

デスクトップ型コンピューターに取り付ける

本製品をデスクトップ型コンピューターに取り付けるには、PCMCIAカードアダプターが装備されている必要があります。

装備されていないときは、あらかじめ取り付けておく必要があります。

コンピューターから電源が供給されると、[POWER]ランプが点灯します。



本製品が装着できたら、「4 ドライバーのインストール」(P 9)に進みます。

4-1 Windows 98 (SEを含む)編

本製品のドライバーをコンピューターにインストールする操作の説明です。

ドライバーとは、本製品の駆動(ドライブ)に必要なソフトウェアを意味します。

ご使用になるOSによって、インストールするドライバーが異なります。また、ご使用のコンピューターによっては、画面構成や手順が一部内容と異なる場合があります。

本製品のドライバーは、本製品のCD-ROMディスクに収められています。

【ご注意】 ドライバーのインストールを行う前に、「3-1 取り付ける前に確認する」(☞P 5)で、ご使用になるコンピューターのディスクドライブ名を確認してください。

【インストールの手順】

1. 本製品を「3-2 本製品を取り付ける」(☞P 7)の説明にしたがって取り付けると、コンピューターが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。



2. 次の画面が表示されたら、本製品のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ [D:] (以後CD-ROMドライブをDとする) に挿入して、次へ をクリックします。

CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作したときは、終了 ボタンをクリックします。

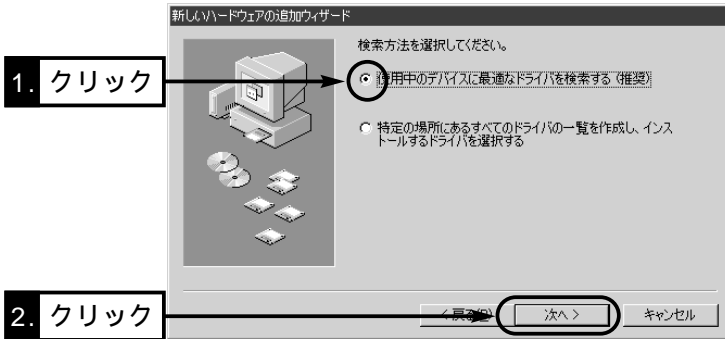


4 ドライバーのインストール

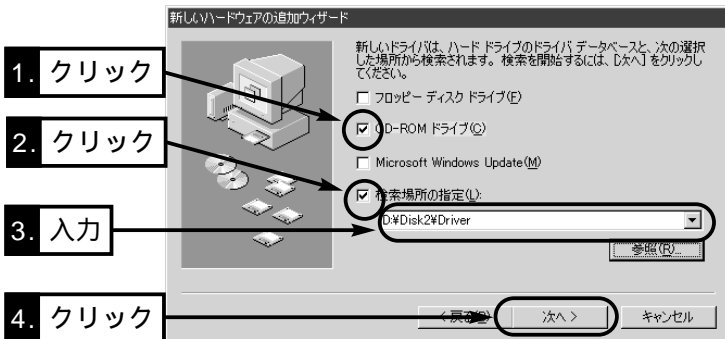
4-1 Windows98(SEを含む)編

【インストールの手順】(つづき)

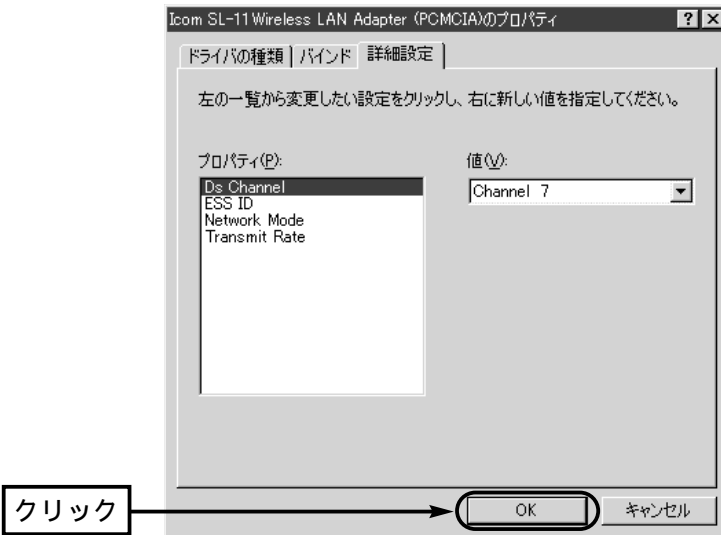
3.[使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]のチェックボックスにチェックを入れて、次へ をクリックします。



4.[CD-ROMドライブ(C:)]のチェックボックスにチェックを入れて、本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのCD-ROMドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Disk2¥Driver)してから、次へ をクリックします。



- 5.画面の指示にしたがって操作すると、本製品のプロパティ画面を表示します。
 設定は、あとからでも行えますので、そのまま OK をクリックします。
 設定項目について詳しくは、「6 無線通信モードの設定」(P 28)と「7 設定ユーティリティを使うには」(P 31)で説明します。
 本製品のCD-ROMに収められた設定ユーティリティをインストールして設定を行うことも可能です。

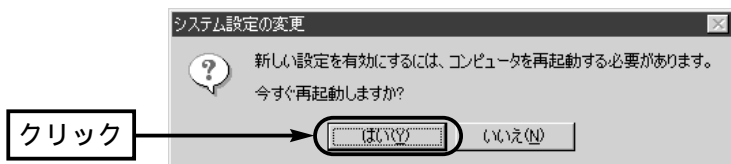


4 ドライバーのインストール

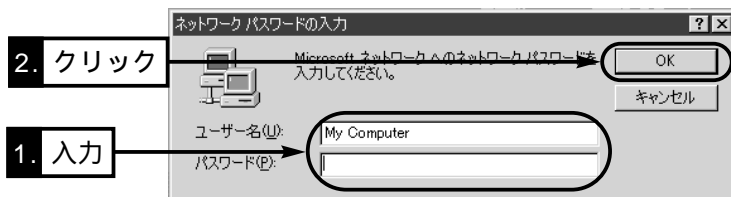
4-1 Windows98(SEを含む)編

【インストールの手順】(つづき)

6. 次の画面が表示されたら、本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクをCD-ROMドライブから取り出して、はい(Y) をクリックします。コンピューターが再起動すると、インストールは完了です。



7. 再起動後、次の画面が表示されたときは、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をテキストボックスに入力してから、OK をクリックします。



8. 「4-3 正しくインストールされているか確認する」(⇒P 16)に進みます。

4-2 Windows Me編

本製品のドライバーをコンピューターにインストールする操作の説明です。

ドライバーとは、本製品の駆動(ドライブ)に必要なソフトウェアを意味します。

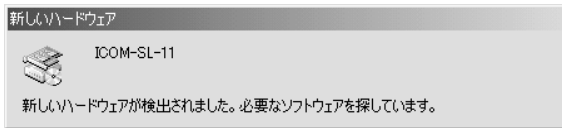
ご使用になるOSによって、インストールするドライバーが異なります。

本製品をWindows Meでご使用になる場合のドライバーは、本製品のドライバーは、本製品のCD-ROMディスクに収められています。

【ご注意】 ドライバーのインストールを行う前に、「3-1 取り付ける前に確認する」(☞P 5)で、ご使用になるコンピューターのディスクドライブ名を確認してください。

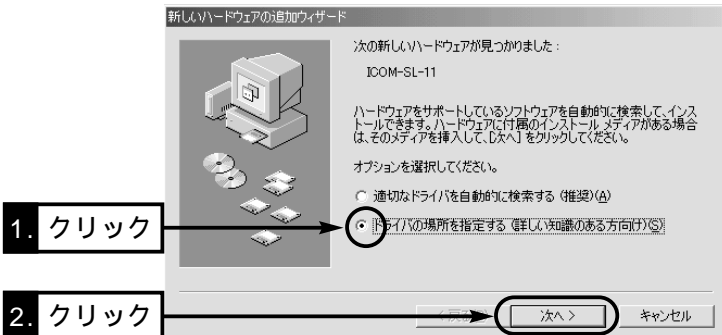
【インストールの手順】

1. 本製品を「3-2 本製品を取り付ける」(☞P 7)の説明にしたがって取り付けると、コンピューターが自動的に認識して、次の画面を表示します。



2. 次の画面が表示されたら、本製品のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ [D:] (以後CD-ROMドライブをDとする) に挿入します。さらに、[ドライブの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)(S)]のチェックボックスにチェックを入れて、次へ をクリックします。

CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作したときは、終了 ボタンをクリックします。

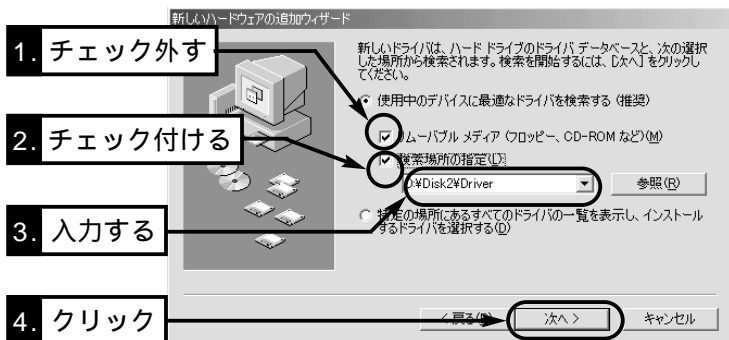


4 ドライバーのインストール

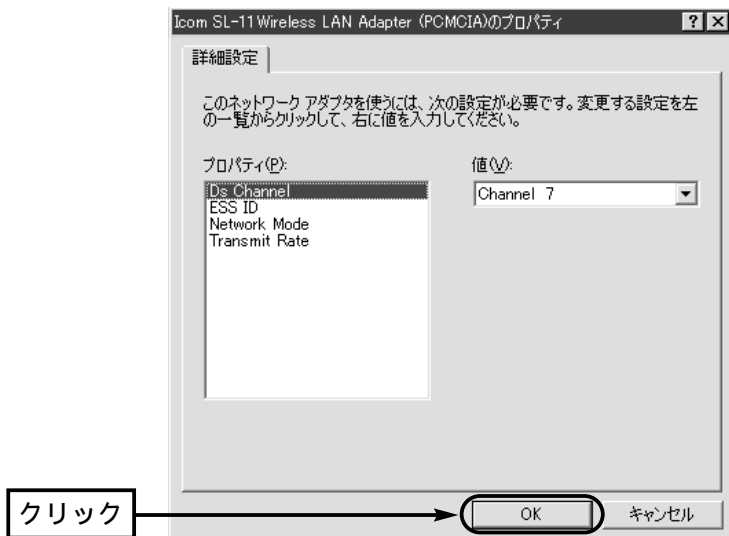
4-3 Windows Me 編

【インストールの手順】(つづき)

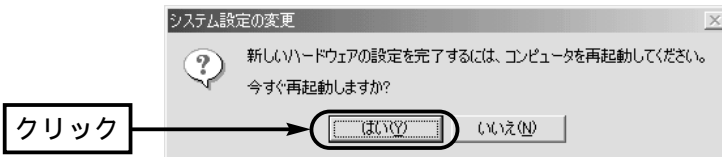
3. [リムーバブル メディア(フロッピー、CD-ROMなど)(M)]のチェックボックスにチェックを入れて、本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのCD-ROMドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Disk2¥Driver)してから、次へ をクリックします。



4. 画面の指示にしたがって操作すると、本製品のプロパティ画面を表示します。設定は、あとからでも行えますので、そのまま OK をクリックします。設定項目について詳しくは、「6 無線通信モードの設定」(⇨P 28)と「7 設定ユーザーリティーを使うには」(⇨P 31)で説明します。



5. 次の画面が表示されたら、本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクをCD-ROMドライブから取り出して、はい(Y) をクリックします。
 コンピューターが再起動すると、インストールは完了です。



6. 再起動後、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]の入力を求められたときは、その画面にしたがって操作してください。

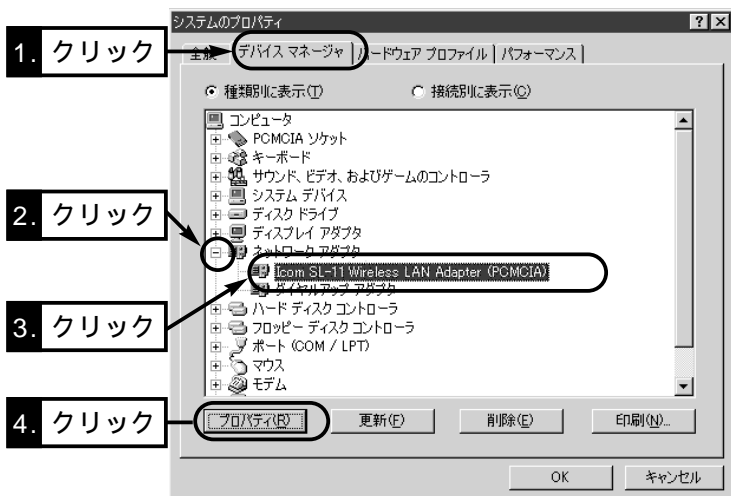
4 ドライバーのインストール

4-3 正しくインストールされているか確認する

Windows95/98を例に、ドライバーのインストール後、本製品が正常に動作していることを確認する手順を、説明します。

【確認の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.「コントロール パネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3.[デバイスマネージャ]タブ 「ネットワークアダプタ」の[+]をクリックします。
「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。
 - ドライバーが正しくインストールされていると、「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」を、画面のように表示します。



「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」のアイコンに「!」や「x」マークがついていたり、「? その他のデバイス」という項目に「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」が表示されているときは、「10-1 トラブルシューティング(Windows95/98環境でのトラブル)」(CD-ROM)をご参照ください。

4.[デバイスの状態]欄に、「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認します。

表示されていれば、本製品は正常に動作していますので、OK をクリックすると、手順3.の画面に戻ります。

表示されないときは、「10-1 トラブルシューティング(Windows95/98環境でのトラブル)」(CD-ROM)をご参照ください。



5.手順3.の画面で、OK をクリックします。

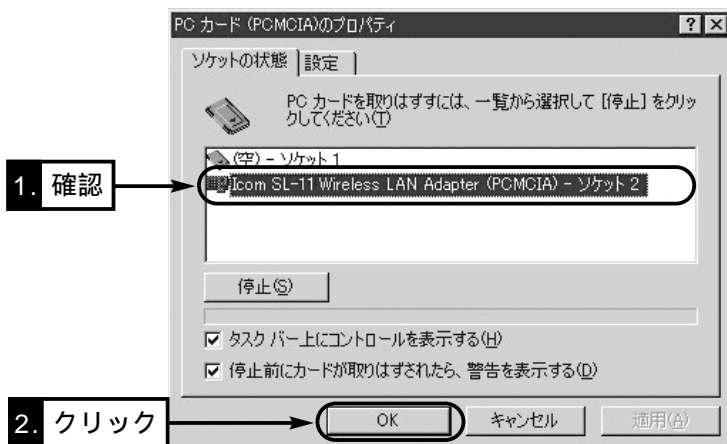
4 ドライバーのインストール

4-3 正しくインストールされているか確認する

【確認の手順】(つづき)

6.手順1.で操作した「コントロールパネル」画面の中から、[PCカード (PCMCIA)]アイコンをダブルクリックすると、次の画面を表示します。

「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」が表示されていることを確認できれば、本製品は正常に動作していますので、OK をクリックします。



本製品が正常に動作しているときは、「5 無線ネットワークへの接続準備」(P 21)に進みます。

4-4 Windows2000編

本製品のドライバーをコンピューターにインストールする操作の説明です。
本製品のドライバーは、本製品のCD-ROMディスクに収められています。

【ご注意】ドライバーのインストールを行う前に、「3-1 取り付ける前に確認する」(P5)を参考に、ご使用になるコンピューターのディスクドライブ名を確認してください。

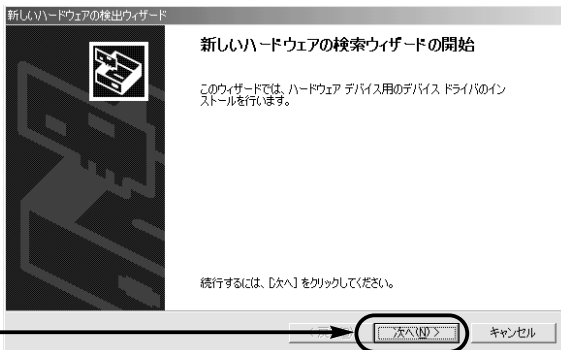
【インストールの手順】

- 1.コンピューターの電源を入れます。
 - 「ログオンの開始」画面を表示します。
- 2.Administrator権限でログオンして、「3-2 本製品を取り付ける」(P7)の説明にしたがって本製品を取り付けると、コンピューターが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。



- 3.次の画面が表示されたら、本製品のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ [D:](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入して、次へ をクリックします。

CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作したときは、終了 ボタンをクリックします。

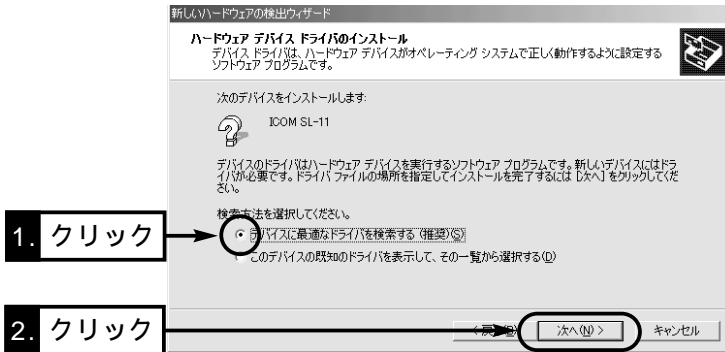


4 ドライバーのインストール

4-4 Windows2000編

【インストールの手順】(つづき)

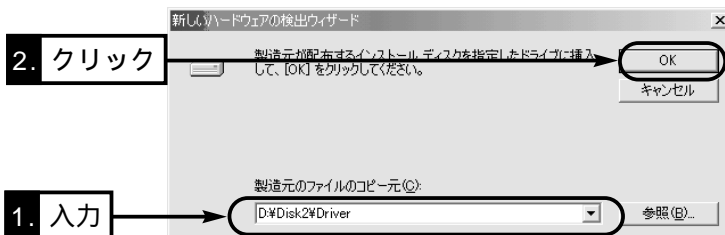
- 4.[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)(S)]のチェックボックスにチェックを入れて、次へ(N) をクリックします。



- 5.[CD-ROMドライブ(C:)]のチェックボックスにチェックを入れてから、次へをクリックします。



- 6.本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのドライブ名「D:」とそのフォルダーを指定(D:¥Disk2¥Driver)してから、OK をクリックします。



- 7.画面の指示にしたがって操作を続けると、インストールが完了します。

本製品を装着するコンピューターが、構築されたネットワーク上の資源を共有するために必要な設定および確認の手順を、Windows95/98を例に説明します。

ほかのOSおよびその詳細については、OSのガイド等でネットワークに関する説明をご覧ください。

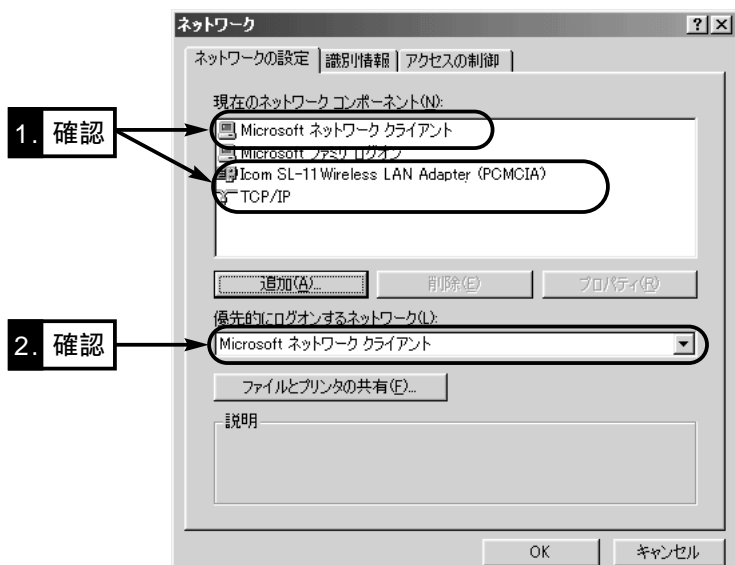
5-1 「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーククライアント」の確認

【確認の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認すれば、「5-2 Microsoft ネットワーク共有サービスの追加」(P 22)に進みます。

Windows98をお使いのかたは、[優先的にログオンするネットワーク(L)]が、「Microsoft ネットワーククライアント」となっていることを確認してください。

「ネットワーク」画面の中に、本製品以外のネットワークアダプターも一緒に組み込まれている場合、下記の画面で本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」と表示されますので、これを確認してください。

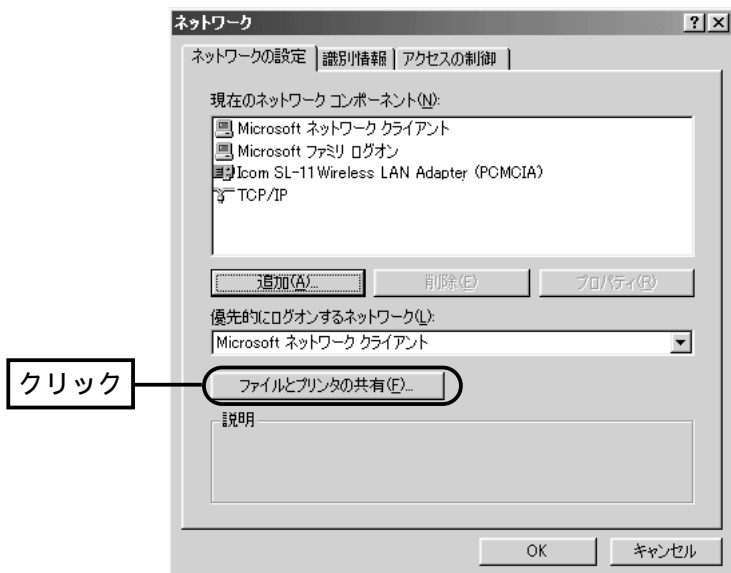


5 無線ネットワークへの接続準備

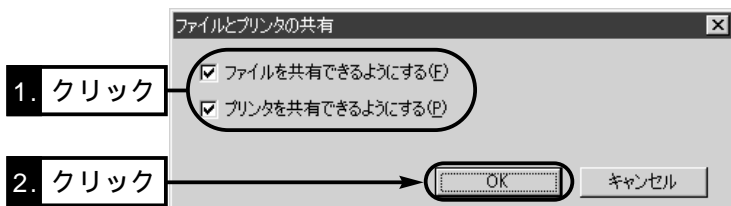
5-2 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

【追加の手順】

1. 「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーククライアント」の確認(⇨P 38)のとき開いた画面から、**ファイルとプリンタの共有(E)...** をクリックします。



2. [ファイルを共有できるようにする(E)]と[プリンタを共有できるようにする(E)]の両方のチェックボックスにチェックを入れてから、**OK** をクリックします。



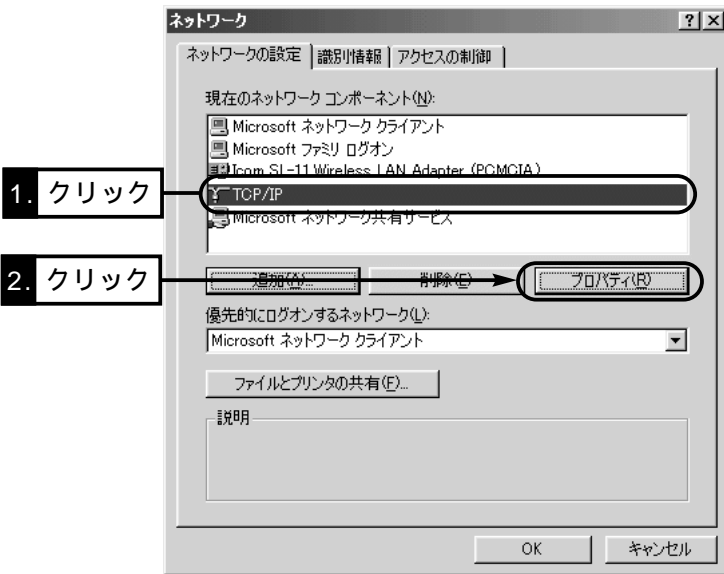
3. 手順1.の画面の中に、「Microsoft ネットワーク共有サービス」が追加されていることを確認すれば、「5-3 TCP/IPの設定」(⇨P 23)に進みます。

5-3 「TCP/IP」の設定

【設定の手順】

1. 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加(⇒P 22)のとき開いた画面から、「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。

「ネットワーク」画面の中に、本製品以外のネットワークアダプターも一緒に組み込まれている場合は、本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」と表示されますので、これをクリックしてください。



2. アドホックモード(⇒P 3)で使用する場合は、手順3.と手順5.の設定を行います。

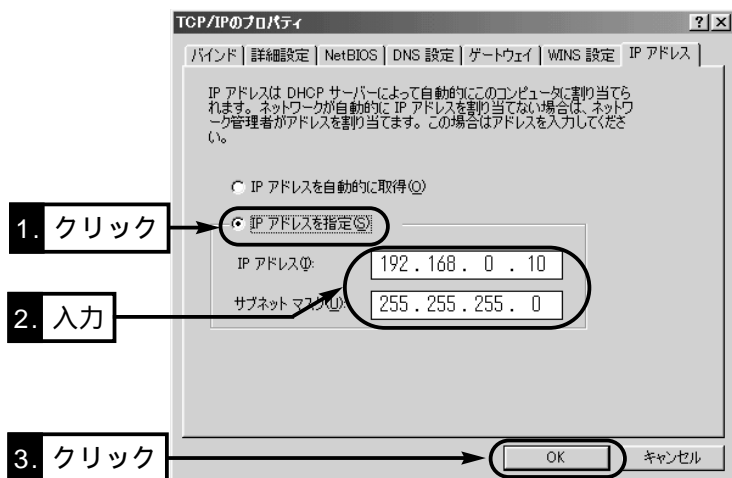
インフラストラクチャーモード(⇒P 3)で使用する場合は、手順4.と手順5.の設定を行います。

5 無線ネットワークへの接続準備

5-3 「TCP/IP」の設定

【設定の手順】(つづき)

- 3.[IPアドレスを指定(S)]のオプションボタンをクリックするとチェックマークが入りますので、[IPアドレス(I)]と[サブネットマスク(U)]を入力してから、OK をクリックします。



【IPアドレスの指定について】

- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのコンピューターのIPアドレスは、重複しないように設定してください。
- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのコンピューターのサブネットマスクは、同じ値を設定してください。
- インターネットに接続する環境を持たないで通信するような小規模なネットワーク(253台まで)の場合、プライベートアドレスとして192.168.0.0 ~ 192.168.255.255を使用します。なお、192.168.0.0(ネットワークアドレス)と192.168.0.255(ブロードキャストアドレス)は、特別なアドレスとして扱われますので、コンピューターには、割り当てないでください。

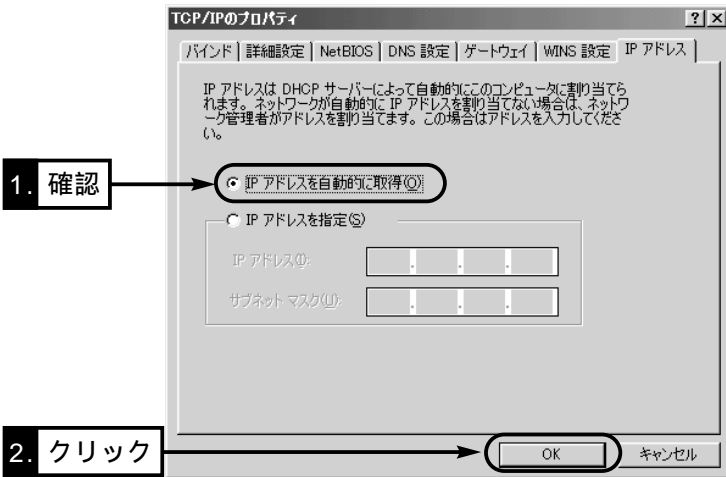
3台のコンピューターで通信する場合の例は、以下のようになります。

コンピューターA：192.168.0.10(サブネットマスク：255.255.255.0)

コンピューターB：192.168.0.11(サブネットマスク：255.255.255.0)

コンピューターC：192.168.0.12(サブネットマスク：255.255.255.0)

4. [IPアドレスを自動的に取得(O)]のオプションボタンに、チェックマークが入っていることを確認してから、OK をクリックします。



- 5.再起動を促す画面が表示されたら、OK をクリックします。

再起動後、「5-4 「コンピュータ名」、「ワークグループ名」の設定」(P 26)に進みます。

【IPアドレスの自動割り当てについて】

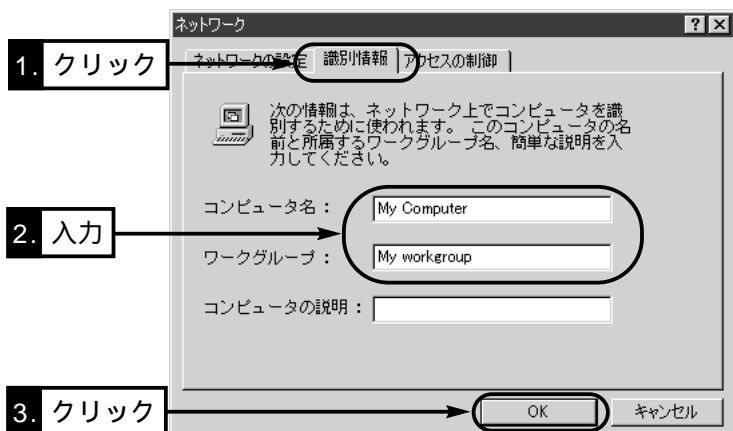
- DHCPサーバーには、コンピューターにIPアドレスを自動的に割り当てて、管理する機能が備わっていますので、アクセスする弊社製無線アクセスポイントおよびその先のネットワーク上にDHCPサーバーとして稼働する機器(Windows NTサーバーなど)がある場合は、上記画面で[IPアドレスを自動的に取得(O)]を選択してください。
- アクセスする弊社製無線アクセスポイントおよびその先のネットワーク上にDHCPサーバーとして稼働する機器がない(Windows 95/98のコンピューターだけで構成される)場合は、IPアドレスを前ページの手順3.と同様に手動で設定する必要があります。
- 既存のネットワークに接続するような場合は、IPアドレスを指定するのか自動的に取得させるのかをネットワーク管理者に確認してから設定を行ってください。

5 無線ネットワークへの接続準備

5-4 「コンピュータ名」、「ワークグループ名」の設定

【設定の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
- 2.[識別情報]タブ(Windows95の場合は、[ユーザー情報]タブ)をクリックして、[コンピュータ名:]、[ワークグループ:]のテキストボックスに情報を入力してから、OK をクリックします。
入力は、半角15文字以内(任意の英数字)になるようにします。



- 3.再起動を促す画面が表示されたら、はい(Y) をクリックすると、コンピューターを再起動します。
- 4.再起動後、「5-5 共有フォルダーの設定」(P 27)に進みます。

【コンピュータ名：】ネットワーク上で、個々のコンピューターの識別用の名前を入力します。なお、同じネットワークグループのコンピューターと重複しないように設定してください。

【ワークグループ：】同じ名前を設定したコンピューターが、ネットワーク上で同じネットワークグループとして認識されます。通信の対象となるすべてのコンピューターと同じ名前を設定してください。

異なる名前を設定すると通信できません。

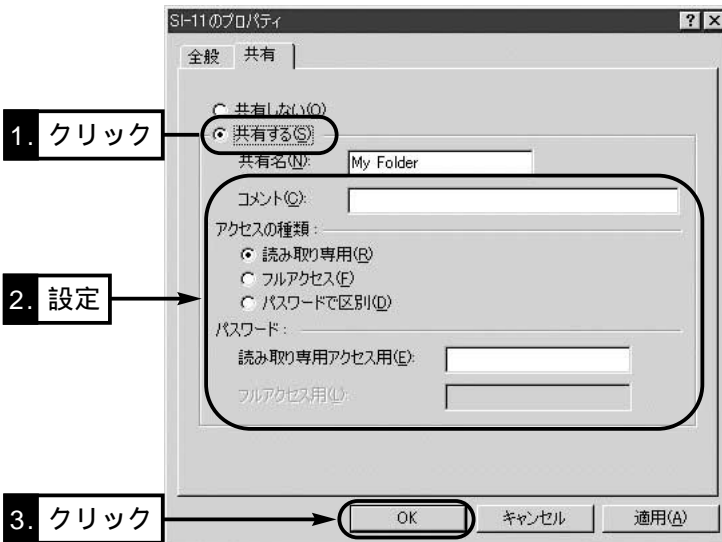
【コンピュータの説明：】必要があれば、任意に入力します。

5-5 「共有フォルダー」の設定

自分のコンピューターのドライブまたはフォルダーを相手先に公開するための設定について説明します。

【設定の手順】

1. デスクトップにある[マイコンピュータ]アイコンなどから、共有したいフォルダーのあるウィンドウを開きます。
2. 共有したいフォルダー上にカーソルを移動して右クリックします。
表示されたショートカットメニューから[共有(H)]をクリックします。
3. [共有する(S)]のオプションボタンをクリックして、[共有名(N):]、[コメント(C):]、[アクセスの種類:]、[パスワード:]などを確認または変更して、OK をクリックします。



4. 設定したフォルダーのアイコンが、画面のように変わっていることが確認できれば、「6 無線通信モードの設定」(P 28)に進みます。



6

無線通信モードの設定

6-1 インフラストラクチャーモードで無線通信する

インフラストラクチャーモードを使うと、本製品を装着するコンピューターから、離れた場所にある無線アクセスポイント機能を搭載した弊社製のネットワーク機器(AP-11、AP-3、DR-1WLなど)にアクセスすることで、ネットワーク環境を共有できます。

ここでは、設定をインフラストラクチャーモードに変更する手順について、Windows95/98を例に説明します。(アドホックモードで通信する⇒CD-ROM)

他社製の無線アクセスポイントへの接続はできません。

コンピューター1台につき、本製品1枚と、AP-3やDR-1WLにも本製品を取り付ける必要があります。

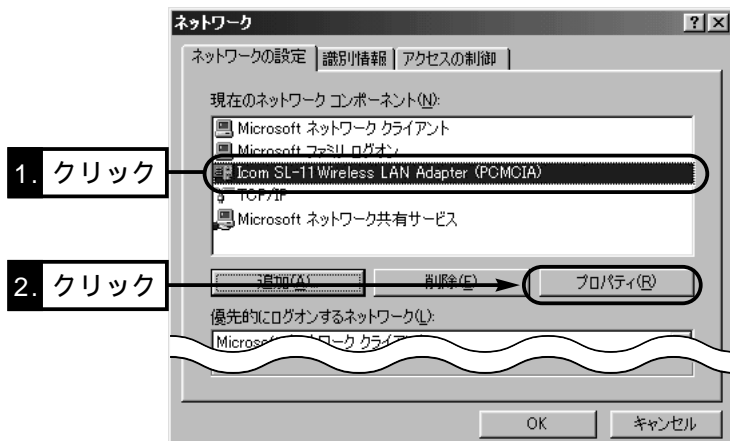
無線通信を行うすべてのコンピューターについて次の設定を行ってください。

工場出荷時は、インフラストラクチャーモードに設定されています。

【おことわり】 本製品を使って弊社製無線アクセスポイントに同時接続できるコンピューターの台数については、弊社製無線アクセスポイントに付属する取扱説明書をご覧ください。

【設定の手順】

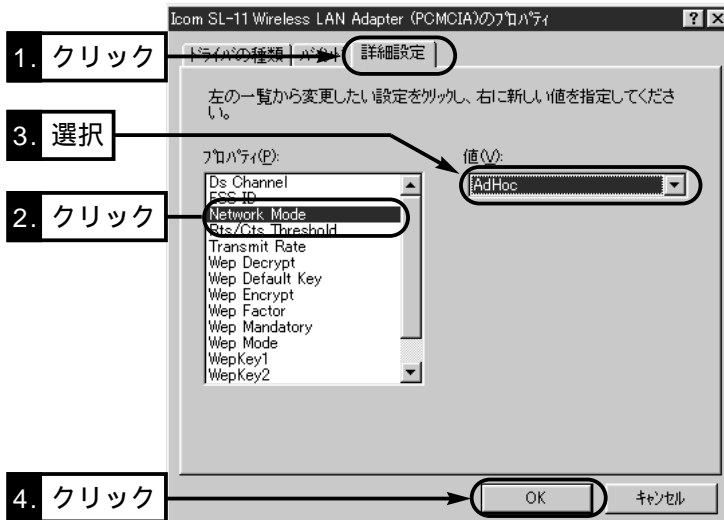
- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
- 2.「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



3.[詳細設定]タブ 「Network Mode」 「Infrastructure」を選択して、OK をクリックします。

ほかの項目については、工場出荷時の状態でも通信可能ですので、その項目の説明については、「7 設定ユーティリティーを使うには」(P 31)をご覧ください。

本製品のプロパティ画面



4.手順2.の画面で、OK をクリックします。

5.再起動を促す画面が表示されたときは、はい(Y) をクリックします。

コンピューターが再起動すると、設定した値が有効になります。

6.再起動後、「6-2 無線ネットワークへの接続を確認する」(P 30)に進みます。

Windows95でご使用のかたへ

本製品の設定ユーティリティー(P 31)は、Windows95ではご使用になれません。本製品のすべての設定は、本製品のプロパティ画面で行ってください。

6 無線通信モードの設定

6-2 無線ネットワークへの接続を確認する

ここまでの設定が終わったら、同じワークグループに所属するそのほかのコンピューターの共有フォルダーに接続できることを確認します。

1. デスクトップ上の[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
2. 同じワークグループに所属するコンピューターのアイコン、さらに自分自身のコンピューターのアイコン(例:My station)が「ネットワークコンピュータ」画面に表示されていることを確認します。

表示されていれば、ネットワークへの接続は正常です。

IPパケットが相手先に正しく届いているかどうかを確認するには、「10-2 pingコマンドを使って接続を確認する」(☞CD-ROM)をご覧ください。



【ご参考に】

自分のコンピューターのワークグループ名と異なるネットワークに接続されているほかのコンピューターを見るときは、[ネットワーク全体]アイコンを選択すると、その一覧を表示できます。なお、ESS ID(☞P 36)の設定が異なる無線ワークグループは、その画面に表示されませんので、ネットワーク情報を他人に知られたくないときなどは、無線ワークグループ(☞P 26)ごとにその設定を変更してください。

7-1 設定ユーティリティとは

本製品のプロパティ画面(☞P 29)の代わりに、このユーティリティを使って設定すると、設定変更後の再起動が必要ありません。また、無線伝送エリア内で通信するコンピューターの状態および設定状況をモニターする画面も用意されています。

【Windows95でお使いのかたへ】 このユーティリティは、Windows95には対応していませんのでご注意ください。

Windows95をご使用のかたは、本製品のプロパティ画面(☞P 11)からすべての設定を行ってください。

プロパティ画面の設定項目については、このユーティリティで設定できる項目と同じですので、7-4章(☞P 34)以降の説明を参考に設定してください。

7-2 インストールのしかた

設定ユーティリティをインストールする手順について説明します。

本製品を使って通信するすべてのコンピューターにインストールしてください。

【インストールの手順】

1. 現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
2. 本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:]に挿入します。
3. CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
4. ユーティリティ インストール ボタンをクリックします。
ご使用のOSを認識しますので、次の手順にしたがって操作をします。



Auto Run機能が動作しないときは

エクスプローラーで、CD-ROMドライブの中に「Disk1」または「Disk2」フォルダーがあることを確認します。

WindowsNT4.0にインストールする場合は、「Disk1」フォルダーに収められた「Utility」フォルダーの中の「Setup.exe」をダブルクリックします。

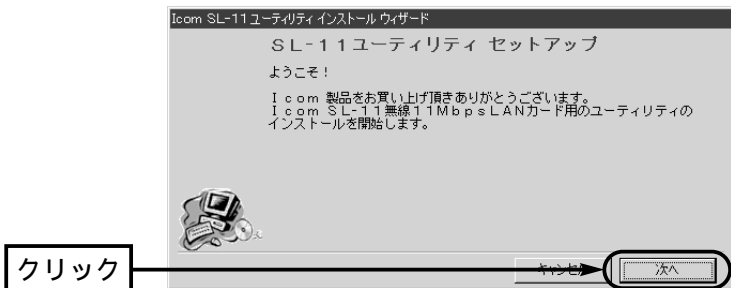
Windows98/98SE/2000/Meにインストールする場合は、「Disk2」フォルダーに収められた「Utility」フォルダーの中の「Setup.exe」をダブルクリックして、手順5.以降の操作を行います。

7 設定ユーティリティを使うには

7-2 インストールのしかた

【インストールの手順】(つづき)

5. 次へ をクリックします。



6. このユーティリティのインストール先のフォルダーを指定して、次へ をクリックします。

表示されているインストール先を変更したいときだけ、参照 をクリックして変更先のフォルダーを指定します。



7. OK をクリックします。



8. 画面の指示にしたがって操作をつづけます。

7-3 起動のしかた

コンピューターにインストールされた設定ユーティティの起動と終了のしかたについて説明します。

【起動の手順】

1. 本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに挿入します。

挿入されていない状態では、カードの通信状態を監視できません。

2. マウスを スタート [プログラム(P)] [SL-11 Utility]の順番に操作すると、設定ユーティティが起動して常駐を示すアイコン(⇒「タスクバーに表示されるアイコンの意味について」を参照)がタスクバーの上に表示されると起動が完了です。



3. 終了するときは、カーソルをそのアイコンの上に移動して、右クリックすると表示するポップアップメニューから「終了」を選択します。



【タスクバーに表示されるアイコンの意味について】



本製品を接続するコンピューターが、無線ネットワークに正常に接続された状態



無線通信モードがインフラストラクチャーのときだけ表示され、本製品を接続するコンピューターが、通信できる無線アクセスポイントの無線伝送エリアを外れた状態か、無線アクセスポイントを探している状態



本製品を接続するコンピューターの「無線通信モード」が違ったりアクセスポイントが見つからない、または本製品が接続されていない状態



本製品が接続されているが、ドライバーが正しくインストールされていないなどの理由で装着を認識できない状態

7 設定ユーティリティを使うには

7-4 基本機能を設定する

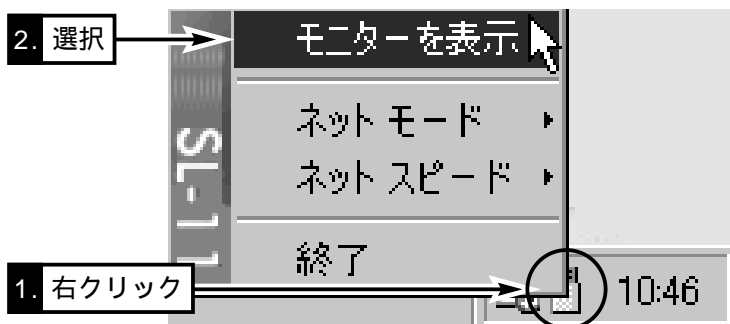
本製品を使うために最低限必要な設定を、このユーティリティでの設定を例に説明します。

本製品に高度なセキュリティを確保したいときは、「7-5 特殊機能を設定する」(⇒CD-ROM)も併せてご覧ください。

Windows 95をご使用のかたは、ここで説明する設定項目を参考に本製品のプロパティ画面(⇒P 29)で設定を行ってください。

【設定のしかた】

1. 本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに挿入します。
挿入されていない状態では、次の操作ができません。
2. タスクバー上に表示されたアイコンを右クリックして表示するメニューから、「モニターを表示」を選びます。



3. [通信設定]タブをクリックします。



4.無線通信モードを選択します。

(初期値：インフラストラクチャ)



「インフラストラクチャ」モード(⇐P 3)

データの交換をアクセスポイントを経由して行う場合の設定です。本製品のほかに弊社製無線アクセスポイントが別途必要になります。

「アドホック」モード(⇐P 3)

本製品同士で直接データの交換を行う場合の設定です。

通信には、本製品または弊社製の無線通信LANカードを装着したコンピューターを2台以上ご用意ください。

7 設定ユーティリティを使うには

7-4 基本機能を設定する

【設定のしかた】(つづき)

5.ESS IDを入力します。

(初期値 : LG)

同じワークグループの相手間で、同じ値を設定してください。

設定値の入力は、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字32文字以内で入力します。

[ワークグループ名](☞P 26)とは、区別して認識しますが、なるべく同じ名前に設定することをおすすめします。



ESS IDとは

無線ネットワーク識別用の名前を任意に設定する項目です。

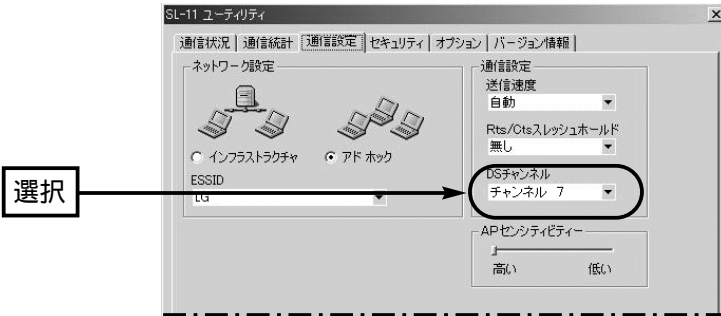
無線伝送可能エリア内に、無線ワークグループを複数構成していて、ネットワーク情報を他の無線ワークグループから見られたくないとき変更します。

同じ無線ワークグループに対しては、同じ名前を入力してください。

異なる名前を設定すると通信できません。

6.DSチャンネルを設定します。 (初期値：チャンネル 7)

手順4.で「インフラストラクチャ」を選択している場合は、弊社製アクセスポイント側で設定された通信チャンネルを使って通信しますので、この項目は変更できません。

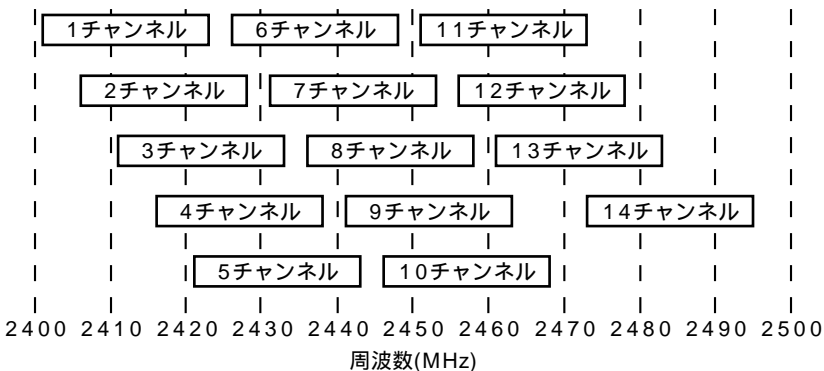


DSチャンネルとは

無線伝送可能エリア内に、本製品の「アドホック」モードで通信する別の無線ネットワークグループがあるときは、混信を避けるため相手側ネットワークグループの通信チャンネルから4つ以上飛ばして設定してください。

それ以下に設定すると、図に示すように帯域幅の1部が重複するため混信する可能性があります。例えば、お互いの設定が1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。

無線伝送可能エリア内に、「インフラストラクチャー」モードで通信する別の無線ネットワークグループがあるときは、それぞれの無線アクセスポイント側で混信しない通信チャンネルを設定してください。



7 設定ユーティリティを使うには

7-4 基本機能を設定する

【設定のしかた】(つづき)

7.通信速度を選択します。

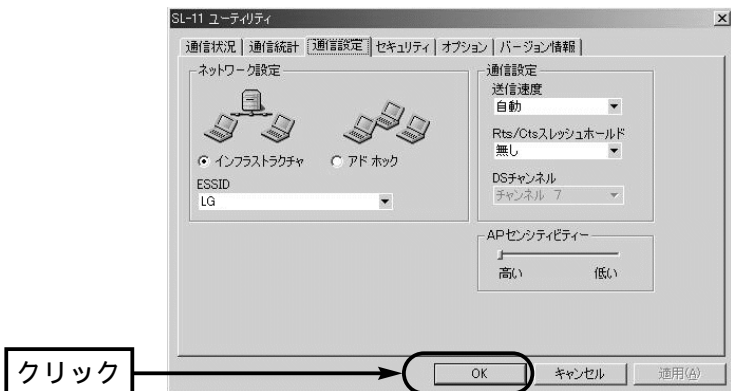
(初期値：自動)

「自動」「11 Mb/s」「5.5 Mb/s」「1 Mb/s」「2 Mb/s」の中から選択できます。

「自動」にしておくと環境に合わせて最適な速度で通信を行います。



8.設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。



8-1 本製品を取り外すには

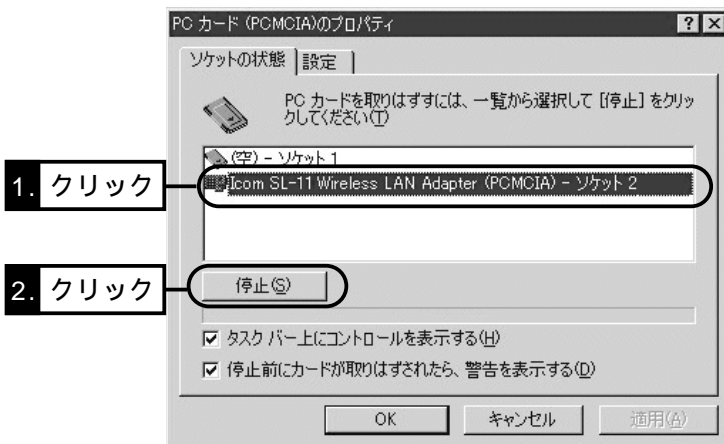
Windows95/98/2000/Meの「Plug and Play」により、コンピューターの電源を入れたまま、本製品を取り外す手順について、Windows98を例に説明します。なお、コンピューターの電源が切れているときは、コンピューターの取扱説明書にしたがって本製品をPCカードスロットから取り外してください。

コンピューターの電源が入っているときは、次の手順を守らないと、システムが暴走することがあります。

WindowsNT4.0をご使用の場合は、コンピューターの電源を切ってから、本製品をPCカードスロットから取り外してください。

【取り外すときの手順】

1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [PCカード (PCMCIA)]アイコンの順番に操作します。
2. 「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 停止(S) の順番にクリックします。



3. OK をクリックします。



8 ご参考に

8-2 故障のときは

- 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とコンピューターの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

8-3 定 格

一般仕様

- 国 際 規 格 : IEEE 802.11/IEEE 802.11準拠
- 国 内 規 格 : ARIB STD-33/ARIB STD-T66
- 通 信 方 式 : 単信方式
- 電 波 方 式 : 直接スペクトラム拡散
- 周 波 数 帯 域 : 2400 ~ 2497MHz(全 14ch)
- データ伝送速度 : 自動/ 11/ 5.5 / 2 / 1 Mbps
- 伝 送 距 離 : 屋内約50m、屋外約150m(見通し)
- 暗 号 化 処 理 : Wired Equivalent Privacy(WEP)
- 使 用 温 度 条 件 : 温度 0 ~ + 50
- 保 存 温 度 条 件 : 温度 - 20 ~ + 80 (結露しないこと)
- 内 蔵 アンテナ : ダイバーシティーアンテナ
- 入 力 電 圧 : DC 5.0 V ± 5%
- 消 費 電 流 : 受信時 = 250mA(Max.)
送信時 = 350mA(Max.)
- 外 形 寸 法 : 124.0(W) × 8.5(H) × 54.0(D)mm
(アンテナを含む)
- 重 量 : 約 50g

送信部

- 送 信 出 力 : 10mW/MHz以下
 - スプリアス発射強度 : 25 μ W以下(2458MHz $f < 2471$ MHz)
(14ch使用時) 2.5 μ W以下(2458MHz $> f$)
25 μ W以下(2497MHz $< f < 2510$ MHz)
2.5 μ W以下(2510MHz $< f$)
 - スプリアス発射強度 : 25 μ W以下(2387MHz $f < 2400$ MHz)
(1 ~ 13ch使用時) 2.5 μ W以下(2387MHz $> f$)
25 μ W以下(2483.5MHz $< f < 2496.5$ MHz)
2.5 μ W以下(2496.5MHz $< f$)
- 上記のfは、使用周波数帯を除いた周波数です。

受信部

- 受 信 感 度 : - 76dBm以下(フレームエラーレート= 8%)
- 復 調 方 式 : デジタル復調(マッチドフィルター方式)
- スプリアス妨害限度 : 4nW以下(1GHz未満) 20nW以下(1GHz以上)

定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

取扱説明書



2.4GHz SS無線通信LANカード **SL-11**

付属CD-ROMのインストールマニュアルでインストールを行うと便利です。



安全上のご注意

1

ご使用の前に

2

本製品を取り付けるには

3

ドライバーのインストール

4

無線ネットワークへの接続準備

5

無線通信モードの設定

6

設定ユーティリティを使うには

7

本製品を取り外すには

8

ドライバーのアンインストール

9

困ったときは

10

定格

11

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、周波数2.4GHz帯を使用して、直接スペクトラム拡散(DS-SS)方式による近距離の超高速データ伝送を行うPCカードスロット用無線通信LANカードです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要な事項をご記入いただき、必ずご返送ください。

ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom.Inc、iCOMは、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本製品の概要について

財団法人 テレコムエンジニアリングセンターの技術基準適合証明を取得していますので、無線局の免許は不要です。

電波方式として直接スペクトラム拡散方式を採用していますので、雑音や妨害に強く、データの安定性、秘匿性に優れています。

11 Mbpsの通信速度に対応した無線通信に対応しています。

拡張スロット(PCMCIA type)が装備されたコンピューター、または弊社製のアクセスポイントやルーターに装着できます。

WEPによる暗号化処理など、高度なセキュリティー機能により、データの安全性を確保します。

標準構成品

本製品には、下記のものを同梱しています。

- 無線通信LANカード本体 1
- CD-ROMディスク 1
(ドライバー、Utility、PDFマニュアル)
- 取扱説明書(本書)
- 電波干渉注意シール
- ユーザーサポート用愛用者カード
- 保証書

お手もとの商品について、ご確認いただき、不足しているものがございましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。

はじめに

動作環境について

対応OS	Windows95(OSR2以降) Windows98(Second Edition含む) Windows Millennium Edition WindowsNT4.0(Service Pack3以降) Windows2000
PCMCIA	PCカードスロット(PCMCIA type)を装備するコンピューター
Utility	次のOSに対応します。 Windows98(Second Edition含む) Windows Millennium Edition WindowsNT4.0(Service Pack3以降) Windows2000

表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

- 「 」表記...オペレーションシステム(OS)、ユーティリティー、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「」)で囲んで表記します。
- []表記...タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([])で囲んで表記します。
表記...ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を()で囲んで表記します。

Windows98の説明で、特に限定して表記のない部分は、Second Edition(以後、SEと表記)、Windows Millennium Edition(以後、Meと表記)の内容を兼ねています。

ご使用までの流れ

本製品を使って無線ネットワークに接続するには、次のステップにしたがって、設定する必要があります。

各ステップの右に記載の数字は、本書の参照ページ数です。最低限必要な設定は、このページ数にしたがって設定を進めてください。

さらに詳しい内容については、もくじをご覧ください。

ステップ1 運用形態を確認する 3

ステップ2 本製品を取り付ける 7

ステップ3 本製品のドライバーをインストールする

Windows 95(OSR2)9

Windows 98(SEを含む)14

Windows Me20

Windows NT4.0(Service Pack3以降)27

Windows 200035

ステップ4 ネットワーク環境へ接続するための設定 38

ステップ5 無線通信モードの設定

「アドホック」モード(⇒ステップ1)で使う47

「インフラストラクチャー」モード(⇒ステップ1)で使う ...49

ステップ6 本製品の取り外し 77

設定ツール 設定ユーティリティを使うには 55

削除する ドライバーのアンインストール 78

はじめに

Auto Run機能について

本製品のCD-ROMディスクは、Auto Runするようになって
いますので、CD-ROMディスクをご使用のCD-ROMドライ
ブに挿入すると、自動的に設定ユーティリティーのメニュー
画面が表示されます。

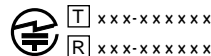
設定ユーティリティーをインストールするとき以外は、一旦
終了 ボタンをクリックして、メニュー画面を終了させてく
ださい。

電波法上のご注意

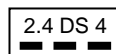
本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造してい
ます。したがって、日本国外で使用された場合、本製品
およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、そ
の国の法令に抵触する場合がありますので、使用できませ
ん。無線通信LANカードは、電気通信端末機器の適合認定を
受けた弊社製品を、ご使用ください。

上記以外の無線通信LANカードを使用して、公衆電話
回線に接続することは、法律で禁じられています。

カード本体には、右図のような技適証明マークと技適証
明番号および認定番号が印刷され
たシールが貼られていることを確
認してからご使用ください。



本製品のシリアルナンバーシール
に、右図のようなシールが貼られ
ているときは、ご使用の前に、必
ず次ページの「電波干渉に関する
ご注意」をお読みください。



無線通信チャンネルについて

本製品では、[DS チャンネル](☞P 62)と表記されています。

この設定を14チャンネル以外でご使用になるときは、必ず次に示す「電波干渉に関するご注意」をお読みください。

工場出荷時、[DS チャンネル]は、「7」に設定されています。

電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

- 1.この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2.万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
- 3.その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サービス課 06-6792-4949

はじめに

取り扱い上のご注意

コンピュータおよびその他の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。

本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。本製品のドライバーおよび設定ユーティリティーは、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の改変や分解したことによる障害、および故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。

本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

第1章	安全上のご注意(必ずお読みください。)	1
------------	----------------------------	----------

第2章	ご使用の前に	3
	2-1.本製品でできること	3
	2-2.各部の名称と機能	4

第3章	本製品を取り付けるには	5
	3-1.取り付ける前に確認する	5
	ドライブ名の確認	5
	PCカードドライバーの確認	6
	3-2.本製品を取り付ける	7
	ノート型コンピューターに取り付ける	7
	デスクトップ型コンピューターに取り付ける	8

第4章	ドライバーのインストール	9
	4-1.Windows95(OSR2)編	9
	4-2.Windows98(SEを含む)編	14
	4-3.Windows Me編	20
	4-4.正しくインストールされているか確認する.....	24
	4-5.WindowsNT4.0(Service Pack 3以降)編	27
	4-6.Windows2000編	35

もくじ

第5章 無線ネットワークへの接続準備 38

- 5-1.「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーク
クライアント」の確認38
- 5-2.「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加39
- 5-3.「TCP/IP」の設定41
- 5-4.「コンピュータ名」、「ワークグループ名」の設定44
- 5-5.「共有フォルダー」の設定.....45

第6章 無線通信モードの設定 47

- 6-1.アドホックモードで無線通信する.....47
- 6-2.インフラストラクチャーモードで無線通信する.....49
- 6-3.無線ネットワークへの接続を確認する.....51
- 6-4.WindowsNT4.0の場合52
- 6-5.Windows2000の場合53

第7章 設定ユーティリティを使うには 55

- 7-1.設定ユーティリティとは.....55
- 7-2.インストールのしかた.....55
- 7-3.起動のしかた.....58
- 7-4.基本機能を設定する59
- 7-5.特殊機能を設定する64
- 7-6.キージェネレーターのカスタム設定.....71
- 7-7.監視モニターについて.....73
 - [通信状況]画面73
 - [通信統計]画面74
 - [オプション]画面75
 - [バージョン情報]画面76
- 7-8.アンインストールのしかた.....77

第8章 本製品を取り外すには 78

第9章 ドライバーのアンインストール 79

- A PCカードスロットに装着した状態で削除する手順 79
- B PCカードスロットに装着しない状態で削除する手順 81

第10章 困ったときは 82

- 10-1.トラブルシューティング 82
 - OS共通のトラブル 82
 - Windows95/98環境でのトラブル 84
 - WindowsNT4.0/2000環境でのトラブル 89
- 10-2.pingコマンドを使って接続を確認する 90
- 10-3.故障のときは 91

第11章 定 格 92

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをする
と「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

本製品の取り付けや取りはずし、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手の届かない場所で行ってください。

けが、感電の原因になります。

本製品のコネクター部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

水や海水につけたり、ぬらさないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。

感電の原因になります。

万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐにコンピューターの電源スイッチを切り、本製品を取りはずしてください。

煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをする
と「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的
損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

本製品をコンピューターに差し込むときは、本製品の裏と表をまちがえないように十分注意してください。

故障の原因になることがあります。コンピューターを運用中に、取扱説明書の指示を無視して、本製品を取りはずさないでください。

故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。

OSの起動中は、本製品を取りはずしたり、取り付けたりしないでください。

故障の原因になることがあります。長時間、本製品を使用しないときは、安全のためコンピューターから本製品を取りはずしてください。発熱、発火、故障の原因になることがあります。

湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。

火災、感電、故障の原因になることがあります。

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。

けが、故障の原因になることがあります。

本製品の上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。

故障の原因になることがあります。テレビやラジオの近くで使用しないでください。

電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

本製品を取り付けたコンピューターをぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。

普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度がコンピューターの取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

2-1 本製品でできること

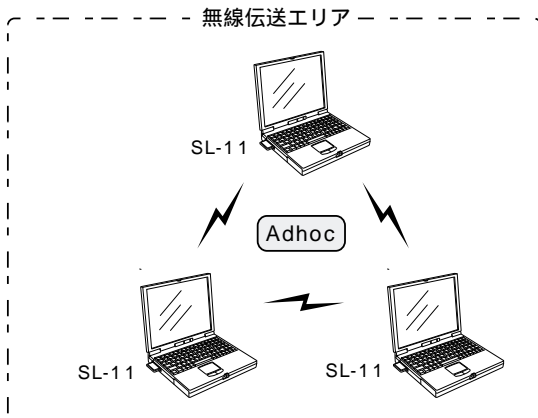
本製品は、ご使用の環境によって、次のどちらかの接続形態が選べます。

工場出荷時は、インフラストラクチャーモードに設定されています。

コンピューター同士で無線通信する：「アドホック」モード

本製品を装着するコンピューターだけで無線ネットワークを構築するとき使用します。

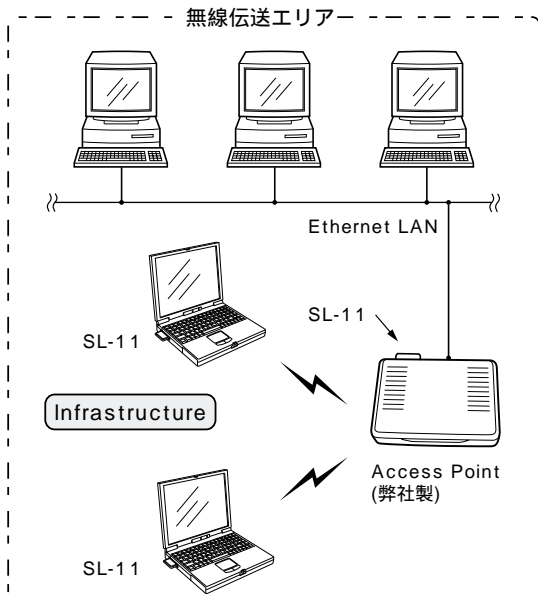
最大40～50台を同じ無線ネットワークグループとして接続できますが、頻繁に通信をするような環境では、接続台数を10台以下にすることをおすすめします。



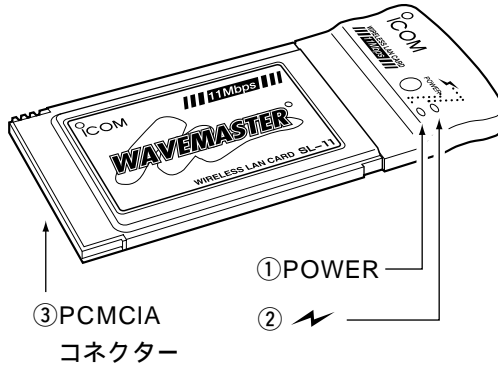
アクセスポイントと無線通信する：「インフラストラクチャー」モード

本製品を装着するコンピューターから弊社製アクセスポイントにアクセスして、無線と有線が混在するネットワークを構築するとき使用します。

同じ無線ネットワークグループとして接続できる台数は、ご使用になる弊社製アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。



2-2 各部の名称と機能



① POWER PCMCIAコネクターから電源が供給されているとき点灯します。

② ⚡ 通信する相手に電波が届くと点灯します。
該当する通信相手が認識できなかったり、無線伝送エリア外に移動したりすると、点滅します。

③ PCMCIA
コネクター コンピューター本体に装備されたPCカードスロットに接続する端子です。
金属片やゴミがコネクターに付着していないことを確認してから装着してください。

ご参考に
本製品は、PCMCIAの5.0V仕様に対応します。
現在市販のどのコンピューターにも装着してご使用いただけます。

3

本製品を取り付けるには

3-1 取り付ける前に確認する

ドライブ名の確認

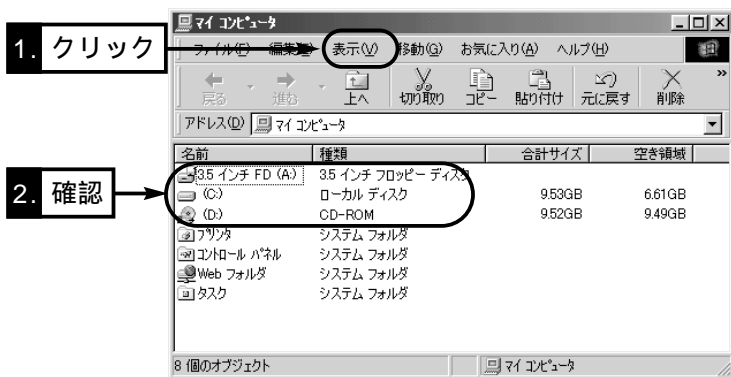
本製品のドライバーをコンピューターにインストールするとき指定するドライブ名が、ご使用の環境によって本書の説明で使うドライブ名と異なることがありますので、次のWindows98の手順を例に確認しておくことをおすすめします。本書の説明で使うドライブ名とご使用のコンピューターのドライブ名とが異なる場合は、下記の手順で確認したドライブ名に置き換えてお読みください。

【確認の手順】

1. デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
2. 下記画面で、[表示(V)]メニュー [詳細]の順に操作します。

ここで確認するCD-ROMディスクのドライブ名は、以降の説明で必要になりますので、メモなどに書きとめておいてください。

本書では、フロッピーディスクドライブ名を「A」、CD-ROMドライブ名を「D」とした例を説明しています。



3. 次ページの「PCカードドライバーの確認」に進みます。

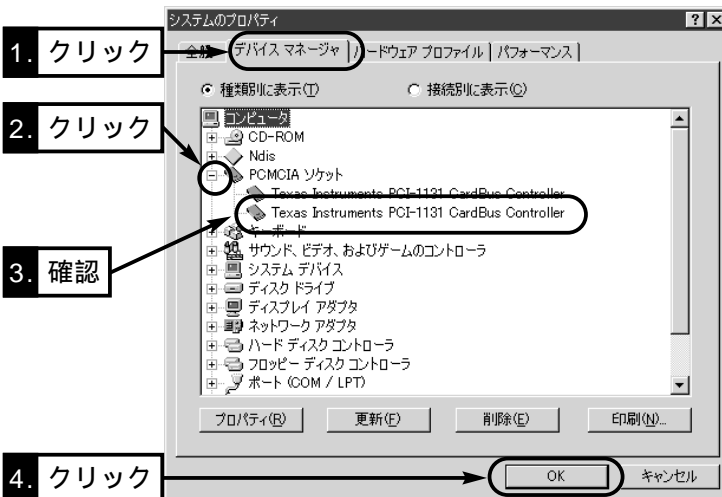
PCカードドライバーの確認

本製品を取り付けてドライバーをインストールする前に、32ビットPCカードドライバーの状態を、次のWindows98の手順を例に確認してください。

PCMCIAカードアダプターを標準装備しないコンピューターは、特に注意してください。

【確認の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.「コントロールパネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3.[デバイスマネージャ]タブ 「PCMCIAソケット」の[+]をクリックします。
「PCMCIAソケット」の中に表示されるデバイスのアイコンに「!」や「×」マークが付いていないことを確認します。
「PCMCIAソケット」の中に表示されるデバイス名は、コンピューターによって異なります。
- 4.「!」や「×」マークが付いていなければ、OK をクリックして画面を閉じます。
次ページの「3-2 本製品を取り付ける」(⇒P 7)に進みます。



「PCMCIAソケット」の中に表示されるデバイス名に「!」や「×」マークが付いている場合は、ご使用のPCMCIAカードアダプターに付属する取扱説明書にしたがって、PCカードドライバーをインストールし直してください。

3 本製品を取り付けるには

3-2 本製品を取り付ける

ご使用のコンピューターによって本製品を取り付けるPCカードスロットの位置が異なりますので、コンピューターの取扱説明書の指示にしたがってください。

【ご注意】コンピューターの「パワーマネージメント機能」をご使用の場合 Windows95/NT4.0をご使用の場合は、パワーマネージメント(電源の管理)機能を無効にしてから、本製品をご使用ください。

パワーマネージメント機能とは、コンピューターを操作しない状態が一定時間以上続くと、自動的にコンピューターの電源を切る機能です。

詳しくは、お使いのOSのヘルプをご覧ください。

【ご注意】PCカードスロットを2つ装備するコンピューターをご使用の場合 本製品は、内蔵アンテナ部分が突き出しています。そのためPCカードを2枚装着する場合、上側のPCカードスロットにほかのPCカードが装着できなくなることがあります。

このようなときは、本製品を上側のPCカードスロットに装着してご使用ください。

【ご参考に】

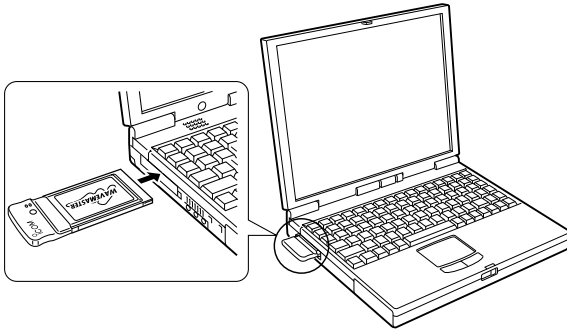
Windows95/98/2000/Meをご使用の場合は、OSが「Plug and Play」に対応していますので、コンピューターのOSが起動した状態で本製品を装着できます。

WindowsNT4.0をご使用の場合は、必ずコンピューターの電源を切ってから本製品を装着してください。

ノート型コンピューターに取り付ける

本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに、WAVEMASTERのシールが貼られた面を上にして挿入します。なお、メーカーによっては異なることがありますので、ご注意ください。

コンピューターから電源が供給されると、[POWER]ランプが点灯します。



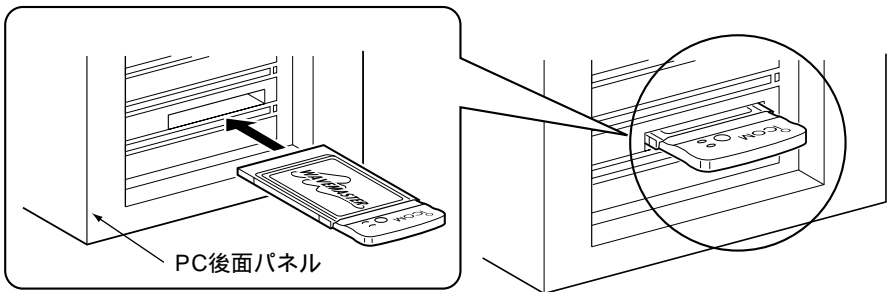
本製品が装着できたら、「4 ドライバーのインストール」(☞P 9)に進みます。

デスクトップ型コンピューターに取り付ける

本製品をデスクトップ型コンピューターに取り付けるには、PCMCIAカードアダプターが装備されている必要があります。

装備されていないときは、あらかじめ取り付けておく必要があります。

コンピューターから電源が供給されると、[POWER]ランプが点灯します。



本製品が装着できたら、「4 ドライバーのインストール」(☞P 9)に進みます。

4

ドライバーのインストール

4-1 Windows95(OSR2)編

本製品のドライバーをコンピューターにインストールする操作の説明です。

ドライバーとは、本製品の駆動(ドライブ)に必要なソフトウェアを意味します。ご使用になるOSによって、インストールするドライバーが異なります。また、ご使用のコンピューターによっては、画面構成や手順が一部内容と異なる場合があります。

本製品のドライバーは、本製品のCD-ROMディスクに収められています。

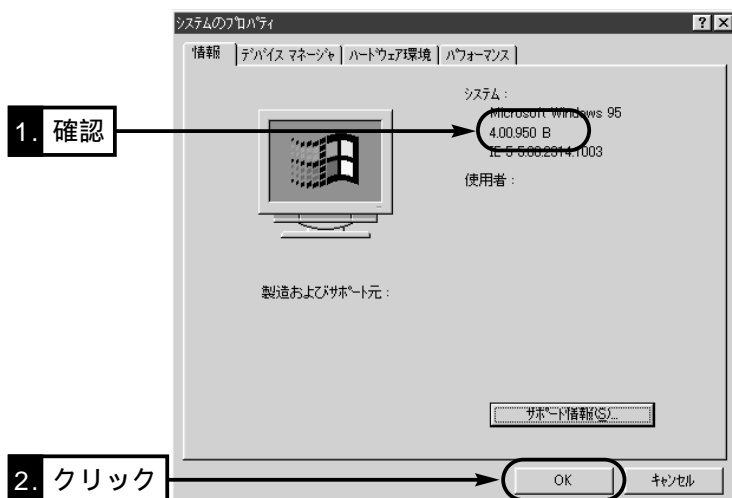
【ご注意】ドライバーのインストールを行う前に、「3-1 取り付ける前に確認する」(P 5)で、ご使用になるコンピューターのディスクドライブ名を確認してください。

【OSR2(Windows95のバージョン)とは?】

ご使用のコンピューターにインストールされたOSのバージョンが、4.00950 Bまたは4.00950 Cのものが、「OSR2」に相当します。

【バージョンを確認するには】

デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示されるポップアップメニューから、「プロパティ(R)」を選択して表示する画面で確認できます。



【インストールの手順】

1. 「3-2 本製品を取り付ける」(P 7)の説明にしたがって、本製品を取り付けると、コンピューターが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。



2. 次の画面が起動すれば、本製品のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ [D:](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入して、次へ をクリックします。

CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作したときは、終了 ボタンをクリックします。



4

3. 場所の指定(O) をクリックします。

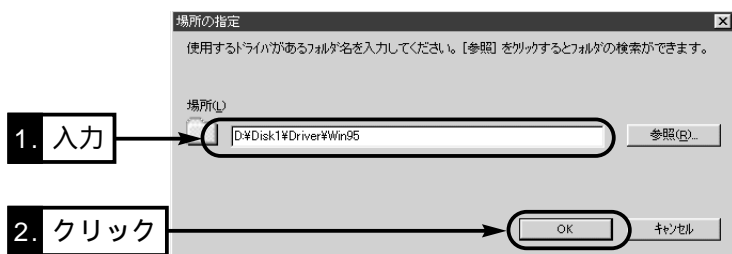


4 ドライバーのインストール

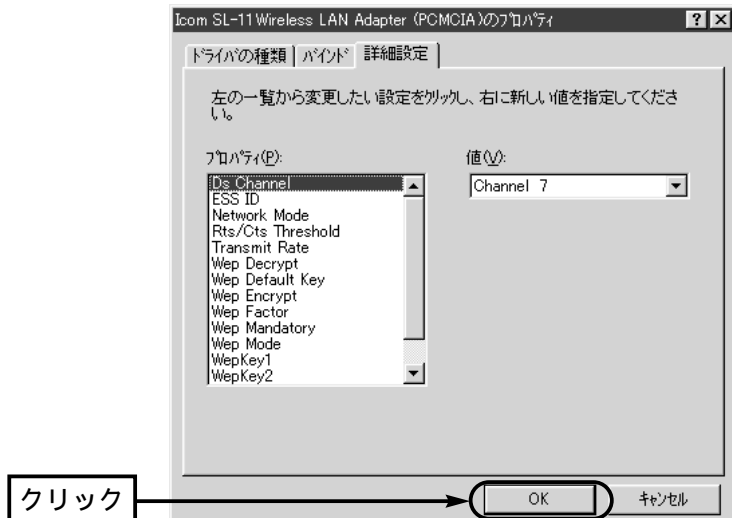
4-1 Windows95(OSR2以降)編

【インストールの手順】(つづき)

- 4.[場所(L)]に、本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのCD-ROMドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Disk1¥Driver¥Win95)してから OK をクリックします。



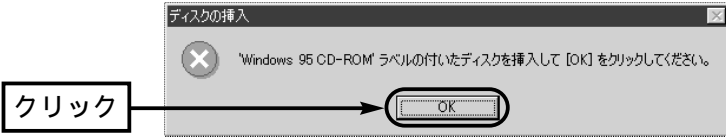
- 5.ドライバーが読み込まれると、本製品のプロパティ画面を表示します。設定はあとからでも行えますので、そのまま OK をクリックします。あとから、「6 無線通信モードの設定」(⇒P 47)を参考に設定してください。



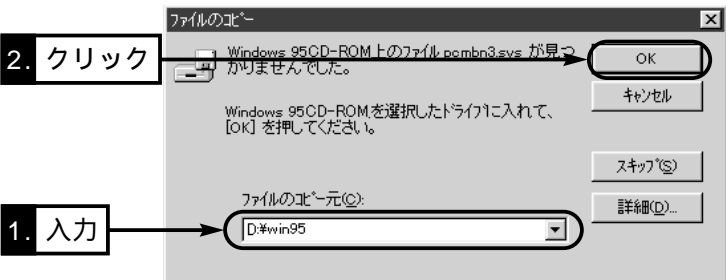
6. 完了 をクリックします。



7. Windows 95のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブに挿入して、 OK をクリックします。(本製品のCD-ROMディスクと入れ替える)



8. Windows 95のCD-ROMディスクのいったCD-ROMドライブ名「D:」とそのフォルダーを指定(D:¥Win95)してから OK をクリックします。



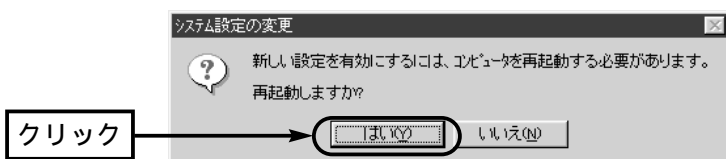
4 ドライバーのインストール

4-1 Windows95(OSR2以降)編

【インストールの手順】(つづき)

9.本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクをCD-ROMドライブから取り出して、 はい(Y) をクリックします。

コンピューターが再起動すると、インストールは完了です。



10.再起動後、次の画面が表示されたときは、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をテキストボックスに入力してから、 OK をクリックします。



11.「4-4 正しくインストールされているか確認する」(⇒P 24)に進みます。

【再起動後、次の画面が出たら？】

「いいえ(N)」をクリックしてください。



4-2 Windows 98 (SEを含む)編

本製品のドライバーをコンピューターにインストールする操作の説明です。

ドライバーとは、本製品の駆動(ドライブ)に必要なソフトウェアを意味します。

ご使用になるOSによって、インストールするドライバーが異なります。また、ご使用のコンピューターによっては、画面構成や手順が一部内容と異なる場合があります。

本製品のドライバーは、本製品のCD-ROMディスクに収められています。

【ご注意】 ドライバーのインストールを行う前に、「3-1 取り付ける前に確認する」(☞P 5)で、ご使用になるコンピューターのディスクドライブ名を確認してください。

【インストールの手順】

1. 本製品を「3-2 本製品を取り付ける」(☞P 7)の説明にしたがって取り付けると、コンピューターが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。



2. 次の画面が表示されたら、本製品のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ [D:] (以後CD-ROMドライブをDとする) に挿入して、次へ をクリックします。

CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作したときは、終了 ボタンをクリックします。



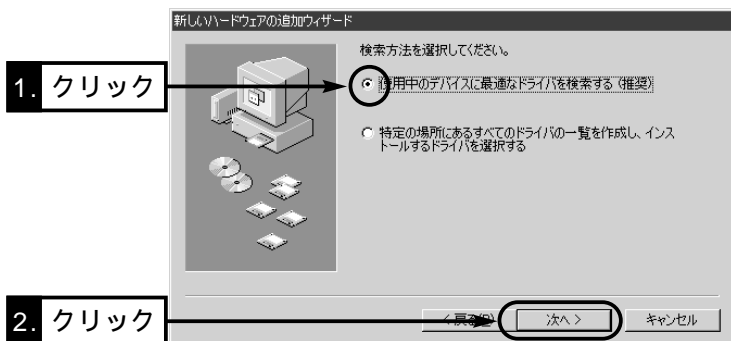
クリック

4 ドライバーのインストール

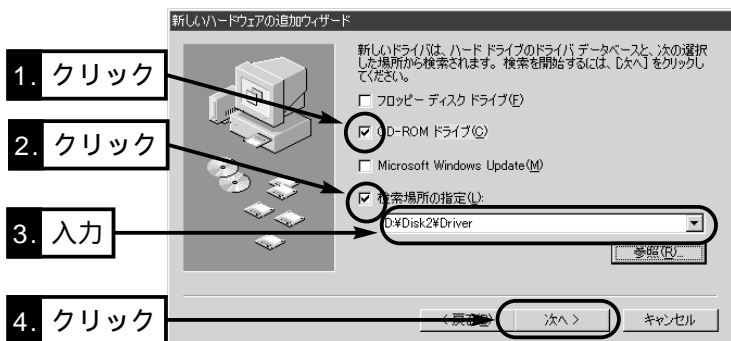
4-2 Windows98(SEを含む)編

【インストールの手順】(つづき)

3.[使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]のチェックボックスにチェックを入れて、次へ をクリックします。



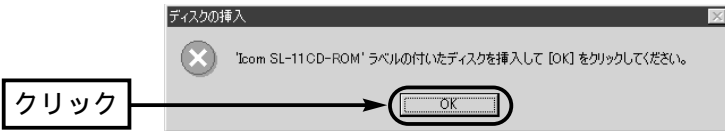
4.[CD-ROMドライブ(C:)]のチェックボックスにチェックを入れて、本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのCD-ROMドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Disk2¥Driver)してから、次へ をクリックします。



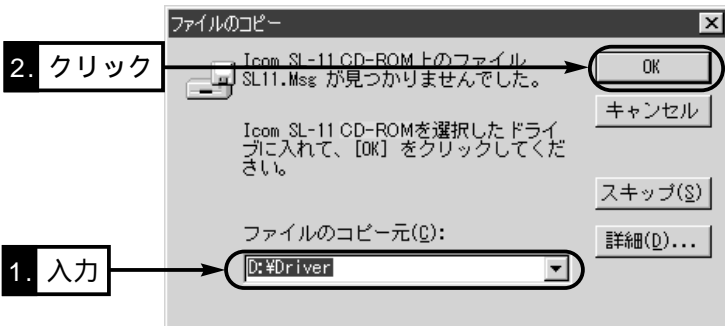
5. ドライバーの場所が見つかったと、次の画面を表示しますので、次へ をクリックします。



6. この画面が表示されたときは、OK をクリックします。



7. 本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのドライブ名「D:」とそのフォルダーを指定(D:¥Driver)してから OK をクリックします。



4 ドライバーのインストール

4-2 Windows98(SEを含む)編

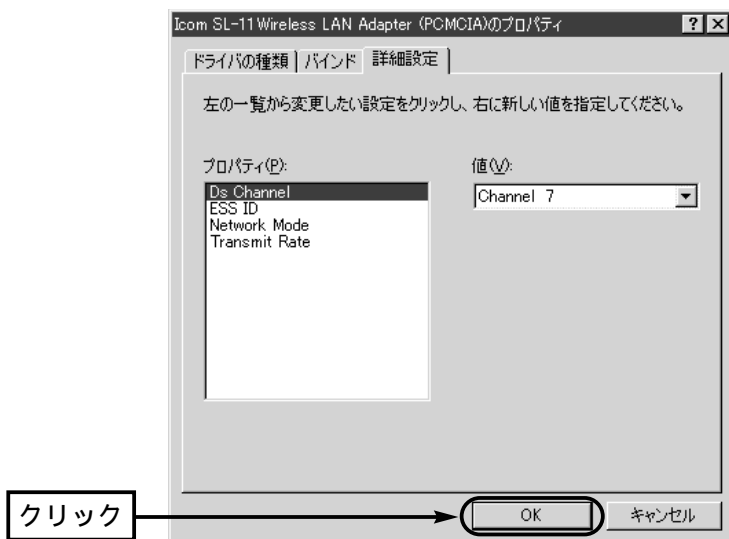
【インストールの手順】(つづき)

8. ドライバーが読み込まれると、本製品のプロパティ画面を表示します。

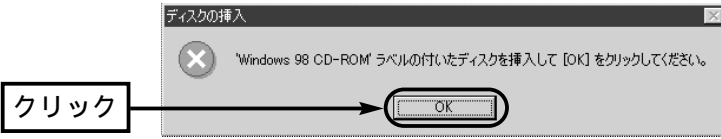
設定は、あとからでも行えますので、そのまま **OK** をクリックします。

設定項目について詳しくは、「6 無線通信モードの設定」(P 47)と「7 設定ユーティリティを使うには」(P 55)で説明します。

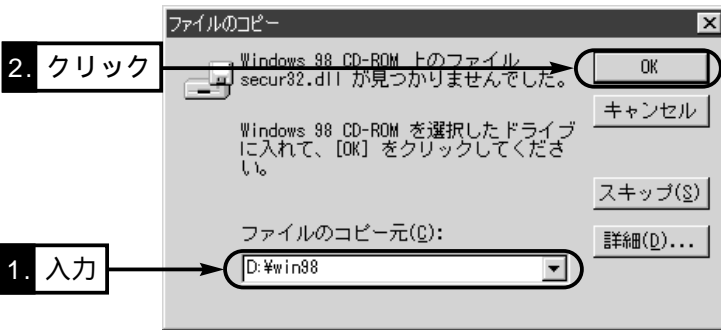
本製品のCD-ROMに収められた設定ユーティリティをインストールして設定を行うことも可能です。



9.Windows98のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブに挿入して、 OK をクリックします。(本製品のCD-ROMディスクと入れ替える)



10.Windows98のCD-ROMディスクの入ったCD-ROMドライブ名「D:」とそのフォルダーを指定(D:¥Win98)してから OK をクリックします。



11.次の画面で 完了 をクリックします。



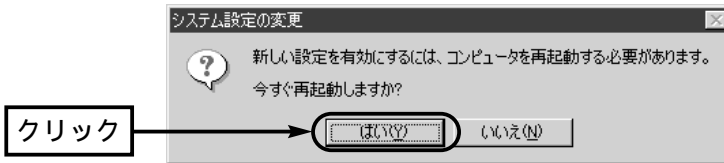
4 ドライバーのインストール

4-2 Windows98(SEを含む)編

【インストールの手順】(つづき)

12.本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクをCD-ROMドライブから取り出して、はい(Y) をクリックします。

コンピューターが再起動すると、インストールは完了です。



13.再起動後、次の画面が表示されたときは、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をテキストボックスに入力してから、OK をクリックします。



14.「4-4 正しくインストールされているか確認する」(⇒P 24)に進みます。

4-3 Windows Me編

本製品のドライバーをコンピューターにインストールする操作の説明です。

ドライバーとは、本製品の駆動(ドライブ)に必要なソフトウェアを意味します。

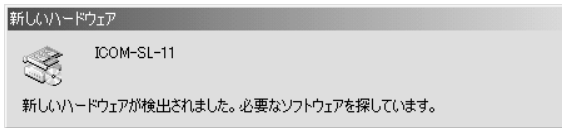
ご使用になるOSによって、インストールするドライバーが異なります。

本製品をWindows Meでご使用になる場合のドライバーは、本製品のドライバーは、本製品のCD-ROMディスクに収められています。

【ご注意】 ドライバーのインストールを行う前に、「3-1 取り付ける前に確認する」(☞P 5)で、ご使用になるコンピューターのディスクドライブ名を確認してください。

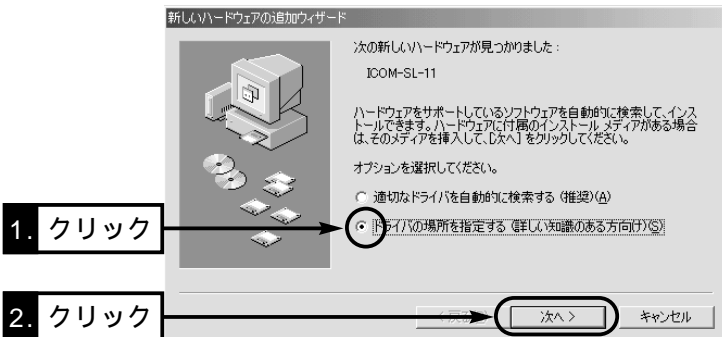
【インストールの手順】

1. 本製品を「3-2 本製品を取り付ける」(☞P 7)の説明にしたがって取り付けると、コンピューターが自動的に認識して、次の画面を表示します。



2. 次の画面が表示されたら、本製品のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ [D:] (以後CD-ROMドライブをDとする) に挿入します。さらに、[ドライブの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)(S)] のチェックボックスにチェックを入れて、次へ をクリックします。

CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作したときは、終了 ボタンをクリックします。

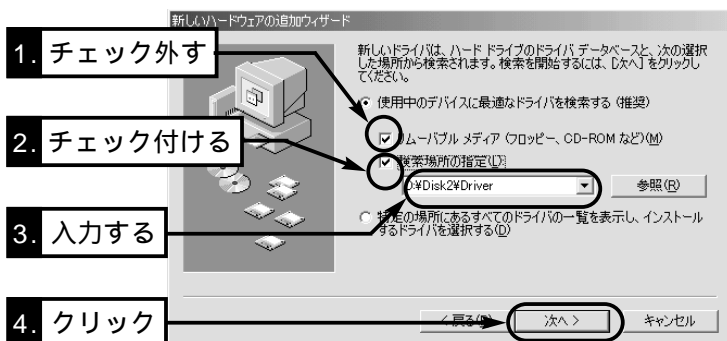


4 ドライバーのインストール

4-3 Windows Me 編

【インストールの手順】(つづき)

3. [リムーバブル メディア(フロッピー、CD-ROMなど)(M)]のチェックボックスにチェックを入れて、本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのCD-ROMドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Disk2¥Driver)してから、次へ をクリックします。



4. ドライバーの場所が見つかると、次の画面を表示しますので、次へ をクリックします。



5. ドライバーが読み込まれると、本製品のプロパティ画面を表示します。

設定は、あとからでも行えますので、そのまま OK をクリックします。

設定項目について詳しくは、「6 無線通信モードの設定」(P 47)と「7 設定ユーティリティを使うには」(P 55)で説明します。

本製品のCD-ROMに収められた設定ユーティリティをインストールして設定を行うことも可能です。



4 ドライバーのインストール

4-3 Windows Me 編

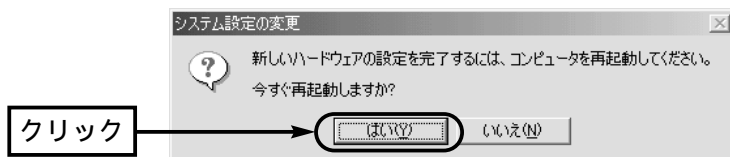
【インストールの手順】(つづき)

6.次の画面で **完了** をクリックします。



7.本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクをCD-ROMドライブから取り出して、 **はい(Y)** をクリックします。

コンピューターが再起動すると、インストールは完了です。



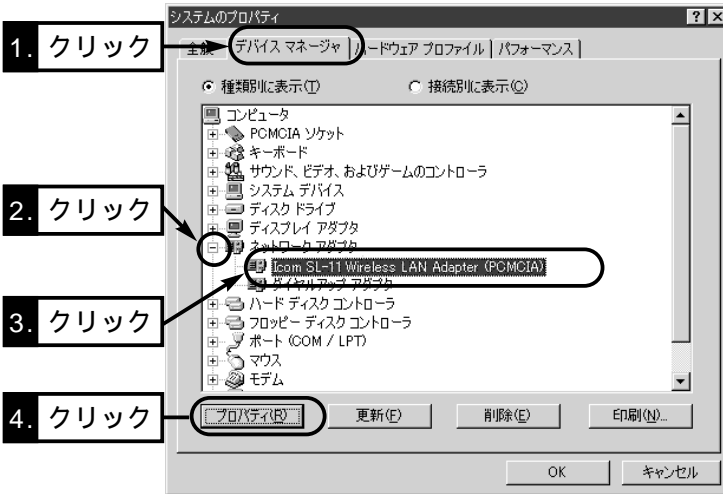
8.再起動後、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]の入力を求められたときは、その画面にしたがって操作してください。

4-4 正しくインストールされているか確認する

Windows 95/98を例に、ドライバーのインストール後、本製品が正常に動作していることを確認する手順を、説明します。

【確認の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.「コントロール パネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3.[デバイスマネージャ]タブ 「ネットワークアダプタ」の[+]をクリックします。
「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。
 - ドライバーが正しくインストールされていると、「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」を、画面のように表示します。



「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」のアイコンに「!」や「x」マークがついていたり、「? その他のデバイス」という項目に「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」が表示されているときは、「10-1 トラブルシューティング(Windows 95/98環境でのトラブル)」(P 84)をご参照ください。

4 ドライバーのインストール

4-4 正しくインストールされているか確認する

【確認の手順】(つづき)

4.[デバイスの状態]欄に、「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認します。

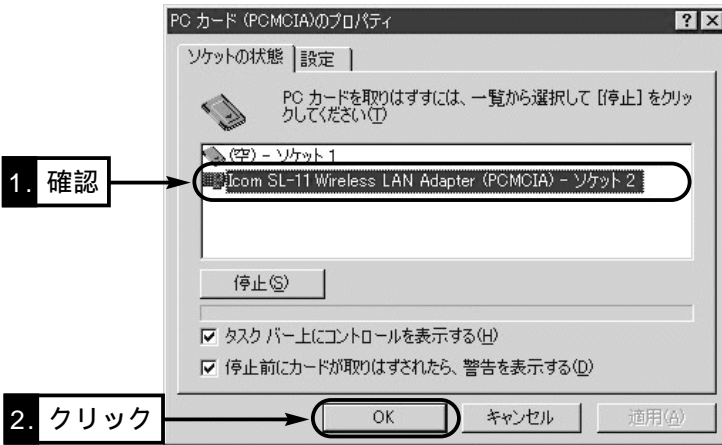
表示されていれば、本製品は正常に動作していますので、OK をクリックすると、手順3.の画面に戻ります。

表示されないときは、「10-1 トラブルシューティング(Windows95/98環境でのトラブル)」(⇨P 84)をご参照ください。



5.手順3.の画面で、OK をクリックします。

- 6.手順1.で操作した「コントロールパネル」画面の中から、[PCカード (PCMCIA)]アイコンをダブルクリックすると、次の画面を表示します。
「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」が表示されていることを確認できれば、本製品は正常に動作していますので、OK をクリックします。



本製品が正常に動作しているときは、「5 無線ネットワークへの接続準備」(P 38)に進みます。

4 ドライバーのインストール

4-5 WindowsNT4.0 (Service Pack 3以降)編

本製品のドライバーをコンピューターにインストールする操作の説明です。
本製品のドライバーは、本製品のCD-ROMディスクに収められています。

【ご注意】ドライバーのインストールを行う前に、「3-1 取り付ける前に確認する」(P5)を参考に、ご使用になるコンピューターのディスクドライブ名を確認してください。

【インストールの手順】

ご使用になるコンピューターに、すでに別のLANカードが導入されている(既存のネットワークで使用できる)場合と始めてLANカードを導入する(ネットワークに接続したことがない)場合とでは、インストールの手順が異なります。

1.「3-2 本製品を取り付ける」(P7)の説明にしたがって本製品を取り付けてから、コンピューターの電源を入れます。

- 「ログオンの開始」画面を表示します。

2.Administrator権限でログオンして、マウスを<スタート> [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。

- コンピューターの設定状態によって、次のどちらかの画面を表示します。

【はじめてLANカードを導入する状態で表示される画面】

<はい(Y)>をクリックして、手順3.の操作に進みます。

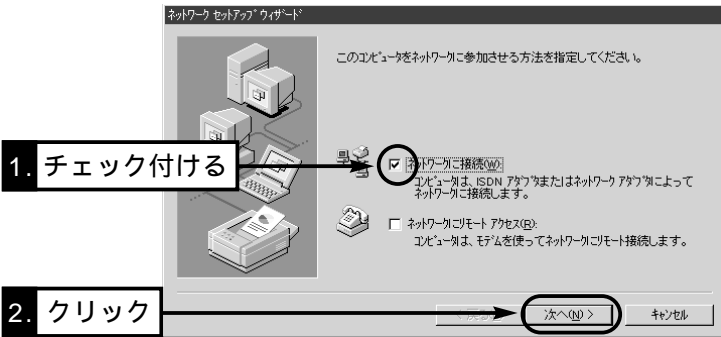


【すでに別のLANカードを導入している状態で表示される画面】

[アダプタ]タブ 追加(A) をクリックして、手順5.の操作に進みます。



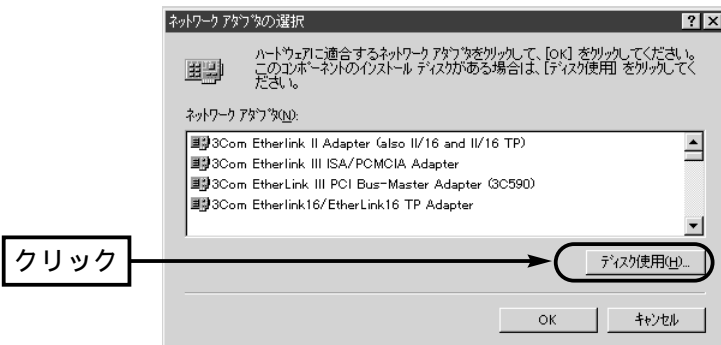
3. [ネットワークに接続(W)]のチェックボックスにチェックを入れて、次へ(N)をクリックします。



4. 一覧から選択(S)... をクリックします。



5. ディスク使用(H)... をクリックします。



4 ドライバーのインストール

4-5 WindowsNT4.0(Service Pack 3 以降)編

【インストールの手順】(つづき)

- 6.本製品のドライバーを収めたCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ[D:](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入して、CD-ROMドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Disk1¥Driver¥WinNT)して OK をクリックします。
CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作したときは、終了 ボタンをクリックします。

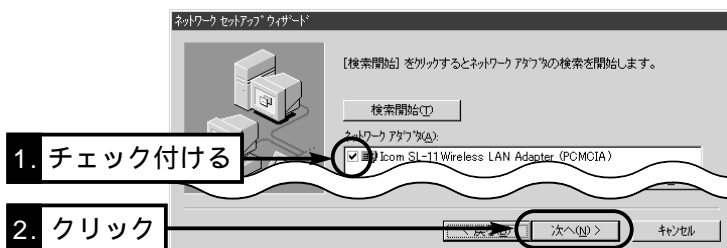


- 7.「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter(PCMCIA)」をクリックして、OK をクリックします。

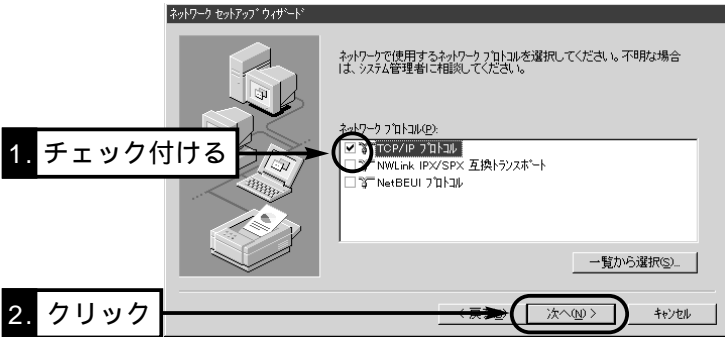
手順2.の操作で、「すでに別のLANカードを導入している状態が表示される画面」を表示されたときは、手順13.に進みます。



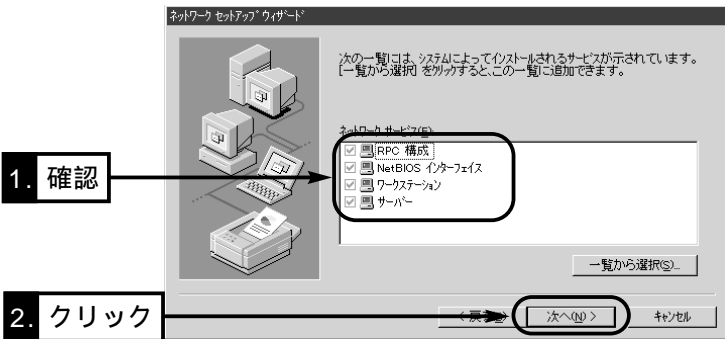
- 8.「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter(PCMCIA)」のチェックボックスがチェックされているのを確認してから、次へ(N) をクリックします。



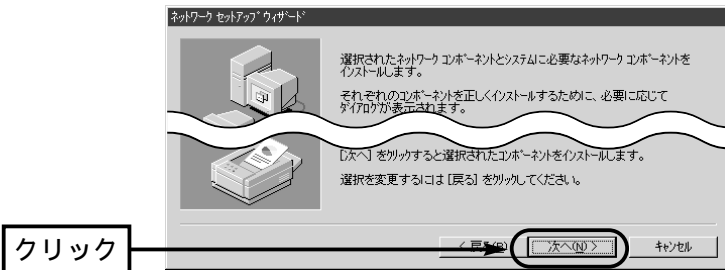
9. TCP/IPプロトコルのチェックボックスにチェックマークを入れてから、次へ(N) をクリックします。



10. ネットワークで使うサービスのチェックボックスにチェックが入っていることを確認して、次へ(N) をクリックします。



11. 次へ(N) をクリックすると、手順9.と手順10.で選択されたプロトコルおよびサービスのインストールを開始します。

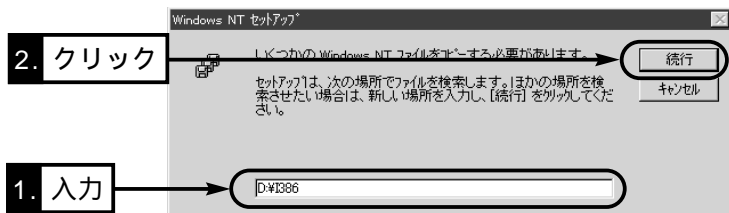


4 ドライバーのインストール

4-5 WindowsNT4.0(Service Pack 3 以降)編

【インストールの手順】(つづき)

- 12.WindowsNT4.0のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ[D:](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入(本製品のCD-ROMディスクと入れ替える)して、CD-ROMのドライブ名「D:」とそのフォルダーを指定(D:¥I386)してから **続行** をクリックします。



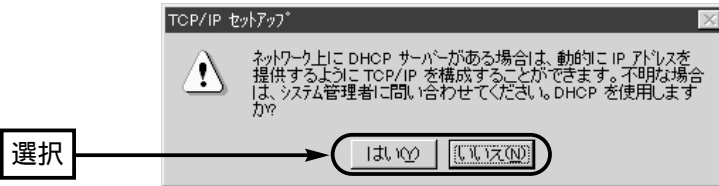
- 13.プロパティ画面の設定は、あとから行いますので、**OK** をクリックします。プロパティ画面の設定項目については、「6 無線通信モードの設定」(⇒P47)と「7 設定ユーティリティを使うには」(⇒P55)で説明します。本製品のCD-ROMに収められた設定ユーティリティをインストールして設定を行うことも可能です。

手順2.の操作で、「すでに別のLANカードを導入している状態が表示される画面」を表示されたときは、手順21.に進みます。



14. DHCPサーバーを使用するかしないかを選択します。

DHCPサーバー機能が設定された弊社製アクセスポイントにワイヤレス接続するときは、はい(Y) を選択します。また、ネットワーク上にDHCPサーバーとして稼働する機器がない(コンピューターだけで無線ネットワークを構築する)ときは、いいえ(N) を選択します。



15. 手順14.で はい(Y) を選択したときは、手順16.に進みます。

手順14.で いいえ(N) を選択したときは、手順23.(P 34)に進みます。

16. 必要があれば内容を変更して、次へ(N) をクリックします。



17. 次へ(N) をクリックします。



4 ドライバーのインストール

4-5 WindowsNT4.0(Service Pack 3 以降)編

【インストールの手順】(つづき)

18.ワークグループ(またはドメイン)名を入力して、次へ(N) をクリックします。

ワークグループは、同じワークグループに属する相手間で、すべて同じ名前を設定してください。

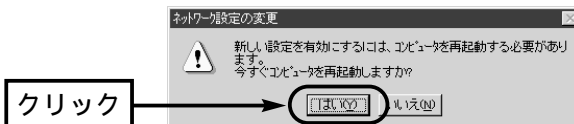


19. 完了 をクリックします。

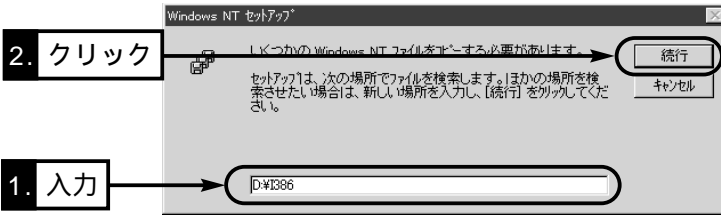


20.本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクをCD-ROMドライブから取り出して、はい(Y) をクリックします。

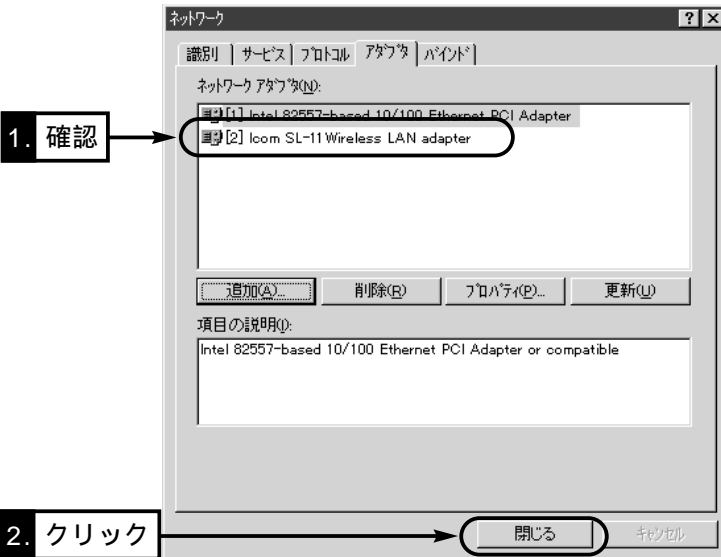
コンピューターが再起動すると、インストールは完了です。



21.WindowsNT4.0のCD-ROMの入ったドライブ名「D:」とそのフォルダーを指定(D:¥I386)してから 続行 をクリックします。



22.[ネットワークアダプタ(N)]として「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter」が表示されていることが確認できれば、LANカードドライバーのインストールは完了ですので、<閉じる>をクリックします。



23.「5 無線ネットワークへの接続準備」(P 38)での説明を参考に、必要なネットワーク環境の設定を行ってください。

4 ドライバーのインストール

4-6 Windows2000編

本製品のドライバーをコンピューターにインストールする操作の説明です。
本製品のドライバーは、本製品のCD-ROMディスクに収められています。

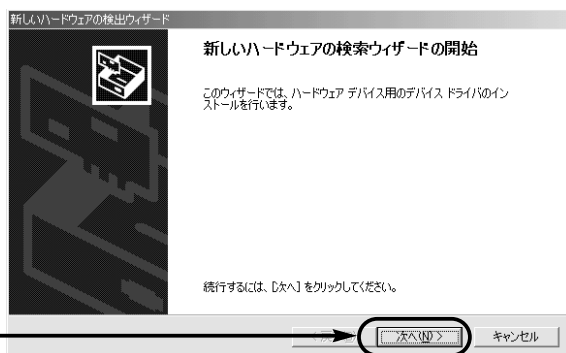
【ご注意】ドライバーのインストールを行う前に、「3-1 取り付ける前に確認する」(⇒P5)を参考に、ご使用になるコンピューターのディスクドライブ名を確認してください。

【インストールの手順】

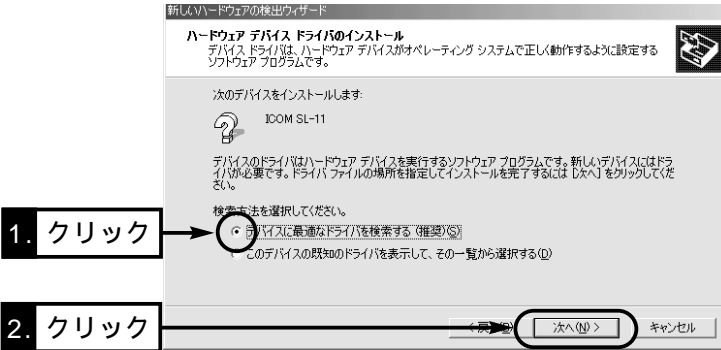
- 1.コンピューターの電源を入れます。
 - 「ログオンの開始」画面を表示します。
- 2.Administrator権限でログオンして、「3-2 本製品を取り付ける」(⇒P7)の説明にしたがって本製品を取り付けると、コンピューターが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。



- 3.次の画面が表示されたら、本製品のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブ [D:] (以後CD-ROMドライブをDとする) に挿入して、次へ をクリックします。
CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作したときは、終了 ボタンをクリックします。



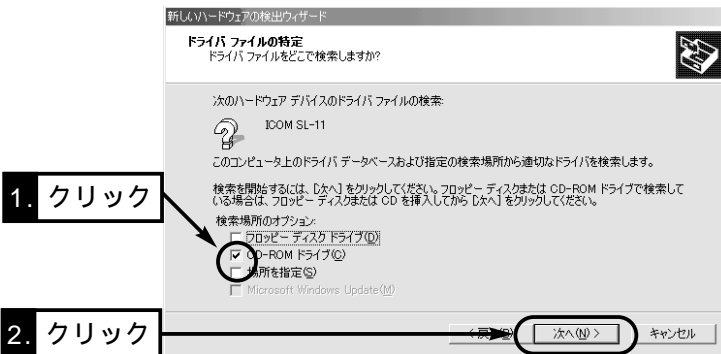
4.[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)(S)]のチェックボックスにチェックを入れて、 次へ(N) をクリックします。



1. クリック

2. クリック

5.[CD-ROMドライブ(C):]のチェックボックスにチェックを入れてから、 次へ をクリックします。

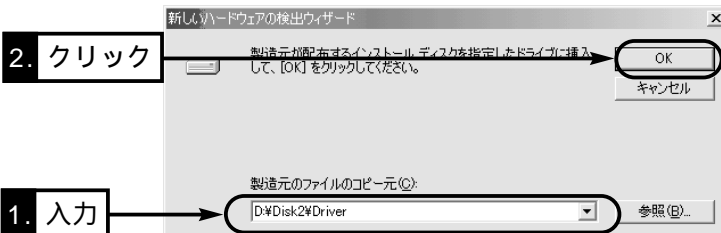


1. クリック

2. クリック

4

6.本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのドライブ名「D:」とそのフォルダーを指定(D:¥Disk2¥Driver)してから、 OK をクリックします。

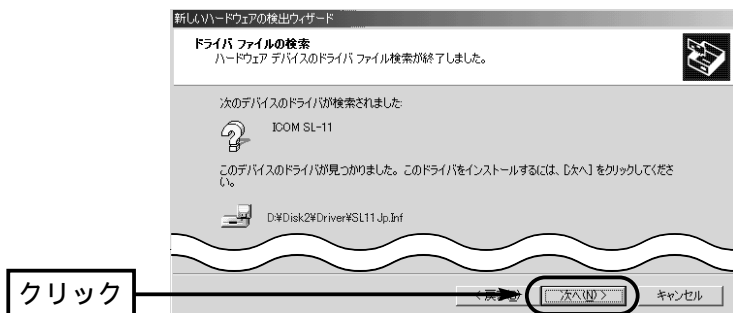


2. クリック

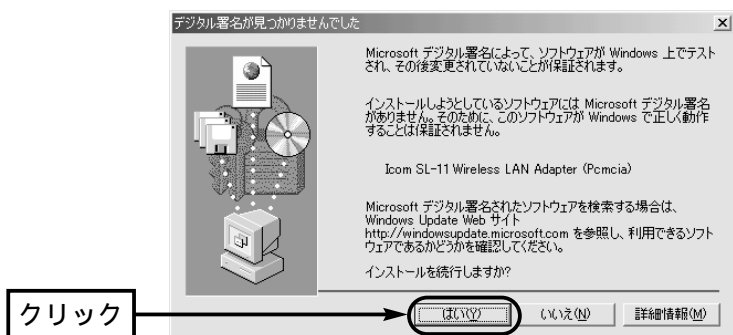
1. 入力

4 ドライバーのインストール

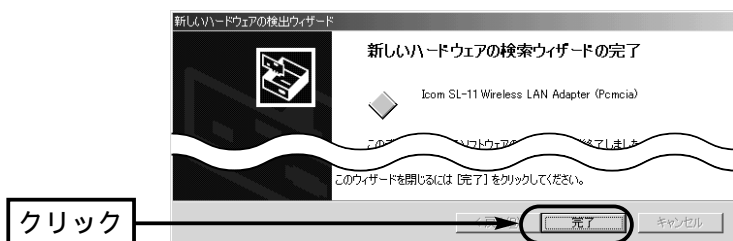
7. ドライバーの場所が見つかると、次の画面を表示しますので、次へ(N) をクリックします。



8. はい(Y) をクリックします。



9. 本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクをCD-ROMドライブから取り出して、完了 をクリックすると、インストールは完了です。



10. 「5 無線ネットワークへの接続準備」(⇨P 38)での説明を参考に、必要なネットワーク環境の設定を行ってください。

本製品を装着するコンピューターが、構築されたネットワーク上の資源を共有するために必要な設定および確認の手順を、Windows95/98を例に説明します。

ほかのOSおよびその詳細については、OSのガイド等でネットワークに関する説明をご覧ください。

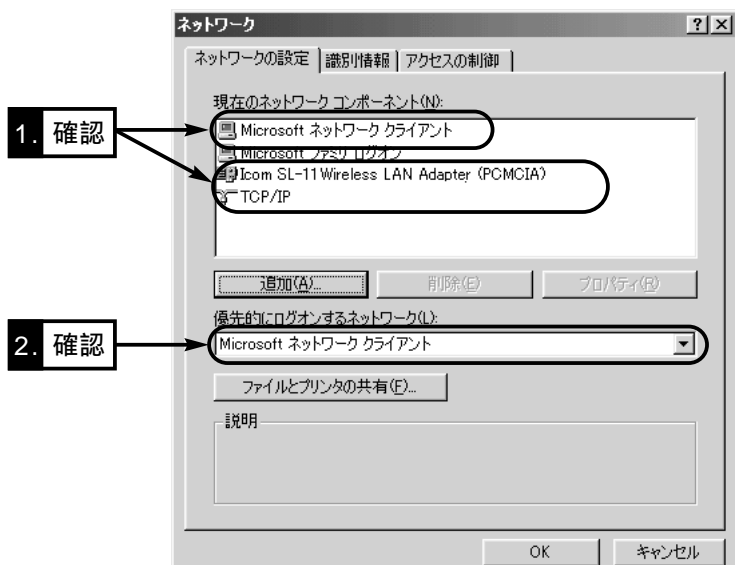
5-1 「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーククライアント」の確認

【確認の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認すれば、「5-2 Microsoft ネットワーク共有サービスの追加」(P 39)に進みます。

Windows98をお使いのかたは、[優先的にログオンするネットワーク(L)]が、「Microsoft ネットワーククライアント」となっていることを確認してください。

「ネットワーク」画面の中に、本製品以外のネットワークアダプターも一緒に組み込まれている場合、下記の画面で本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」と表示されますので、これを確認してください。

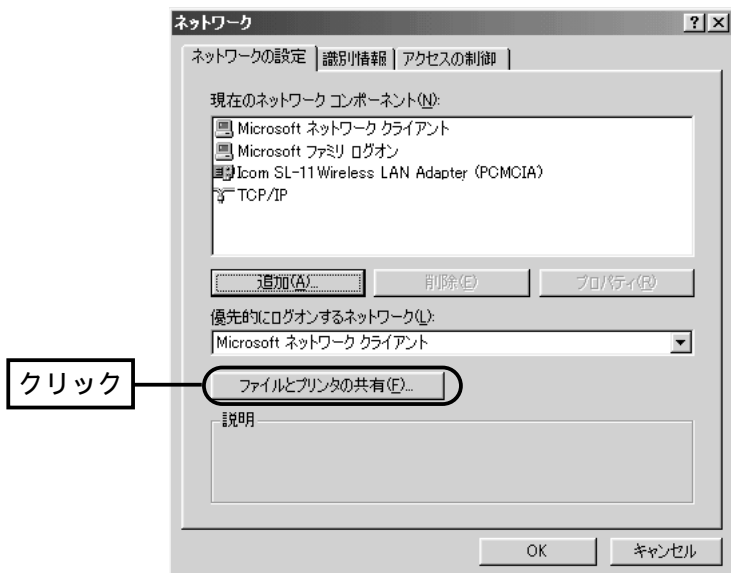


5 無線ネットワークへの接続準備

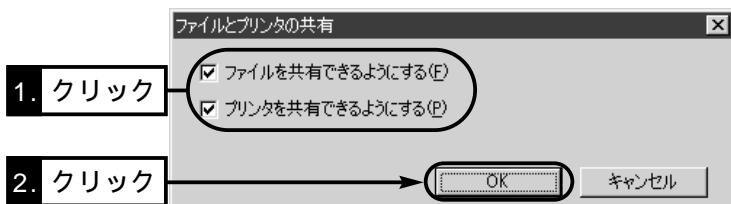
5-2 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

【追加の手順】

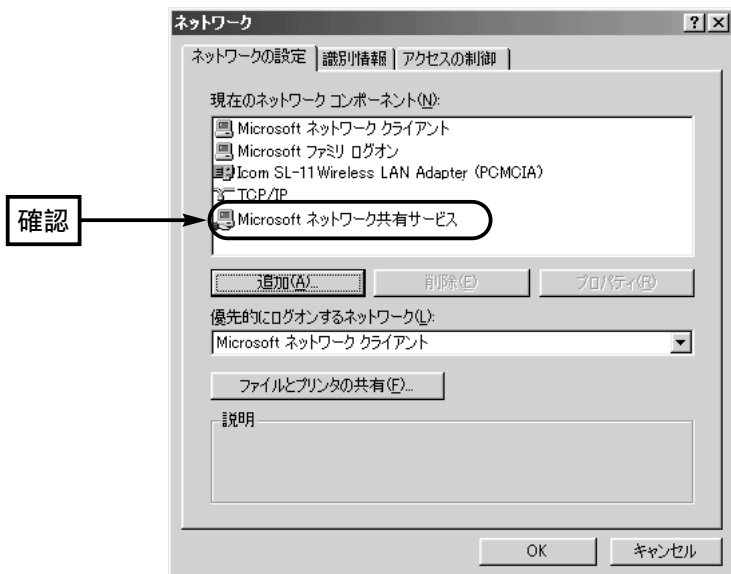
1. 「TCP/IP」と「Microsoft ネットワーククライアント」の確認(⇒P 38)のとき開いた画面から、ファイルとプリンタの共有(E)... をクリックします。



2. [ファイルを共有できるようにする(E)]と[プリンタを共有できるようにする(E)]の両方のチェックボックスにチェックを入れてから、OK をクリックします。



- 3.「ネットワーク」画面の中に、「Microsoft ネットワーク共有サービス」が追加されていることを確認すれば、「5-3 TCP/IPの設定」(P 41)に進みます。



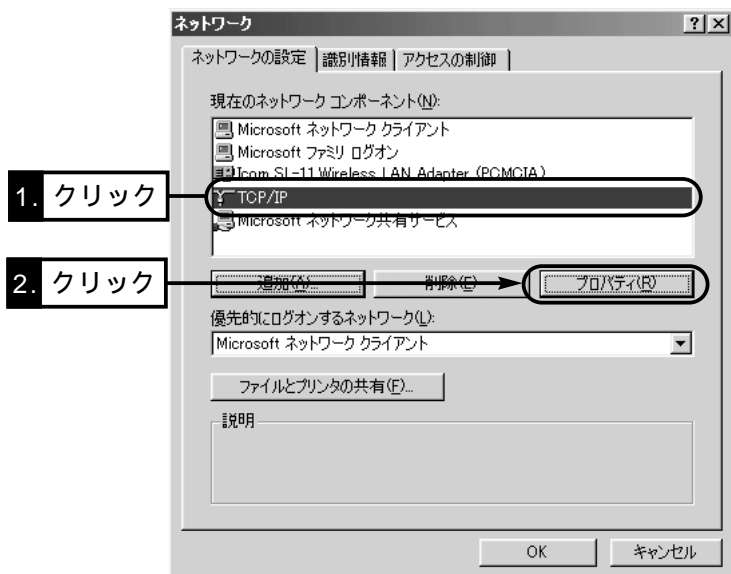
5 無線ネットワークへの接続準備

5-3 「TCP/IP」の設定

【設定の手順】

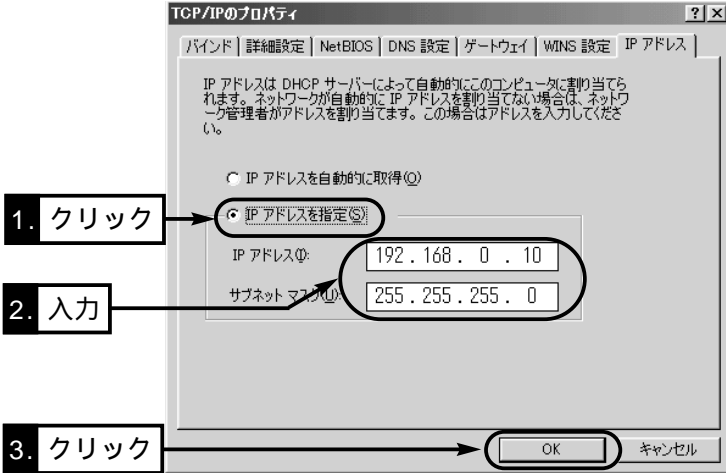
1. 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加(⇒P 39)のとき開いた画面から、「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。

「ネットワーク」画面の中に、本製品以外のネットワークアダプターも一緒に組み込まれている場合は、本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」と表示されますので、これをクリックしてください。



2. アドホックモード(⇒P 3)で使用する場合は、手順3.と手順5.の設定を行います。
- インフラストラクチャーモード(⇒P 3)で使用する場合は、手順4.と手順5.の設定を行います。

3. [IPアドレスを指定(S)]のオプションボタンをクリックするとチェックマークが入りますので、[IPアドレス(I)]と[サブネットマスク(U)]を入力してから、OK をクリックします。



【IPアドレスの指定について】

- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのコンピューターのIPアドレスは、重複しないように設定してください。
- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのコンピューターのサブネットマスクは、同じ値を設定してください。
- インターネットに接続する環境を持たないで通信するような小規模なネットワーク(253台まで)の場合、プライベートアドレスとして192.168.0.0～192.168.255.255を使用します。なお、192.168.0.0(ネットワークアドレス)と192.168.0.255(ブロードキャストアドレス)は、特別なアドレスとして扱われますので、コンピューターには、割り当てないでください。

3台のコンピューターで通信する場合の例は、以下のようになります。

コンピューターA：192.168.0.10(サブネットマスク：255.255.255.0)

コンピューターB：192.168.0.11(サブネットマスク：255.255.255.0)

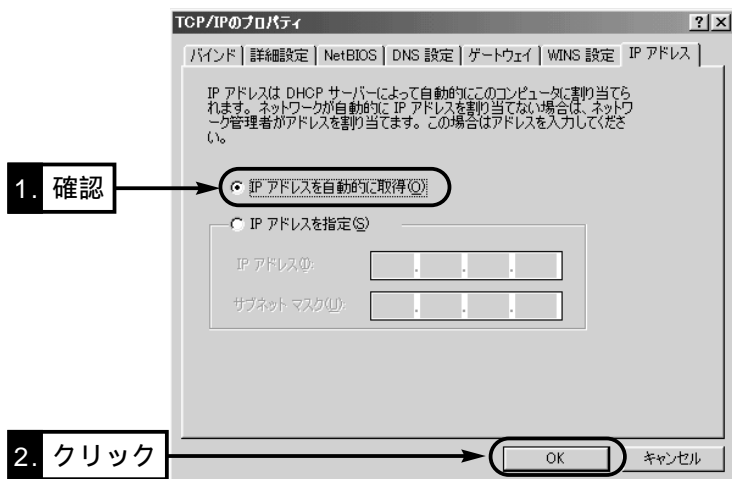
コンピューターC：192.168.0.12(サブネットマスク：255.255.255.0)

5 無線ネットワークへの接続準備

5-3 「TCP/IP」の設定

【設定の手順】(つづき)

4.[IPアドレスを自動的に取得(O)]のオプションボタンに、チェックマークが入っていることを確認してから、OK をクリックします。



5.再起動を促す画面が表示されたら、OK をクリックします。

再起動後、「5-4 「コンピュータ名」、「ワークグループ名」の設定」(P 44)に進みます。

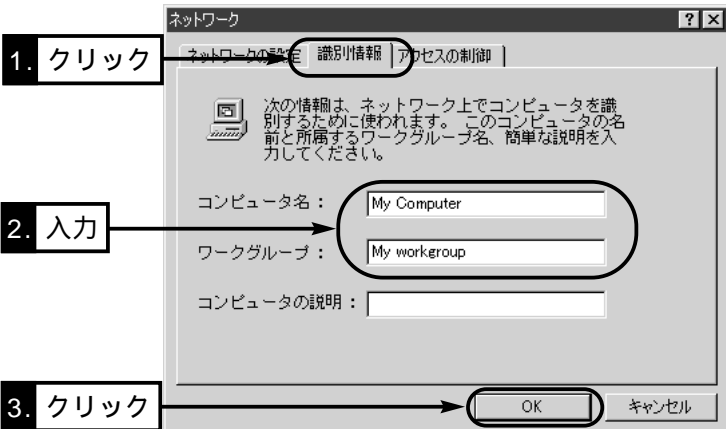
【IPアドレスの自動割り当てについて】

- DHCPサーバーには、コンピュータにIPアドレスを自動的に割り当てて、管理する機能が備わっていますので、アクセスする弊社製無線アクセスポイントおよびその先のネットワーク上にDHCPサーバーとして稼働する機器(Windows NTサーバーなど)がある場合は、上記画面で[IPアドレスを自動的に取得(O)]を選択してください。
- アクセスする弊社製無線アクセスポイントおよびその先のネットワーク上にDHCPサーバーとして稼働する機器がない(Windows 95/98のコンピュータだけで構成される)場合は、IPアドレスを前ページの手順3.と同様に手動で設定する必要があります。
- 既存のネットワークに接続するような場合は、IPアドレスを指定するのか自動的に取得させるのかをネットワーク管理者に確認してから設定を行ってください。

5-4 「コンピュータ名」、「ワークグループ名」の設定

【設定の手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
- 2.[識別情報]タブ(Windows95の場合は、[ユーザー情報]タブ)をクリックして、[コンピュータ名:]、[ワークグループ:]のテキストボックスに情報を入力してから、OK をクリックします。
入力は、半角15文字以内(任意の英数字)になるようにします。



- 3.再起動を促す画面が表示されたら、はい(Y) をクリックすると、コンピューターを再起動します。
- 4.再起動後、「5-5 共有フォルダーの設定」(P 45)に進みます。

【コンピュータ名：】 ネットワーク上で、個々のコンピューターの識別用の名前を入力します。なお、同じネットワークグループのコンピューターと重複しないように設定してください。

【ワークグループ：】 同じ名前を設定したコンピューターが、ネットワーク上で同じネットワークグループとして認識されます。通信の対象となるすべてのコンピューターと同じ名前を設定してください。

異なる名前を設定すると通信できません。

【コンピュータの説明：】 必要があれば、任意に入力します。

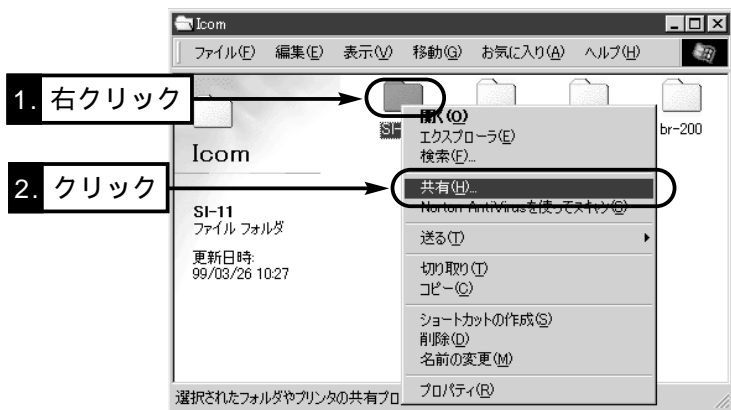
5 無線ネットワークへの接続準備

5-5 「共有フォルダー」の設定

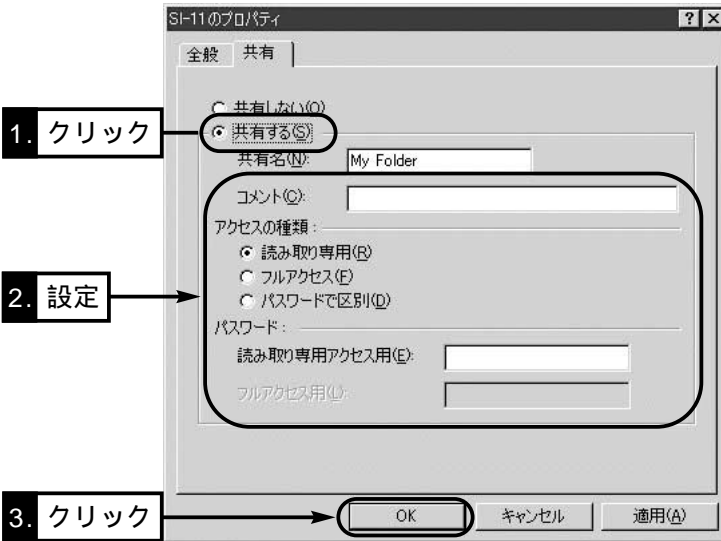
自分のコンピューターのドライブまたはフォルダーを相手先に公開するための設定について説明します。

【設定の手順】

1. デスクトップにある[マイコンピュータ]アイコンなどから、共有したいフォルダーのあるウィンドウを開きます。
2. 共有したいフォルダー上にカーソルを移動して右クリックします。
表示されたショートカットメニューから[共有(H)]をクリックします。



3. [共有する(S)]のオプションボタンをクリックして、[共有名(N):]、[コメント(C):]、[アクセスの種類:]、[パスワード:]などを確認または変更して、OK をクリックします。



4. 設定したフォルダーのアイコンが、画面のように変わっていることが確認できれば、「6 無線通信モードの設定」(P 47)に進みます。



6

無線通信モードの設定

6-1 アドホックモードで無線通信する

アドホックモードを使うと、本製品を装着したコンピューター同士でネットワーク環境を共有できます。

アドホックモードに変更する手順について、Windows95/98を例に説明します。

コンピューター1台につき、本製品1枚が必要です。

無線通信を行うすべてのコンピューターについて次の設定を行ってください。

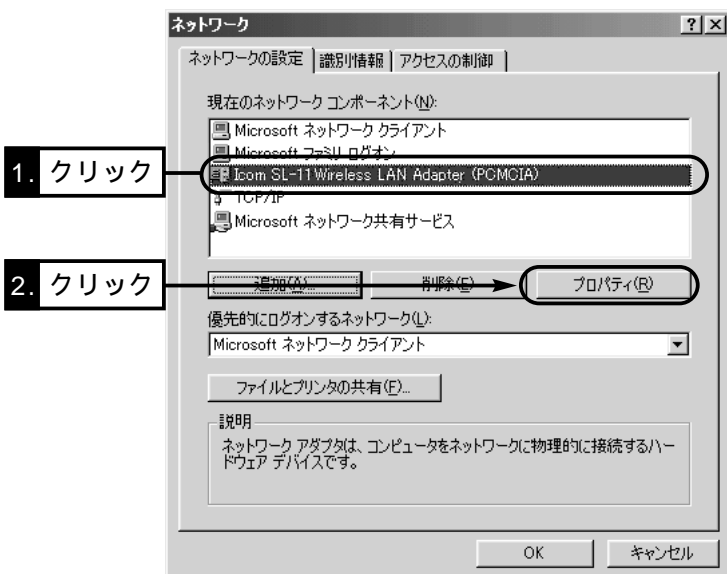
工場出荷時は、インフラストラクチャーモードに設定されています。

WindowsNT4.0は、6-4章(⇒P 52)、Windows2000は、6-5章(⇒P 53)を参照してください。

【ご参考に】最大40～50台を同じネットワークグループとして接続できますが、頻繁に通信をするような環境では、接続台数が10台以下となることをおすすめします。

【設定の手順】

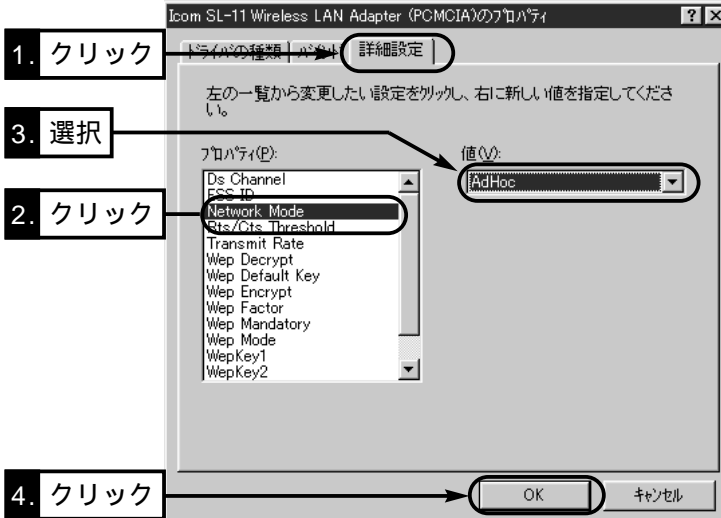
- 1.マウスを **スタート** [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
- 2.「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 **プロパティ(R)** の順番にクリックします。



3.[詳細設定]タブ 「Network Mode」 「Adhoc」を選択して、 OK をクリックします。

ほかの項目については、工場出荷時の状態でも通信可能ですので、その項目の説明については、「7 設定ユーティリティーを使うには」(P 55)をご覧ください。

本製品のプロパティ画面



4.手順2.の画面で、 OK をクリックします。

5.再起動を促す画面が表示されたときは、 はい(Y) をクリックします。

コンピューターが再起動すると、設定した値が有効になります。

6.再起動後、「6-3 無線ネットワークへの接続を確認する」(P 51)に進みます。

Windows95でご使用のかたへ

本製品の設定ユーティリティー(P 55)は、Windows95ではご使用になれません。本製品のすべての設定は、本製品のプロパティ画面で行ってください。

6 無線通信モードの設定

6-2 インフラストラクチャーモードで無線通信する

インフラストラクチャーモードを使うと、本製品を装着するコンピューターから、離れた場所にある無線アクセスポイント機能を搭載した弊社製のネットワーク機器 (AP-11、SR-11、AP-3、DR-1WL など) にアクセスすることで、ネットワーク環境を共有できます。

ここでは、設定をインフラストラクチャーモードに変更する手順について説明します。

他社製の無線アクセスポイントへの接続はできません。

コンピューター 1 台につき、本製品 1 枚と、AP-3 や DR-1WL にも本製品を取り付ける必要があります。

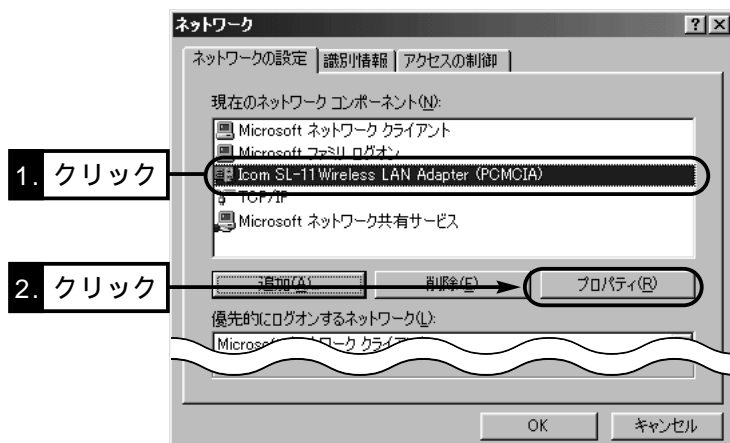
無線通信を行うすべてのコンピューターについて次の設定を行ってください。

工場出荷時は、インフラストラクチャーモードに設定されています。

【おことわり】 本製品を使って弊社製無線アクセスポイントに同時接続できるコンピューターの台数については、弊社製無線アクセスポイントに付属する取扱説明書をご覧ください。

【設定の手順】

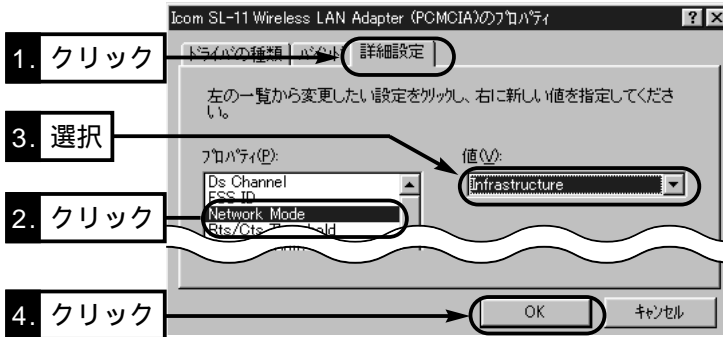
1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
2. 「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



- 3.[詳細設定]タブ 「Network Mode」 「Infrastructure」を選択して、OK をクリックします。

ほかの項目については、工場出荷時の状態でも通信可能ですので、その項目の説明については、「7 設定ユーティリティーを使うには」(P 55)をご覧ください。

本製品のプロパティ画面



- 4.手順2.の画面で、OK をクリックします。
- 5.再起動を促す画面が表示されたときは、はい(Y) をクリックします。
コンピューターが再起動すると、設定した値が有効になります。
- 6.再起動後、「6-3 無線ネットワークへの接続を確認する」(P 51)に進みます。

Windows95でご使用のかたへ

本製品の設定ユーティリティー(P 55)は、Windows95ではご使用になれません。本製品のすべての設定は、本製品のプロパティ画面で行ってください。

6 無線通信モードの設定

6-3 無線ネットワークへの接続を確認する

ここまでの設定が終わったら、同じワークグループに所属するそのほかのコンピューターの共有フォルダーに接続できることを確認します。

1. デスクトップ上の[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
2. 同じワークグループに所属するコンピューターのアイコン、さらに自分自身のコンピューターのアイコン(例:My station)が「ネットワークコンピュータ」画面に表示されていることを確認します。
表示されていれば、ネットワークへの接続は正常です。
IPパケットが相手先に正しく届いているかどうかを確認するには、「10-2 pingコマンドを使って接続を確認する」(☞P 90)をご覧ください。



【ご参考に】

自分のコンピューターのワークグループ名と異なるネットワークに接続されているほかのコンピューターを見るときは、[ネットワーク全体]アイコンを選択すると、その一覧を表示できます。なお、ESS ID(☞P 61)の設定が異なる無線ワークグループは、その画面に表示されませんので、ネットワーク情報を他人に知られたくないときなどは、無線ワークグループ(☞P 44)ごとにその設定を変更してください。

6-4 WindowsNT4.0の場合

無線通信モードの設定に使うプロパティ画面を表示する手順を説明します。

無線通信モードについて詳しくは、6-1章(☞P 47)または6-2章(☞P 49)を参照してください。

【プロパティ画面を表示する手順】

1.マウスを<スタート> [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコン [アダプタ]タブの順に操作します。

[ネットワークアダプタ(N):]から「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter」 プロパティ(P)... の順にクリックします。



2.本製品のプロパティ画面を表示します。

この画面からネットワークモードを選択して、OK をクリックします。



3.手順1.の画面で、OK をクリックすると、再起動を促すメッセージがでますので、その画面にしたがってください。

6 無線通信モードの設定

6-5 Windows2000の場合

無線通信モードの設定に使うプロパティ画面を表示する手順を説明します。

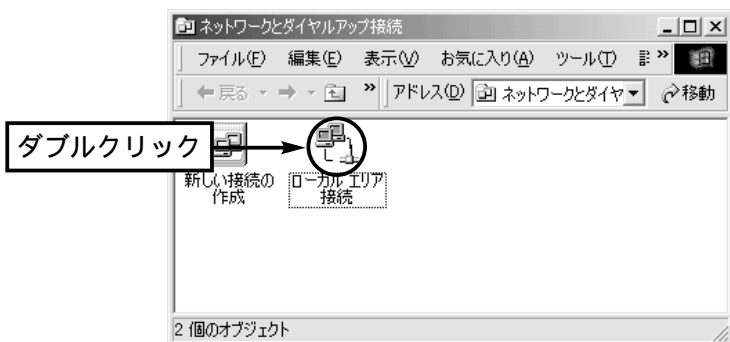
無線通信モードについては、6-1章(⇨P 47)または6-2章(⇨P 49)を参照してください。

【プロパティ画面を表示する手順】

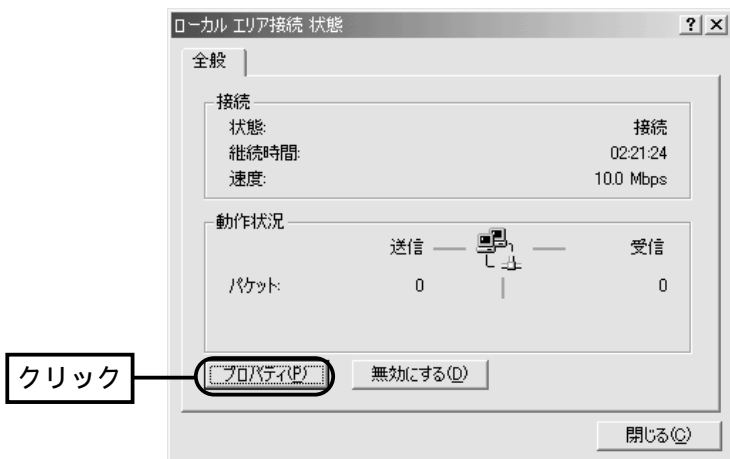
1.マウスを スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] の順番に操作します。

[ローカル エリア接続]アイコンをダブルクリックします。

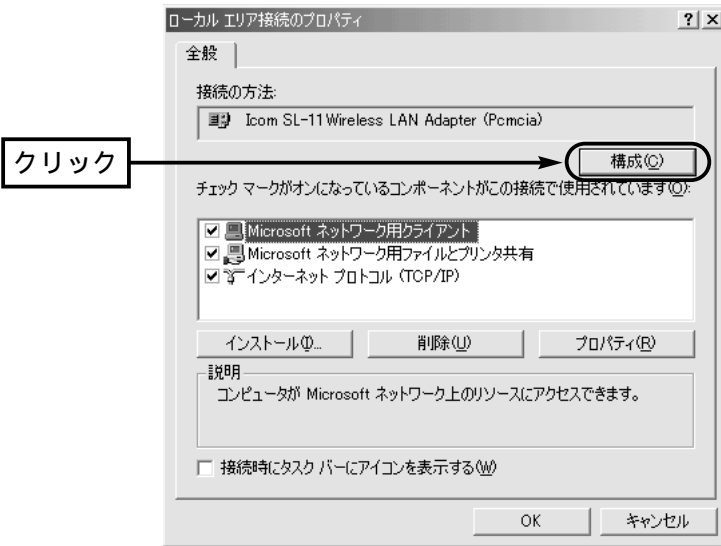
[ローカルエリア接続]アイコンが表示されないときは、本製品の装着状態を確認してください。



2. プロパティ(P) をクリックします。

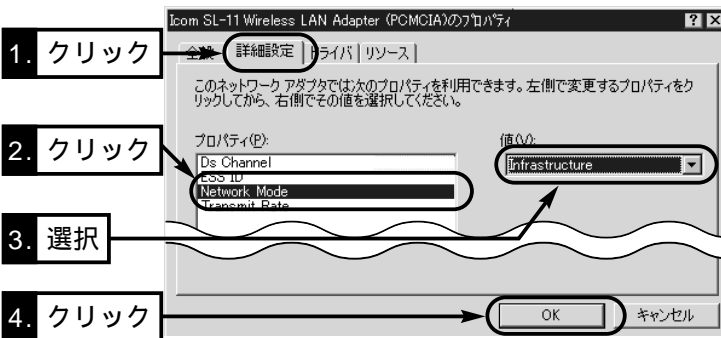


3. 構成(C) をクリックします。



4. [詳細設定] タブをクリックして、[プロパティ(P):]の中から「Network Mode」をクリックして、[値(V):]の中から、無線通信モードを選択します。

OK をクリックして画面を閉じます。



5. 手順2.、3.の画面を閉じると、再起動を促すメッセージがでますので、その画面にしたがってください。

7 設定ユーティリティを使うには

7-1 設定ユーティリティとは

本製品のプロパティ画面(☞P 17、22、31)の代わりに、このユーティリティを使って設定すると、設定変更後の再起動が必要ありません。また、無線伝送エリア内で通信するコンピュータの状態および設定状況をモニターする画面も用意されています。

【Windows95でお使いのかたへ】このユーティリティは、Windows95には対応していませんのでご注意ください。

Windows95をご使用のかたは、本製品のプロパティ画面(☞P 11)からすべての設定を行ってください。

プロパティ画面の設定項目については、このユーティリティで設定できる項目と同じですので、7-4章(☞P 59)以降の説明を参考に設定してください。

7-2 インストールのしかた

設定ユーティリティをインストールする手順について説明します。

本製品を使って通信するすべてのコンピュータにインストールしてください。

【インストールの手順】

1. 現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
2. 本製品のCD-ROMをコンピュータのCD-ROMドライブ[D:]に挿入します。
3. CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面が表示されます。
4. ユーティリティ インストール ボタンをクリックします。
ご使用のOSを認識しますので、次の手順にしたがって操作をします。



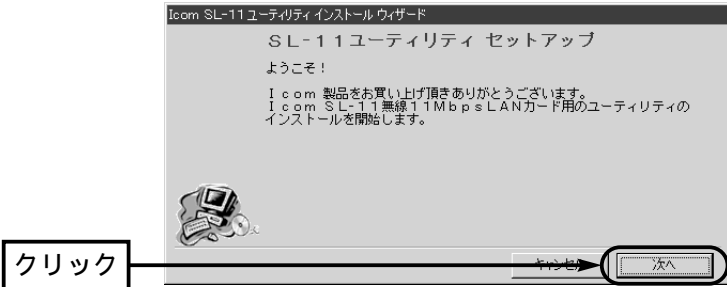
Auto Run機能が動作しないときは

エクスプローラーで、CD-ROMドライブの中に「Disk1」または「Disk2」フォルダーがあることを確認します。

WindowsNT4.0にインストールする場合は、「Disk1」フォルダーに収められた「Utility」フォルダーの中の「Setup.exe」をダブルクリックします。

Windows98/98SE/2000/Meにインストールする場合は、「Disk2」フォルダーに収められた「Utility」フォルダーの中の「Setup.exe」をダブルクリックして、手順5.以降の操作を行います。

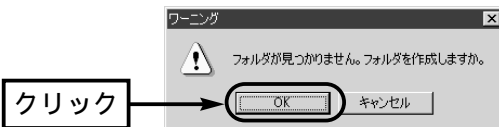
5. 次へ をクリックします。



6. このユーティリティのインストール先のフォルダーを指定して、次へ をクリックします。
表示されているインストール先を変更したいときだけ、参照 をクリックして変更先のフォルダーを指定します。



7. OK をクリックします。

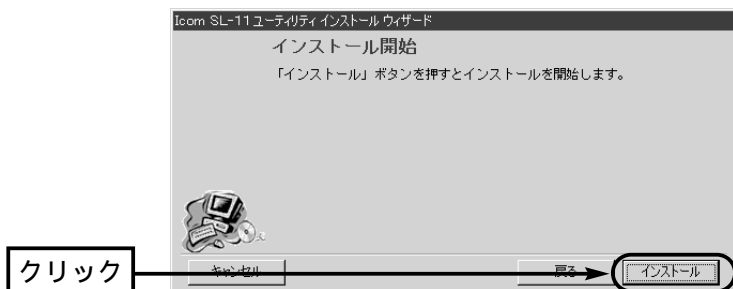


7 設定ユーティリティを使うには

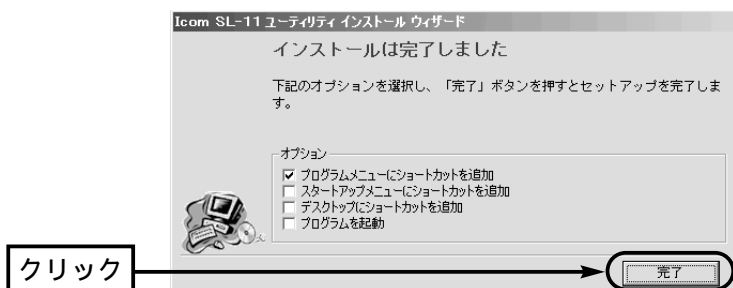
7-2 インストールのしかた

【インストールの手順】(つづき)

8. インストール をクリックします。



9. 完了 をクリックしてインストールが完了します。



7-3 起動のしかた

コンピューターにインストールされた設定ユーティリティの起動と終了のしかたについて説明します。

【起動の手順】

1. 本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに挿入します。

挿入されていない状態では、カードの通信状態を監視できません。

2. マウスを スタート [プログラム(P)] [SL-11 Utility]の順番に操作すると、設定ユーティリティが起動して常駐を示すアイコン(☞「タスクバーに表示されるアイコンの意味について」を参照)がタスクバーの上に表示されると起動が完了です。



3. 終了するときは、カーソルをそのアイコンの上に移動して、右クリックすると表示するポップアップメニューから「終了」を選択します。



【タスクバーに表示されるアイコンの意味について】



本製品を接続するコンピューターが、無線ネットワークに正常に接続された状態



無線通信モードがインフラストラクチャーのときだけ表示され、本製品を接続するコンピューターが、通信できる無線アクセスポイントの無線伝送エリアを外れた状態か、無線アクセスポイントを探している状態



本製品を接続するコンピューターの「無線通信モード」が違ったりアクセスポイントが見つからない、または本製品が接続されていない状態



本製品が接続されているが、ドライバーが正しくインストールされていないなどの理由で装着を認識できない状態

7 設定ユーティリティーを使うには

7-4 基本機能を設定する

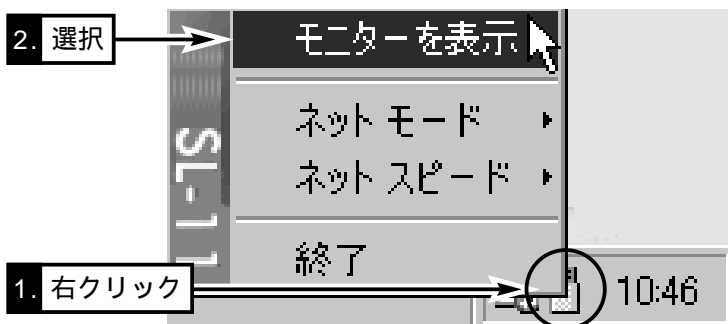
本製品を使うために最低限必要な設定を、このユーティリティーでの設定を例に説明します。

本製品に高度なセキュリティを確保したいときは、「7-5 特殊機能を設定する」(⇒P 64)も併せてご覧ください。

Windows95をご使用のかたは、ここで説明する設定項目を参考に本製品のプロパティ画面(⇒P 48)で設定を行ってください。

【設定のしかた】

- 1.本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに挿入します。
挿入されていない状態では、次の操作ができません。
- 2.タスクバー上に表示されたアイコンを右クリックして表示するメニューから、「モニターを表示」を選びます。



- 3.[通信設定]タブをクリックします。



4.無線通信モードを選択します。

(初期値：インフラストラクチャ)



「インフラストラクチャ」モード(⇨P 3)

データの交換をアクセスポイントを経由して行う場合の設定です。本製品のほかに弊社製無線アクセスポイントが別途必要になります。

「アドホック」モード(⇨P 3)

本製品同士で直接データの交換を行う場合の設定です。

通信には、本製品または弊社製の無線通信LANカードを装着したコンピューターを2台以上ご用意ください。

7 設定ユーティリティを使うには

7-4 基本機能を設定する

【設定のしかた】(つづき)

5.ESS IDを入力します。

(初期値：LG)

同じワークグループの相手間で、同じ値を設定してください。

設定値の入力は、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字 32文字以内で入力します。

[ワークグループ名](☞P 44)とは、区別して認識しますが、なるべく同じ名前に設定することをおすすめします。



ESS IDとは

無線ネットワーク識別用の名前を任意に設定する項目です。

無線伝送可能エリア内に、無線ワークグループを複数構成していて、ネットワーク情報を他の無線ワークグループから見られたくないとき変更します。

同じ無線ワークグループに対しては、同じ名前を入力してください。

異なる名前を設定すると通信できません。

6.DSチャンネルを設定します。(初期値：チャンネル 7)

手順4.で「インフラストラクチャ」を選択している場合は、弊社製アクセスポイント側で設定された通信チャンネルを使って通信しますので、この項目は変更できません。



DSチャンネルとは

無線伝送可能エリア内に、本製品の「アドホック」モードで通信する別の無線ネットワークグループがあるときは、混信を避けるため相手側ネットワークグループの通信チャンネルから4つ以上飛ばして設定してください。

それ以下に設定すると、図に示すように帯域幅の1部が重複するため混信する可能性があります。例えば、お互いの設定が1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。

無線伝送可能エリア内に、「インフラストラクチャー」モードで通信する別の無線ネットワークグループがあるときは、それぞれの無線アクセスポイント側で混信しない通信チャンネルを設定してください。

1チャンネル	6チャンネル	11チャンネル			
	2チャンネル	7チャンネル	12チャンネル		
	3チャンネル	8チャンネル	13チャンネル		
	4チャンネル	9チャンネル		14チャンネル	
	5チャンネル	10チャンネル			

2400 2410 2420 2430 2440 2450 2460 2470 2480 2490 2500
周波数(MHz)

7 設定ユーティリティを使うには

7-4 基本機能を設定する

【設定のしかた】(つづき)

7.通信速度を選択します。

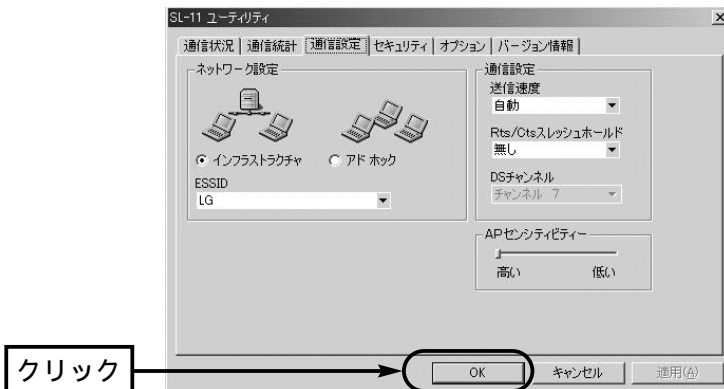
(初期値：自動)

「自動」「11Mb/s」「5.5 Mb/s」「1 Mb/s」「2 Mb/s」の中から選択できます。

「自動」にしておくと環境に合わせて最適な速度で通信を行います。



8.設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。



7-5 特殊機能を設定する

本製品に高度なセキュリティーを確保してご使用になるとき設定する項目について説明しています。

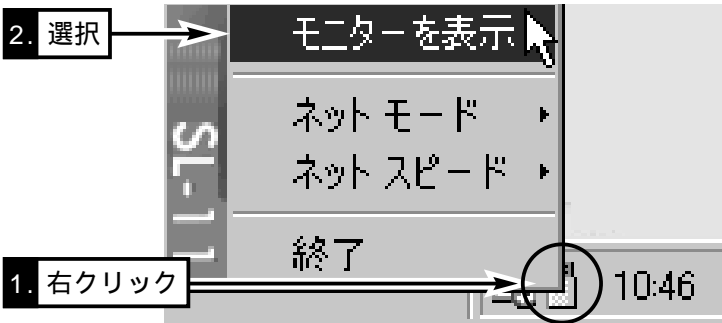
Windows95をご使用のかたは、ここで説明する設定項目を参考に本製品のプロパティ画面(☞P48)で設定を行ってください。

【設定のしかた】

- 1.本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに挿入します。

挿入されていない状態では、次の操作ができません。

- 2.タスクバー上に表示されたアイコンを右クリックして表示するメニューから、「モニターを表示」を選びます。



- 3.[通信設定]タブをクリックします。



7 設定ユーティリティを使うには

7-5 特殊機能を設定する

【設定のしかた】(つづき)

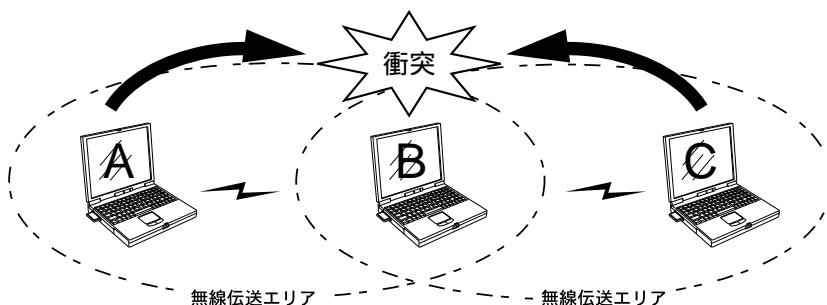
4. ネットワーク設定のために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(初期値：無し)
Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響で起こる通信速度の低下を防止できます。



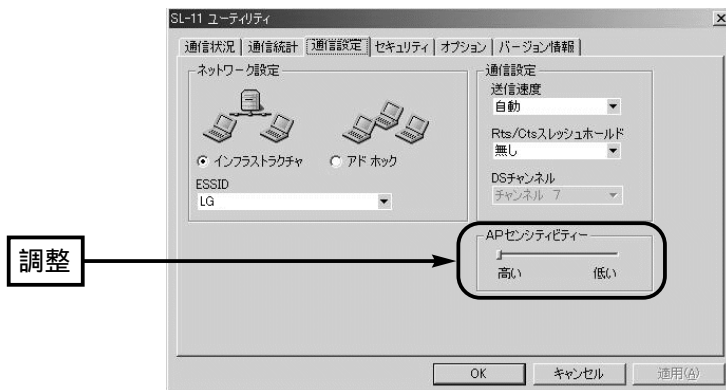
隠れ端末とは

図のように、[A]と[C]の無線端末間では、互いの送信信号を受信できないので、これらを隠れ端末と呼びます。「アドホック」モードの場合、隠れ端末が存在すると、キャリアセンス(Carrier Sense)がそれらの無線端末に有効に機能しないため、[B]の無線端末で通信の衝突頻度が増加して、スループット(一定時間内に伝送される情報量)が低下します。

通信の衝突を防止するには、[B]の無線端末が送信要求(Rts)信号を送信してくる相手に送信可能(Cts)信号を送ることで、無線伝送エリア内にある[A]および[C]の無線端末にCts信号が届くようになり、[B]の無線端末が通信中は、[A]または[C]の無線端末しか[B]の無線端末にアクセスができないようにして、通信の衝突を防止できます。



- 5.最も通信条件の良い無線アクセスポイントに切り替えられる(ローミングできる)ように、電波強度に対する感度を「高い」～「低い」のあいだで調整します。
(初期値：高い)



APセンシビリティとは

接続されている無線アクセスポイントとの電波強度に対する感度を意味します。インフラストラクチャモードで機能する項目で、通常は出荷時の状態でご使用いただけます。

無線アクセスポイントの設置環境やネットワーク状況の影響でローミング動作がスムーズに行えないとき、この設定を変更すると通信状況が改善されます。

- 感度を「高い」側に設定すると、電波強度に対する感度を上げることで電波強度が比較的弱くなるまでスキャン動作を始めないようになります。
- 感度を「低い」側に設定すると、電波強度に対する感度を下げることで電波強度が比較的強いときからスキャン動作を始めるようになります。

➡ 次のような場合に有効です。

無線アクセスポイントを複数設置してローミングするような使用環境において、電波強度が強く接続条件が良い無線アクセスポイントに近づいているのに、接続条件の良い無線アクセスポイント側に切り替わらないようなとき設定してください。なお、電波強度が比較的弱い環境でお使いになるとき、「低い」側に設定すると煩雑にスキャン動作をして通信が不安定になることがありますので、ご注意ください。

7 設定ユーティリティを使うには

7-5 特殊機能を設定する

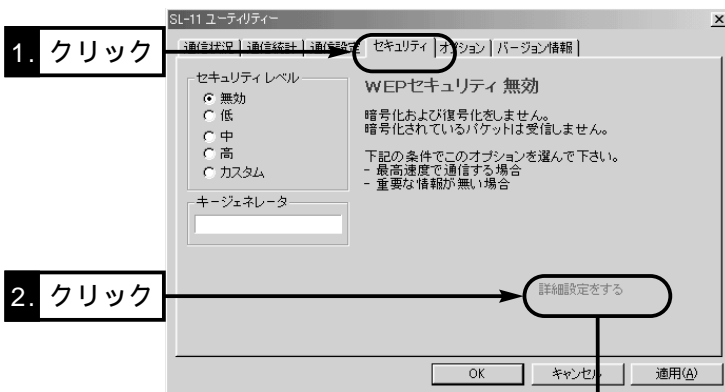
【設定のしかた】(つづき)

6.[セキュリティ]タブをクリックすると、暗号化設定の画面を表示します。

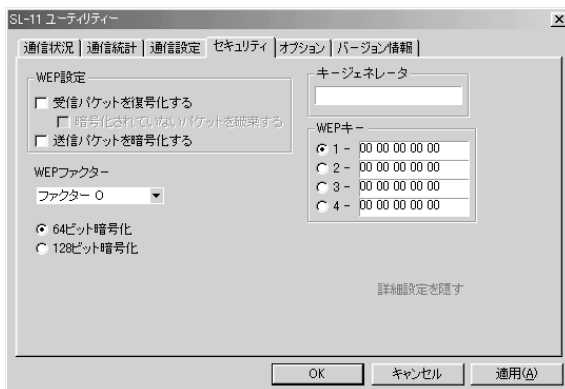
暗号化の方式には、WEP(Wired Equivalent Privacy)を使用しています。

この画面で設定した内容にしたがって詳細設定画面の設定値が自動的に設定されます。

詳細設定画面は、[詳細設定をする]の文字上をクリックすると表示されます。



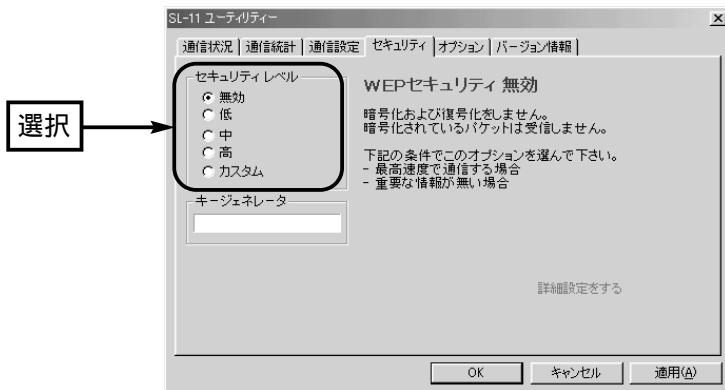
詳細設定画面



7.セキュリティレベルを設定します。 (初期値：無効)

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、データを暗号化する割合を「無し」、「低」、「中」、「高」、「カスタム」の中から選択します。

通信対象となるすべての相手間で設定が同じになるように注意しないと、設定によっては、通信できないことがあります。



次の表は、「無し」、「低」、「中」、「高」のいずれかを選んだとき詳細設定画面(⇒P 67)に自動設定される値についてまとめています。

		WEP設定			WEP ファクター	暗号化ビット数
		受信パケットを復号化する	暗号化されていないパケットを破棄する	送信パケットを暗号化する		
セキュリティレベル	無し	復号化しない	設定無効	暗号化しない	無効	無効
	低	復号化する	破棄しない	暗号化する	3	64ビット暗号化
	中	復号化する	破棄する	暗号化する	0	64ビット暗号化
	高	復号化する	破棄する	暗号化する	0	128ビット暗号化

7 設定ユーティリティを使うには

7-5 特殊機能を設定する

【設定のしかた】(つづき)

セキュリティレベルを設定している端末同士が通信可能なセキュリティレベルは、以下の表のとおりです。 (: 通信可能 x : 通信不可能)

セキュリティレベルが同じでも、通信対象となる相手間でキージェネレーター(⇒P 70)の文字列が異なるときは、通信できません。

セキュリティレベル	無し	低	中	高
無し		x	x	x
低	x			x
中	x			x
高	x	x	x	

WEPファクターについて

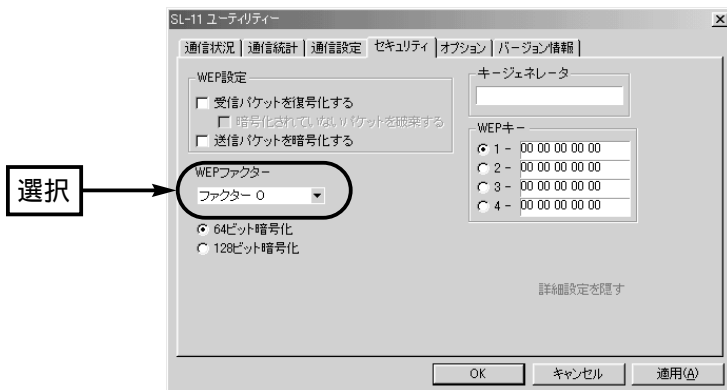
セキュリティレベルをカスタムで設定するとき選択する項目で、「0」を選択すると、一番セキュリティが高くなります。.....(初期値：0)
各値の暗号化レベルは、次のようになります。

「0」= 1パケットごとに内部暗号キーを変更する

「1」= 10パケットごとに内部暗号キーを変更する

「2」= 50パケットごとに内部暗号キーを変更する

「3」= 100パケットごとに内部暗号キーを変更する



8. キージェネレータを設定します。

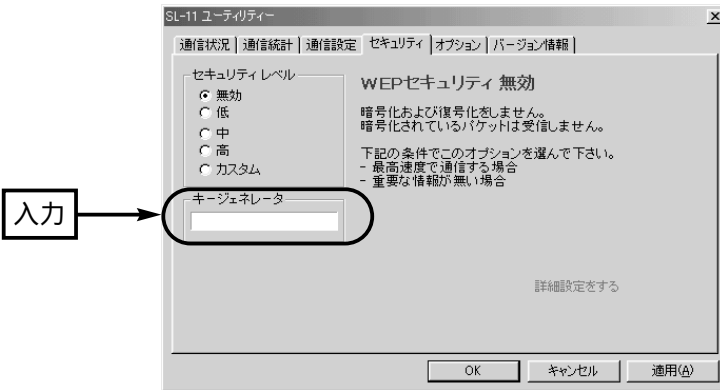
暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を入力します。

通信の対象となる相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字 30文字以内)を入力します。

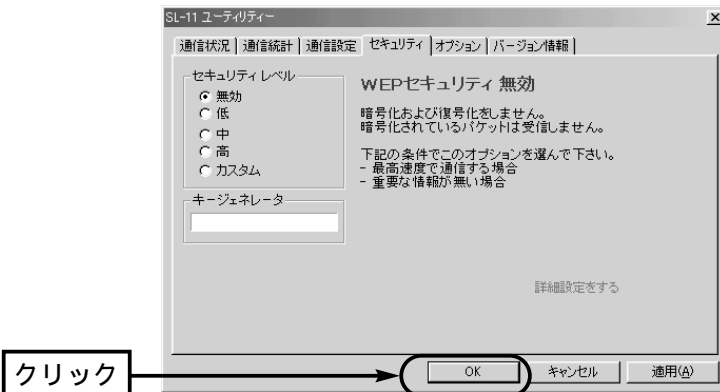
設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できませんのでご注意ください。

何も入力しないときは、その端末同士で通信できます。

暗号化および復号化に使う鍵を 16 進数表記で直接「WEPキー」のテキストボックスに入力するときは、「7-6 キージェネレータのカスタム設定」(P 71) をご覧ください。



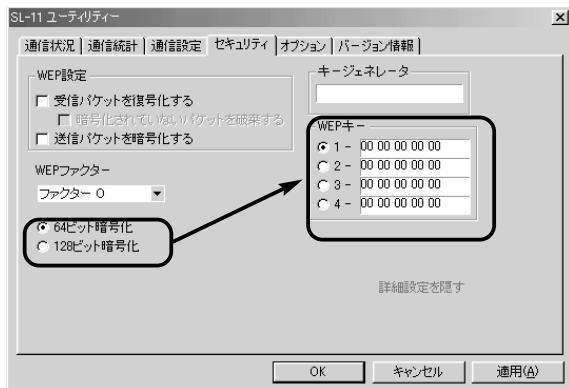
9. 設定が終わったら、OK ボタンをクリックします。



7 設定ユーティリティを使うには

7-6 キージェネレータのカスタム設定

キージェネレータを詳細設定画面でカスタム設定するとき、関係のある項目について説明しています。



64ビット暗号化

64ビットで暗号化したいとき選択します。

「キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーの下位40ビット(16進数:10文字)を「WEPキー」のテキストボックスに表示します。また、10文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。直接入力する場合、「キージェネレータ」のテキストボックス(☞P70)に文字列は、表示されません。

128ビット暗号化

128ビットで暗号化したいとき選択します。

「キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーの下位104ビット(16進数:26文字)を「WEPキー」のテキストボックスに表示します。また、26文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。

直接入力する場合、「キージェネレータ」のテキストボックスに文字列は、表示されません。

WEPキー

暗号化に使うキーを各チェックボックス「[1]、[2]、[3]、[4]」のキー番号のうち、どれかをクリックしてチェックマークを入れます。

チェックマークを入れたテキストボックスに表示された 16 進数の英数字を暗号化に使用して、相手側では、キー番号の右にあるテキストボックスに同じ 16 進数の英数字が設定されているとき復号化(正しく受信)できます。

各テキストボックスには、通信の対象となる相手間で暗号化および復号化に使うキー(半角英数字)を 16 進数で直接入力してください。

なお、通信の対象となる相手間で暗号化ビット数(⇒P 71)の設定が異なったり、暗号化および復号化に使うテキストボックスの内容が異なるときは通信できません。

各テキストボックスには、通信の対象となる相手間で同じ内容に設定されることをおすすめします。そのようにしておくと、相手間でキー番号の設定が異なっても、そのテキストボックスの内容が同じなので通信できます。

[例：WEPキーが 64ビット暗号化に設定されているとき]

WEPキー <input checked="" type="checkbox"/> 1 - 76 C8 C0 F5 72 <input type="checkbox"/> 2 - 50 AC 7E 6D E4 <input type="checkbox"/> 3 - 28 29 B4 F7 C4 <input type="checkbox"/> 4 - 7E C9 76 90 12	双方向通信可能 	WEPキー <input type="checkbox"/> 1 - 76 C8 C0 F5 72 <input checked="" type="checkbox"/> 2 - 50 AC 7E 6D E4 <input type="checkbox"/> 3 - 28 29 B4 F7 C4 <input type="checkbox"/> 4 - 7E C9 76 90 12
WEPキー <input checked="" type="checkbox"/> 1 - 76 C8 C0 F5 72 <input type="checkbox"/> 2 - 50 AC 7E 6D E4 <input type="checkbox"/> 3 - 28 29 B4 F7 C4 <input type="checkbox"/> 4 - 7E C9 76 90 12	双方向通信可能 	WEPキー <input type="checkbox"/> 1 - 76 C8 C0 F5 72 <input type="checkbox"/> 2 - 50 AC 7E 6D E4 <input type="checkbox"/> 3 - 28 29 B4 F7 C4 <input checked="" type="checkbox"/> 4 - 7E C9 76 90 12
WEPキー <input checked="" type="checkbox"/> 1 - 76 C8 C0 F5 72 <input type="checkbox"/> 2 - 50 AC 7E 6D E4 <input type="checkbox"/> 3 - 28 29 B4 F7 C4 <input type="checkbox"/> 4 - 7E C9 76 90 12	通信不可能 	WEPキー <input type="checkbox"/> 1 - 7E C9 76 90 12 <input type="checkbox"/> 2 - 50 AC 7E 6D E4 <input type="checkbox"/> 3 - 28 29 B4 F7 C4 <input checked="" type="checkbox"/> 4 - 76 C8 C0 F5 72

7 設定ユーティリティを使うには

7-7 監視モニターについて

設定ユーティリティには、通信状況を監視するモニター画面が用意されていますので、このモニターの画面について説明します。

「通信状況」画面



ステーション

本製品のMACアドレスおよびIPアドレスを表示します。

MACアドレスは、それぞれのネットワーク製品に割り当てられた固有のもので、同じアドレスは存在しません。弊社製アクセスポイントにこのアドレスを登録することで、その他のMACアドレスを持つ無線通信LANカードからはアクセスできないように制限することができます。

接続状況

現在の設定や通信状態を表示します。

アクセスポイント

「インフラストラクチャ」モード(⇒P 49)で通信が行われているときは、本製品がアクセスできるアクセスポイント側の情報を表示します。

電波の品質(強度)

無線アクセスポイントから受信できる電波の強さを表示するエリアです。

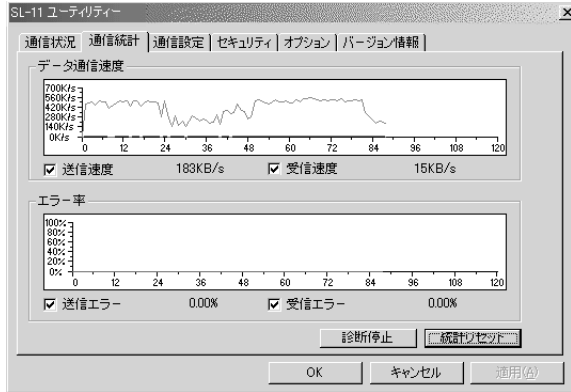
「アドホック」モード(⇒P 47)で使っているときは、表示されていますが、機能していません。

IPアドレス更新 ボタン

DHCPサーバーからIPアドレスを再取得します。

ネットワークモードがインフラストラクチャに設定されていて、DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得できる場合だけ機能します。

「通信統計」画面

**診断停止 ボタン**

診断結果を表示するグラフ描画を停止するボタンです。

診断再開 ボタン

診断結果を表示するグラフ描画を再開するボタンです。(診断を停止させると、表示します。)

統計リセット ボタン

描画中のグラフを消去して、再度描画を開始するボタンです。

「送信速度」表示

チェックボックスにチェックマークが入っていると、データ送信速度を1秒ごとに表示します。

「受信速度」表示

チェックボックスにチェックマークが入っていると、データ受信速度を1秒ごとに表示します。

「送信エラー」表示

チェックボックスにチェックマークが入っていると、1秒間に正しく送信されなかった割合をパーセンテージで表示します。

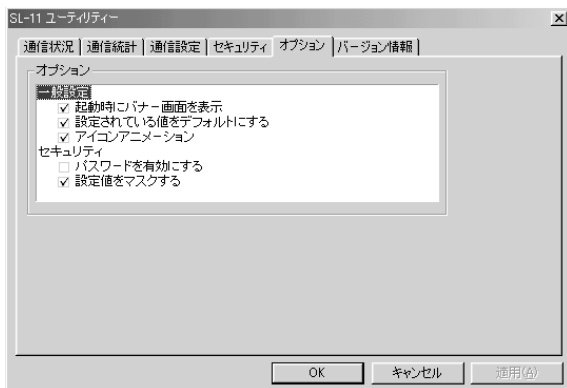
「受信エラー」表示

チェックボックスにチェックマークが入っていると、1秒間に受信したパケットの中で誤りがある割合をパーセンテージで表示します。

7 設定ユーティリティを使うには

7-7 監視モニターについて(つづき)

「オプション」画面



オプション

このユーティリティについて、設定する項目です。

各チェックボックスにチェックマークを入れて、適用(A) ボタンをクリックすると、その項目が有効になります。

《一般設定》

「起動時にパナー画面を表示」を有効にすると、設定ユーティリティを起動(⇒P 59)したとき、ユーティリティ名を一時的に表示します。

「設定されている値をデフォルトにする」を無効にしてコンピューターを再起動すると、設定ユーティリティで変更する前の値に戻って通信が行えます。

一時的に、設定を変更したいときに使うと便利な機能です。

「アイコンアニメーション」は、タスクバーのアイコンにⓈ?×が表示されたとき、その部分を動画で表示します。

《セキュリティ》

「パスワードを有効にする」を有効にしてパスワードを設定すると、次の起動時から、設定したパスワードの入力を求められます。

パスワードは、半角英数字で28文字まで設定できます。

設定ユーティリティの起動を管理者だけに許可したいとき設定してください。

「設定値をマスクする」を有効にすると、設定された値をのぞき見られないように、「キージェネレータ」と「WEPキー」のテキストボックスに入力された英数字を[* *]表示に変更します。

「バージョン情報」画面

**ユーティリティ**

設定ユーティリティーのバージョン情報を表示します。

ドライバ

本製品のドライバーのバージョン情報を表示します。

ファームウェア

本製品のファームウェアのバージョン情報を表示します。

ファームウェアは、本製品を動作させるために工場出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。

【最新バージョンとその更新について】

ドライバーや設定ユーティリティー、ファームウェアは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップを行うことがあります。

弊社ホームページでアップデート用ファイルが提供されているときは、このエリアで現在のバージョンを確認してから、ダウンロードしたアップデート用ファイルに更新してください。なお、ダウンロードの際は、ご利用ライセンス契約書をよくお読みください。

アップデートのしかたについては、弊社ホームページ、およびダウンロードしたファイルにテキストが付属しているときは、その内容をご覧ください。

7 設定ユーティリティを使うには

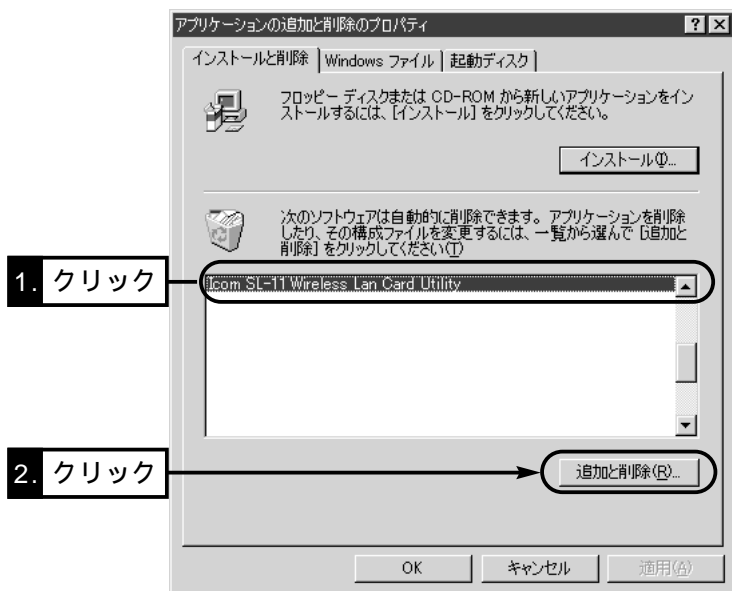
7-8 アンインストールのしかた

設定ユーティリティをコンピューターから削除する手順について、Windows 98を例に説明します。

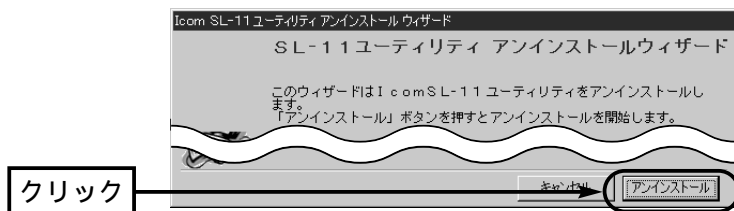
そのほかのOSをご使用の場合は、この手順を参考に、そのOSでアンインストールするときの手順に従ってください。

【アンインストールの手順】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [アプリケーションの追加と削除]の順番に操作します。
- 2.「Icom SL-11 Wireless Lan Card Utility」 追加と削除(R)... の順番にクリックします。



3. アンインストール をクリックします。



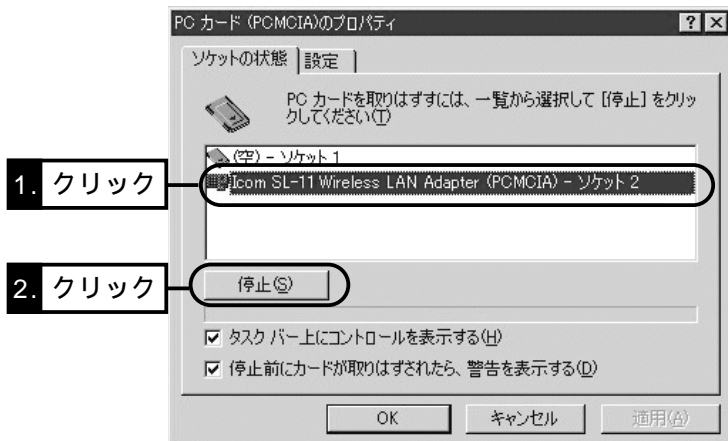
Windows95/98/2000/Meの「Plug and Play」により、コンピューターの電源を入れたまま、本製品を取り外す手順について、Windows98を例に説明します。なお、コンピューターの電源が切れているときは、コンピューターの取扱説明書にしたがって本製品をPCカードスロットから取り外してください。

コンピューターの電源が入っているときは、次の手順を守らないと、システムが暴走することがあります。

WindowsNT4.0をご使用の場合は、コンピューターの電源を切ってから、本製品をPCカードスロットから取り外してください。

【取り外すときの手順】

1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [PCカード (PCMCIA)] アイコンの順番に操作します。
2. 「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 停止(S) の順番にクリックします。



3. OK をクリックします。



Windows 95/98を例にインストールされた本製品のドライバーを削除する必要のある場合の手順について説明します。

PCカードスロットへの装着状態によって、削除のしかたが2とおりあります。

A. 本製品をPCカードスロットに装着しているとき

[デバイスマネージャ]から削除できます。

装着されていないときは、[デバイスマネージャ]から削除できません。

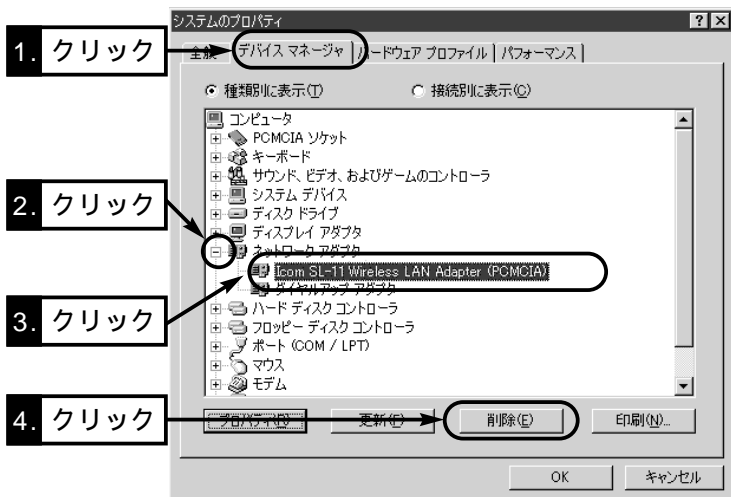
B. 本製品をPCカードスロットに装着していないとき

[ネットワークの設定]から削除できます。

そのほかのOSをご使用の場合は、この手順を参考に、そのOSでドライバーをアンインストールするときの手順に従ってください。

A PCカードスロットに装着した状態で削除する手順

1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
2. 「コントロール パネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
3. [デバイスマネージャ]タブ 「ネットワークアダプタ」の[+]をクリックします。
「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 削除(E) の順番にクリックします。

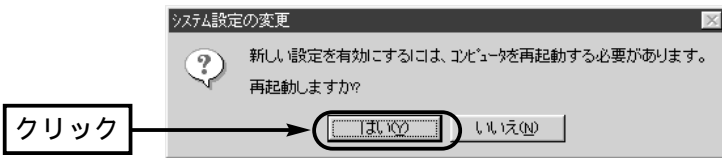


A PCカードスロットに装着した状態で削除する手順(つづき)

4. OK をクリックします。



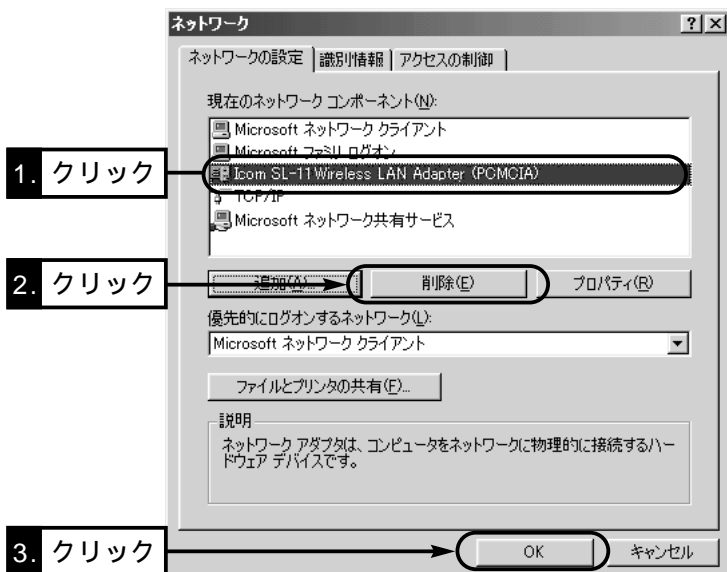
5. はい(Y) をクリックすると、コンピューターが再起動してアンインストールは完了です。



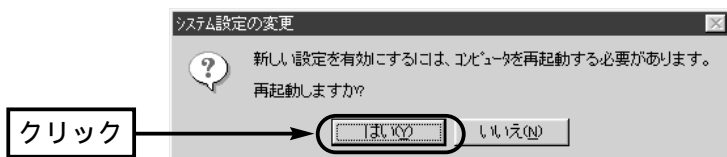
9 ドライバーのアンインストール

☑ PCカードスロットに装着しない状態で削除する手順

1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
2. 「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 削除(E) OK の順番にクリックします。



3. はい(Y) をクリックすると、コンピューターが再起動してアンインストールは完了です。



10-1 トラブルシューティング

OS共通のトラブル

- PCカードスロットがひとつしか内蔵されていないため、インストールの過程で必要な外部CD-ROMドライブが接続できないときは？

本製品のドライバーをインストールする前に、OSのシステムソフトウェアの内容をハードディスクにコピーしてください。

システムソフトウェアが収められているディレクトリー名は、ご使用になるOSによって異なります。

それぞれのディレクトリー名は、以下の通りです。

Windows95 「Win95」ディレクトリー、Windows98 「Win98」ディレクトリー、WindowsNT4.0/2000 「1386」ディレクトリー

インストール中にOSのCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは、CD-ROMの代わりにハードディスク内にコピーしたディレクトリー名を指定してください。

- 本製品をPCカードスロットに装着できないときは？

PCカードスロットを2つ装備するコンピューターで、本製品を下側のPCカードスロットに装着しているときは、上側のPCカードスロットに装着してください。

本製品の装着する正しい方向をお使いのコンピューターの取扱説明書で確認してください。

- 弊社製アクセスポイントにアクセスできないときは？

無線通信モードが「インフラストラクチャ」モード(☞P 49)に設定されていることを確認してください。

ESS IDが弊社製アクセスポイントと同じであることを確認してください。

弊社製アクセスポイントに「MACアドレスセキュリティ」または「WEP」機能が設定されていないことを確認してください。

- ネットワークが見えないときは？

本製品をインストールしたとき、TCP/IPプロトコルやMicrosoft Networkクライアント、Microsoft ネットワーク共有サービスが正しく組み込まれていることを、「5 無線ネットワークへの接続準備」(☞P 38)の説明にしたがって確認してください。

10 安全上のご注意

10-1 トラブルシューティング

OS共通のトラブル(つづき)

- 無線端末同士で通信ができないときは？

無線通信モードが「アドホック」モード(⇒P 47)に設定されていることを確認してください。

ワークグループ(⇒P 44)が通信の対象となる無線端末と同じであることを確認してください。

- 設定ユーティリティーがインストールできない。

ご使用のOSを確認してください。
Windows95の場合は、対応していませんので、本製品のCD-ROMディスクをCD-ROMドライブに挿入すると次の画面が表示されます。



Windows95/98環境でのトラブル

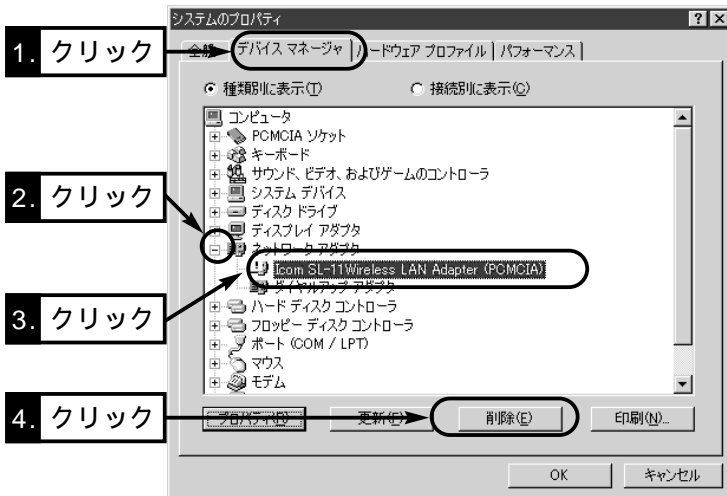
- 「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」のアイコンに「!」や「x」マークが付いていたり、「? その他のデバイス」という項目に「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」が表示されてたら？

ドライバーのインストールに失敗している可能性があります。

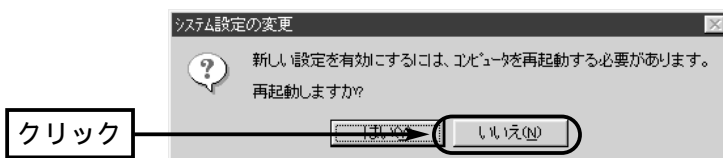
次の手順にしたがって、ドライバーを削除してから再インストールを行います。

- 1.本製品をコンピューターに装着します。
- 2.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 3.「コントロール パネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 4.[デバイスマネージャ]タブ 「ネットワークアダプタ」の[+]をクリックします。

「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」 削除(E) の順番にクリックします。



5. いいえ(N) をクリックします。

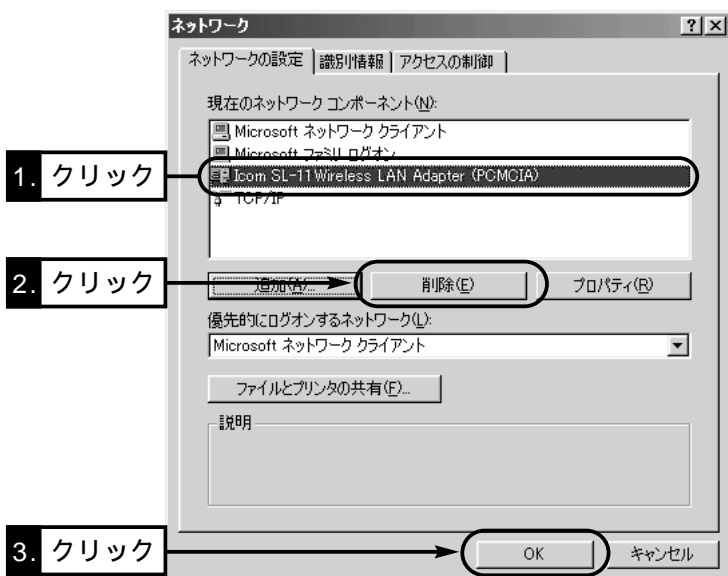


10 困ったときは

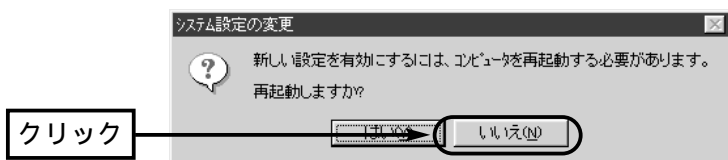
10-1 トラブルシューティング

Windows95/98環境でのトラブル(つづき)

- 6.[現在のネットワークコンポーネント(N)]の中に「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」と表示されている項目がある場合は、その上をクリックしてから 削除(E) OK の順番にクリックします。



- 7.次の画面が表示された場合は、いいえ(N) をクリックします。



- 8.マウスを スタート [検索(E)] [ファイルやフォルダ(E)...]の順番に操作します。

- 9.[名前(N)]のテキストボックスに「sl11」と入力して、 検索開始(I) をクリックします。

- 10.検索結果のリストから、「ICOMSL11.INF」を選んで削除します。

同じ名前が見つからないときは、「C:¥WINDOWS¥INF¥OTHER」フォルダー内にある「SL11.INF」ファイルを削除してください。

11. 「ゴミ箱に移してもよろしいですか?」という内容の画面が表示されますので、はい(Y) をクリックします。
 12. マウスを スタート [Windowsの終了(U)] [電源を切れる状態にする(S)]の順番に操作して、コンピューターの電源を切ります。
 13. ドライバーの削除が完了したら、「4 ドライバーのインストール」(P 9)を参照して、再度ドライバーのインストールを行ってください。
- 「ネットワーク」画面の中に「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていないときは?
次の手順にしたがって「Microsoft ネットワーククライアント」を追加してください。
 1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
 2. 追加(A)... をクリックします。

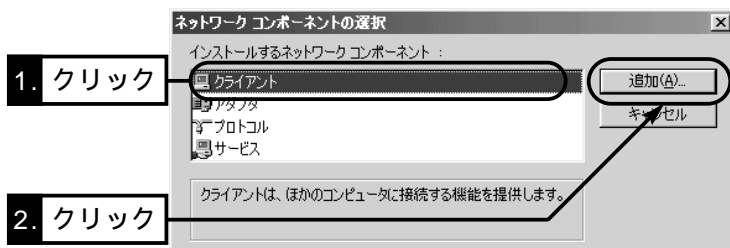


10 困ったときは

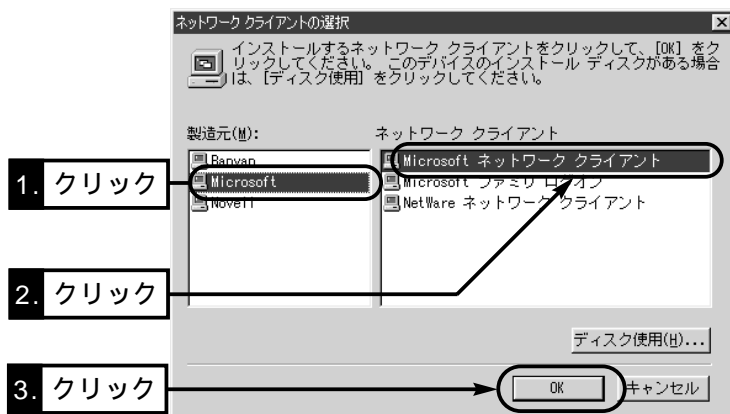
10-1 トラブルシューティング

Windows95/98環境でのトラブル(つづき)

- 3.[インストールするネットワークコンポーネント:]の中の、「クライアント」追加(A)... の順番にクリックします。



- 4.マウスを[製造元(M):]の中の「Microsoft」 [ネットワーククライアント]の中の「Microsoft ネットワーククライアント」 OK の順番に操作します。

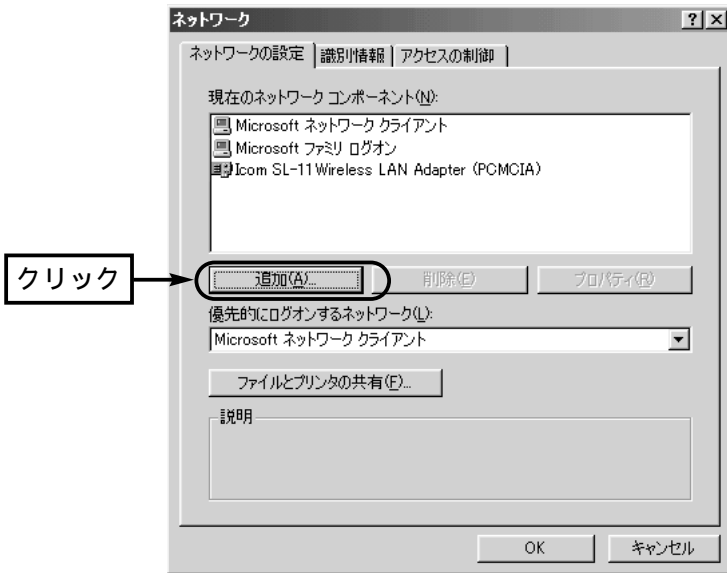


- 5.手順2.の画面で、 OK をクリックします。

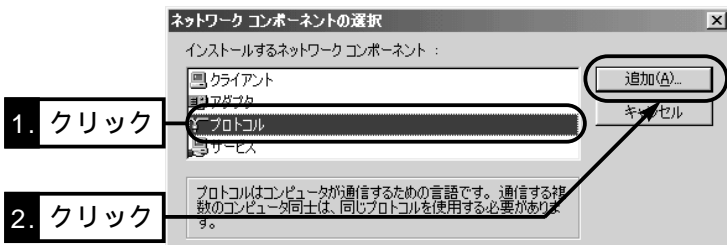
- 「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」が表示されていないときは？

次の手順にしたがって「TCP/IP」を追加してください。

1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク] アイコンの順番に操作します。
2. 追加(A)... をクリックします。



3. [インストールするネットワーク コンポーネント:] の中の、「プロトコル」追加(A)... の順番にクリックします。

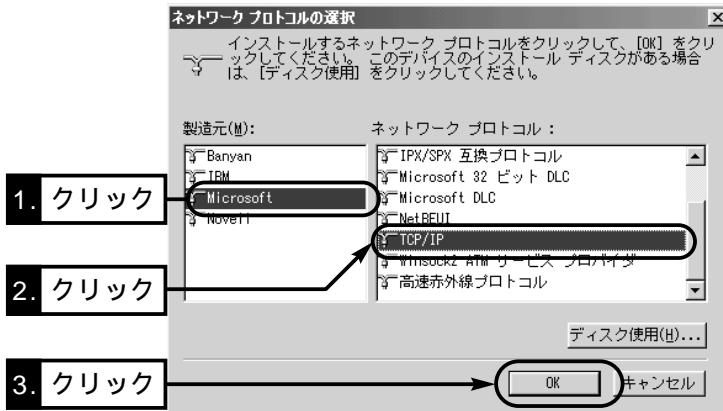


10 困ったときは

10-1 トラブルシューティング

Windows95/98環境でのトラブル(つづき)

4.マウスを[製造元(M)]の中の「Microsoft」 [ネットワーククライアント:]の中の「TCP/IP」 OK の順番に操作します。



5.手順2.の画面で、OK をクリックします。

- 本製品が正常に動作しないときは？

ご使用のコンピューターに「パワーマネージメント機能」が設定されていないことを確認してください。(Windows98を除く)

設定されているときは、コンピューターを操作しない状態が続いても、サスペンドしないように、この機能を無効にしてください。

WindowsNT4.0/2000環境でのトラブル

- 「イベントビューア」でデバイスの競合が見つかったときは？

スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の[ネットワーク]アイコンから本製品のプロパティを開き、ほかのデバイスと競合しないようにリソースの設定を変更してください。

- 本製品が正常に動作しないときは？

ご使用のコンピューターに「パワーマネージメント機能」が設定されていないことを確認してください。(Windows2000を除く)

設定されているときは、コンピューターを操作しない状態が続いても、サスペンドしないように、この機能を無効にしてください。

10-2 pingコマンドを使って接続を確認する

次の操作をすると、IPパケットが相手先に正しく届いているかどうかを確認できます。

1.マウスを スタート [プログラム(P)] [MS-DOSプロンプト]の順番に操作します。

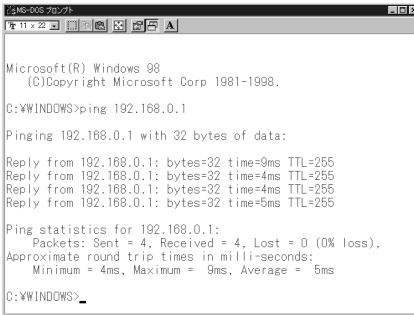
Windows2000では、 スタート [プログラム(P)] [アクセサリ] [コマンド プロンプト]の順番に操作します。

2.PINGコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。

例として、相手先のIPアドレスを「192.168.0.1」として説明します。

ping 192.168.0.1と入力して、[Enter]キーを押します。

3.接続が正常なときは、画面に次のような結果を表示します。



```
Microsoft(R) Windows 98
(C) Copyright Microsoft Corp. 1981-1998.

C:\WINDOWS>ping 192.168.0.1

Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=9ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=4ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=4ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=5ms TTL=255

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 4ms, Maximum = 9ms, Average = 5ms

C:\WINDOWS>
```

画面中の応答時間などの数値については、ご使用のネットワーク環境によって異なります。

10 困ったときは

10-3 故障のときは

- 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とコンピューターの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

一般仕様

- 国 際 規 格 : IEEE 802.11/IEEE 802.11準拠
- 国 内 規 格 : ARIB STD-33/ARIB STD-T66
- 通 信 方 式 : 単信方式
- 電 波 方 式 : 直接スペクトラム拡散
- 周 波 数 帯 域 : 2400 ~ 2497MHz(全 14ch)
- データ伝送速度 : 自動/ 11/ 5.5 / 2 / 1 Mbps
- 伝 送 距 離 : 屋内約50m、屋外約150m(見通し)
- 暗号化処理 : Wired Equivalent Privacy(WEP)
- 使用温度条件 : 温度 0 ~ + 50
- 保存温度条件 : 温度 - 20 ~ + 80 (結露しないこと)
- 内蔵アンテナ : ダイバーシティーアンテナ
- 入力電 圧 : DC 5.0V ± 5%
- 消費電 流 : 受信時 = 250mA(Max.)
送信時 = 350mA(Max.)
- 外形寸 法 : 124.0(W) × 8.5(H) × 54.0(D)mm
(アンテナを含む)
- 重 量 : 約 50g

送信部

- 送 信 出 力 : 10mW/MHz以下
- スプリアス発射強度 : 25 μW以下(2458MHz $f < 2471$ MHz)
(14ch使用時) 2.5 μW以下(2458MHz $> f$)
25 μW以下(2497MHz $< f < 2510$ MHz)
2.5 μW以下(2510MHz $< f$)
- スプリアス発射強度 : 25 μW以下(2387MHz $f < 2400$ MHz)
(1 ~ 13ch使用時) 2.5 μW以下(2387MHz $> f$)
25 μW以下(2483.5MHz $< f < 2496.5$ MHz)
2.5 μW以下(2496.5MHz $< f$)
上記のfは、使用周波数帯を除いた周波数です。

受信部

- 受 信 感 度 : - 76dBm以下(フレームエラーレート= 8%)
- 復 調 方 式 : デジタル復調(マッチドフィルタ方式)
- スプリアス妨害限度 : 4 nW以下(1GHz未満) 20nW以下(1GHz以上)
定格・仕様・外觀等は改良のため予告なく変更する場合があります。
伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。



SL-11

インストール マニュアル

簡単インストール

Windows98/SE編	2
Windows Me編	5
Windows2000編	8
再インストールについて	11

本製品を装着する前にお読みください。

本書で説明するドライバーのインストールに対応するコンピュータのOSは、下記の通りです。

Windows98、Windows98SE、WindowsMe、Windows2000

ドライバーをインストールとき、本製品の装着は、本書で指定する手順で行ってください。

最初に装着してもインストールできますが、このような場合、本書で説明する手順でインストールおよびアンインストールできませんので、注意してください。

最初に装着された場合は、本製品に付属の取扱説明書をご覧になるか、本書とは別にCD-ROMに収められた取扱説明書(PDF)をご覧ください。

本製品の設定や上記以外のOSでご使用になるときは、本製品に付属の取扱説明書をご覧になるか、本書とは別にCD-ROMに収められた取扱説明書(PDF)をご覧ください。

取扱説明書で、「Icom SL-11 Wireless LAN Adapter (PCMCIA)」と表記されている部分は、「Icom Wireless LAN SL-11 (Pcmcia 5V)」と置き換えてお読みください。

ドライバーのインストール

ご使用のOSのCD-ROMをご用意ください。
 本製品のドライバーのインストールを始める前に、OSのシステムソフトウェアの内容(Win98フォルダー)をハードディスクにコピーしておいてください。
 インストール中にOSのCD-ROMを要求されたら、CD-ROMの代わりに、コピーした「Win98フォルダー」を指定してください。

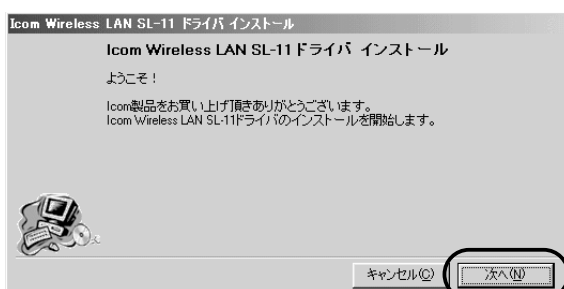
設定ユーティリティーをインストールする手順について説明します。
 本製品を使って通信するすべてのコンピューターにインストールしてください。

【インストールの手順】

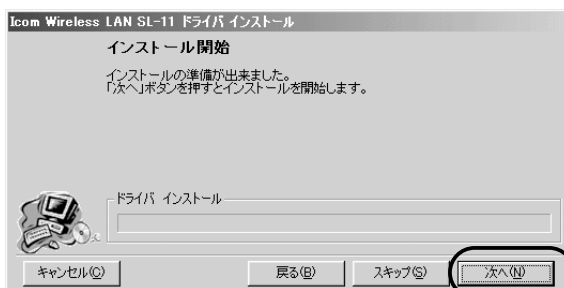
- 1.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 2.本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入します。
- 3.CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面が表示されます。
4. ドライバ インストール ボタンをクリックします。



5. 次へ(N) をクリックします。



6. 次へ(N) をクリックします。
 ●インストールを開始します。



- 7.OSの「Win98フォルダー」をハードディスクにコピーしていることを確認して、OK をクリックします。



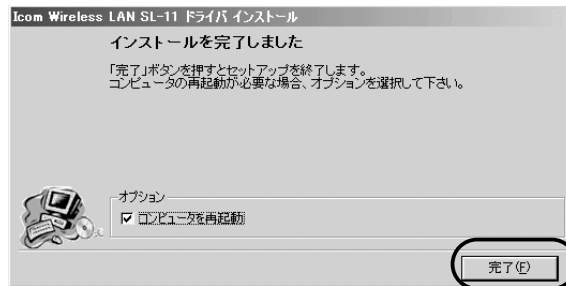
Auto Run機能が動作しないときは
 エクスプローラーで、本製品に付属するCD-ROMドライブの中に「Disk1」または「Disk2」フォルダーがあることを確認します。
 「Disk2」フォルダーに収められた「Driver」フォルダーの中の「Setup.exe」をダブルクリックして、手順5.以降の操作を行います。

ドライバーのインストール(つづき)

8.OSのCD-ROMの代わりに、コピーした「Win98フォルダー」を指定してから OK をクリックします。

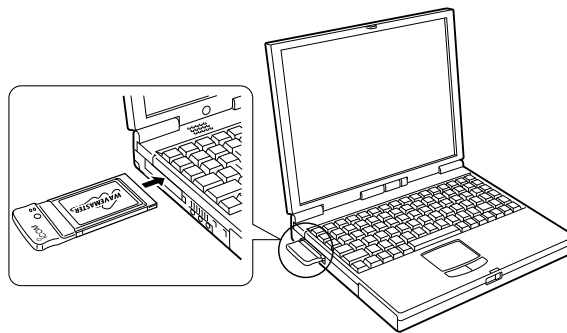


9. 完了(E) をクリックします。



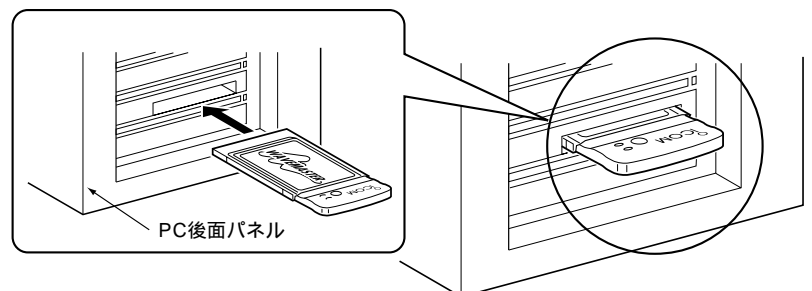
10.本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに、WAVEMASTERのシールが貼られた面を上にして挿入します。なお、メーカーによっては異なることがありますので、ご注意ください。

コンピューターから電源が供給されると、[POWER]ランプが点灯します。



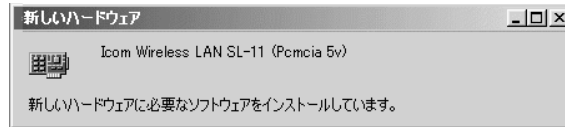
本製品をデスクトップ型コンピューターに取り付けるには、PCMCIAカードアダプターが装備されている必要があります。

装備されていないときは、あらかじめ取り付けておく必要があります。

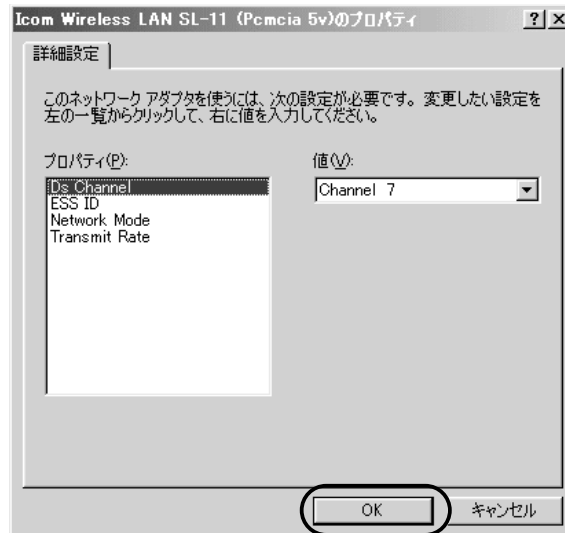


ドライバーのインストール(つづき)

11. コンピューターが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。



12. 本製品の設定は、あとからでも行えますので、そのまま **OK** をクリックします。(⇒取扱説明書の5～7章)



13. **OK** をクリックします。



14. 本製品のドライバーが収められたCD-ROMディスクのCD-ROMドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Disk2¥Driver)してから、**次へ(N)** をクリックします。



15. 手順7.～8.の画面が表示されたときは、同じ操作を行います。
 16. 本製品に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出して、コンピューターを再起動すると完了です。
 17. 再起動後、「ネットワークのパスワード入力」画面が表示されたときは、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をテキストボックスに入力してから、**OK** をクリックします。

ドライバーのインストール

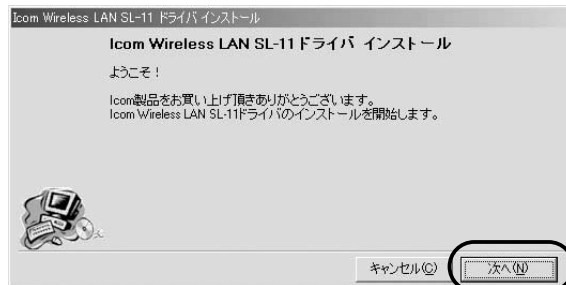
設定ユーティリティをインストールする手順について説明します。
本製品を使って通信するすべてのコンピューターにインストールしてください。

【インストールの手順】

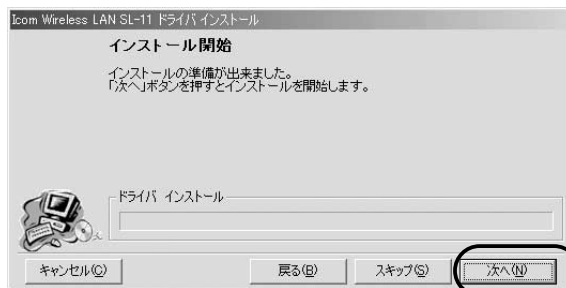
1. 現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
2. 本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入します。
3. CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面が表示されます。
4. ドライバ インストール ボタンをクリックします。



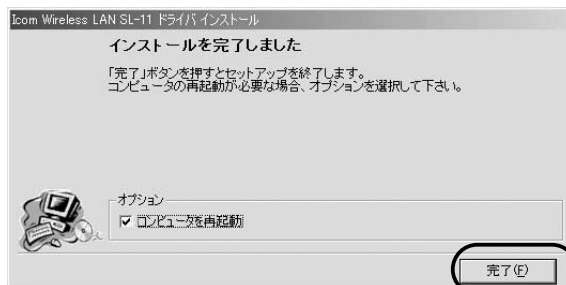
5. 次へ(N) をクリックします。



6. 次へ(N) をクリックします。
● インストールを開始します。



7. 完了(F) をクリックします。

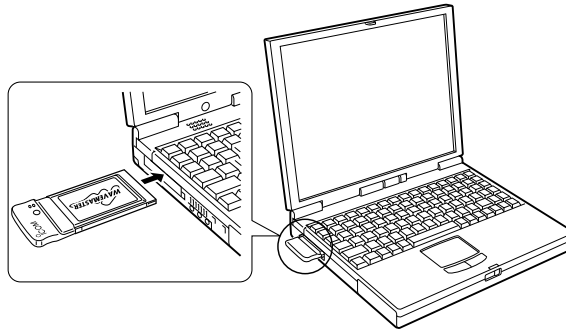


Auto Run機能が動作しないときは
エクスプローラーで、本製品に付属するCD-ROMドライブの中に「Disk1」
または「Disk2」フォルダーがあることを確認します。
「Disk2」フォルダーに収められた「Driver」フォルダーの中の「Setup.exe」
をダブルクリックして、手順5.以降の操作を行います。

ドライバーのインストール(つづき)

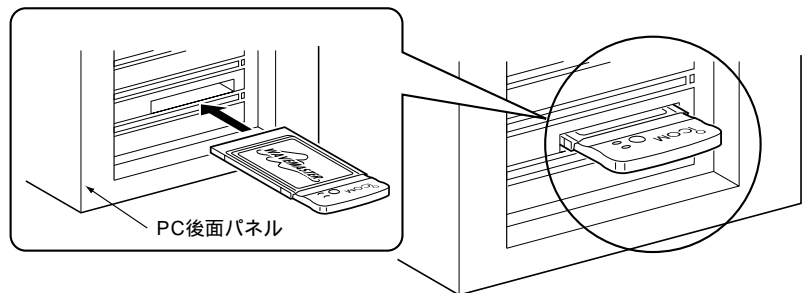
8.本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに、WAVEMASTERのシールが貼られた面を上にして挿入します。なお、メーカーによっては異なることがありますので、ご注意ください。

コンピューターから電源が供給されると、[POWER]ランプが点灯します。

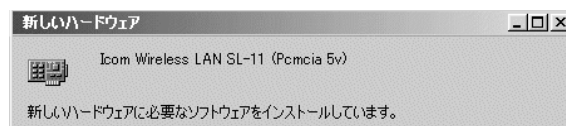


本製品をデスクトップ型コンピューターに取り付けるには、PCMCIAカードアダプターが装備されている必要があります。

装備されていないときは、あらかじめ取り付けておく必要があります。



9.コンピューターが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。



ドライバーのインストール(つづき)

10. 本製品の設定は、あとからでも行えますので、そのまま **OK** をクリックします。(⇒取扱説明書の5～7章)



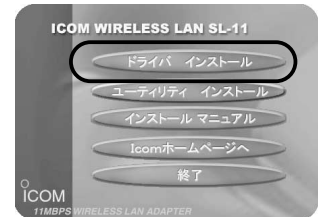
11. 本製品に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出して、コンピューターを再起動すると完了です。

ドライバーのインストール

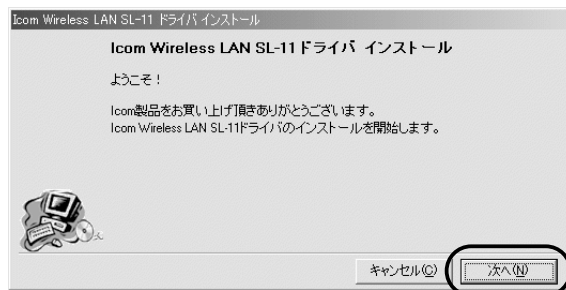
設定ユーティリティーをインストールする手順について説明します。
本製品を使って通信するすべてのコンピューターにインストールしてください。

【インストールの手順】

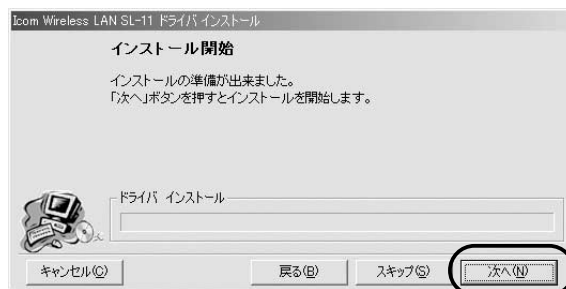
- 1.コンピューターの電源を入れて、Administrator権限でログオンします。
- 2.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 3.本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入します。
- 4.CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面が表示されます。
5. ドライバ インストール ボタンをクリックします。



6. 次へ(N) をクリックします。



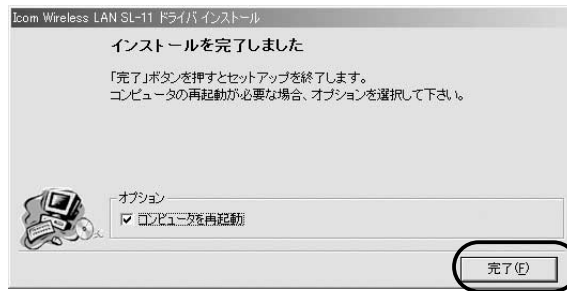
7. 次へ(N) をクリックします。
 - インストールを開始します。



Auto Run機能が動作しないときは
エクスプローラーで、本製品に付属するCD-ROMドライブの中に「Disk1」
または「Disk2」フォルダーがあることを確認します。
「Disk2」フォルダーに収められた「Driver」フォルダーの中の「Setup.exe」
をダブルクリックして、手順6.以降の操作を行います。

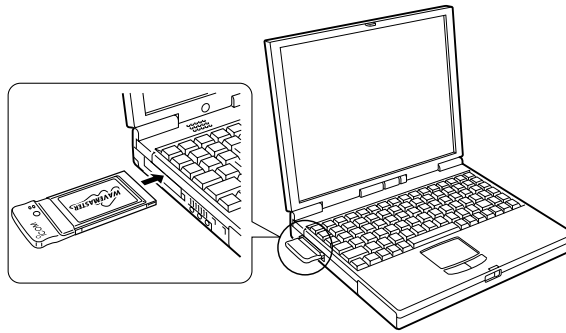
ドライバーのインストール(つづき)

8. 完了(E) をクリックします。



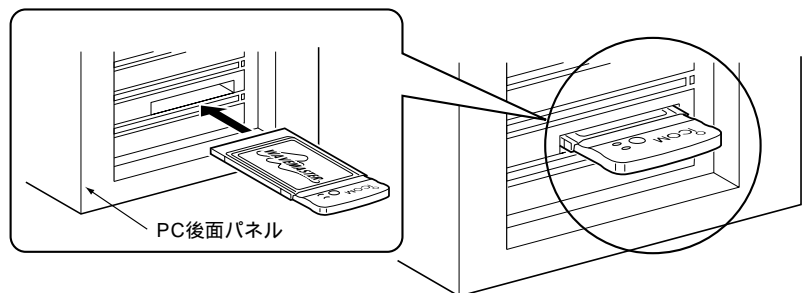
9.本製品をコンピューターのPCMCIAスロットに、WAVEMASTERのシールが貼られた面を上にして挿入します。なお、メーカーによっては異なることがありますので、ご注意ください。

コンピューターから電源が供給されると、[POWER]ランプが点灯します。

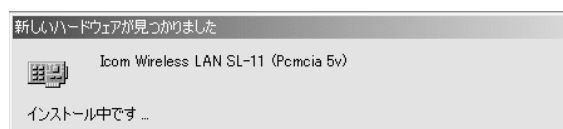


本製品をデスクトップ型コンピューターに取り付けるには、PCMCIAカードアダプターが装備されている必要があります。

装備されていないときは、あらかじめ取り付けておく必要があります。

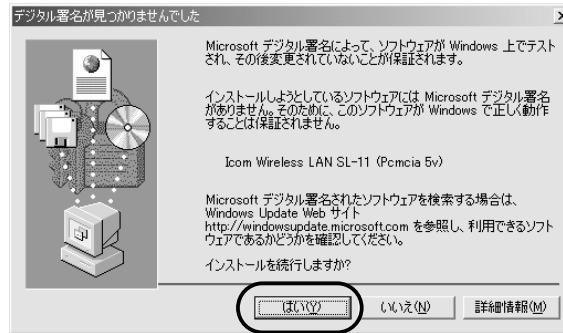


10.コンピューターが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。



ドライバーのインストール(つづき)

11. はい(Y) をクリックします。



12.本製品に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出すと完了です。

- 本製品の設定は、取扱説明書の5～7章をご覧ください。

本製品の再インストールを行うときは、次の手順で行うと便利です。

【再インストールの手順】

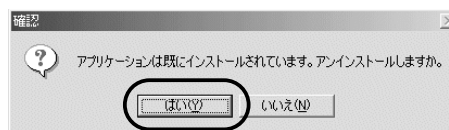
1. 本製品をコンピューターから外します。
2. 現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
3. 本製品のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブ[D:](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入します。
4. CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面が表示されます。
5. ドライバ インストール ボタンをクリックします。



6. 次へ(N) をクリックします。



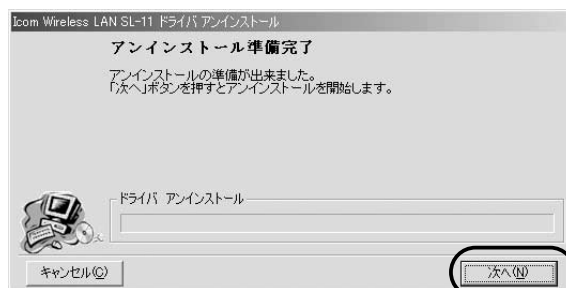
7. はい(Y) をクリックします。



8. アンインストール(U) をクリックします。

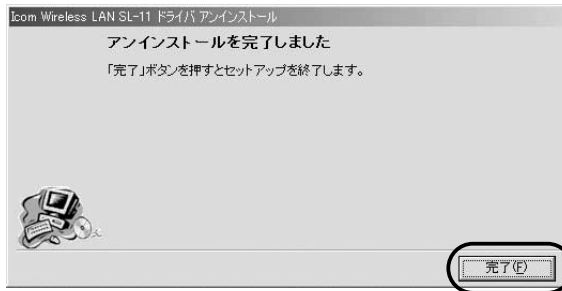


9. 次へ(N) をクリックします。

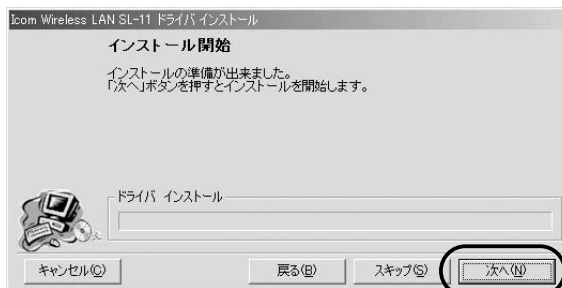


再インストール(つづき)

10. 完了(E) をクリックします。



11. 次へ(N) をクリックすると、再びインストールを同じ手順で行えます。



アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
 本製品のドライバーをWindows^{XP}にインストールする手順について説明します。
 ほかのOSでご使用の場合とは手順が異なりますので、ご使用前に、よくお読みくださいますようお願い申し上げます。

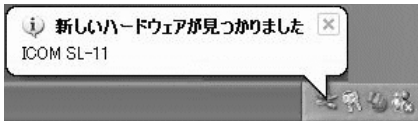
1 付属のCD-ROMセットする

本製品のドライバーは、付属のCD-ROMに収められています。

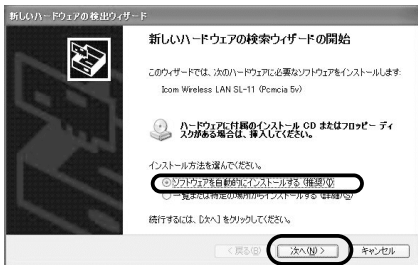
- ① 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入します。
- ② メニュー画面が表示されたら、**終了** をクリックします。

2 ドライバーのインストール

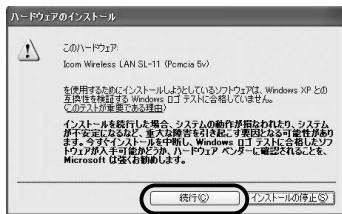
- ① 本製品をPCカードスロットに装着します。
- ② 本製品の[POWER]ランプが点灯して、次の画面をタスクバーに表示します。



- ③ 次の画面の部分をクリックします。



- ④ ドライバーを検索する画面を表示中に、次の画面が表示されますので、**続行(F)** をクリックします。



インストール中は、次の画面を表示します。



- ⑤ 次の画面で、**完了** をクリックします。



アイコム株式会社

本社 547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32
 北海道営業所 080-0041 札幌市中央区大通東3-14 TEL 011-251-3888
 仙台営業所 983-0857 仙台市宮城野区東十番丁54-1 TEL 022-298-6211
 東京営業所 130-0021 東京都墨田区緑1-22-14 TEL 03-5600-0331
 名古屋営業所 466-0015 名古屋市昭和区御器所通2-24 TEL 052-842-2288

大阪営業所 547-0004 大阪市平野区加美南1-6-19 TEL 06-6793-0331
 広島営業所 733-0842 広島市西区井口3-1-1 TEL 082-501-4321
 四国営業所 760-0071 高松市藤塚町3-19-43 TEL 087-835-3723
 九州営業所 815-0032 福岡市南区藤原4-5-48 TEL 092-541-0211

高品質がテーマです。